

14.5-721



1200501213468

5

721

愛知縣

指定史蹟名勝天然紀念物
國宝(宝物、建造物)



始



愛知縣

指定史蹟名勝天然紀念物
國寶
建造物

愛知縣



目

次

一、愛知縣內(史蹟各勝天然紀念物指定地) 寶(建)造(物)分布圖……………一頁

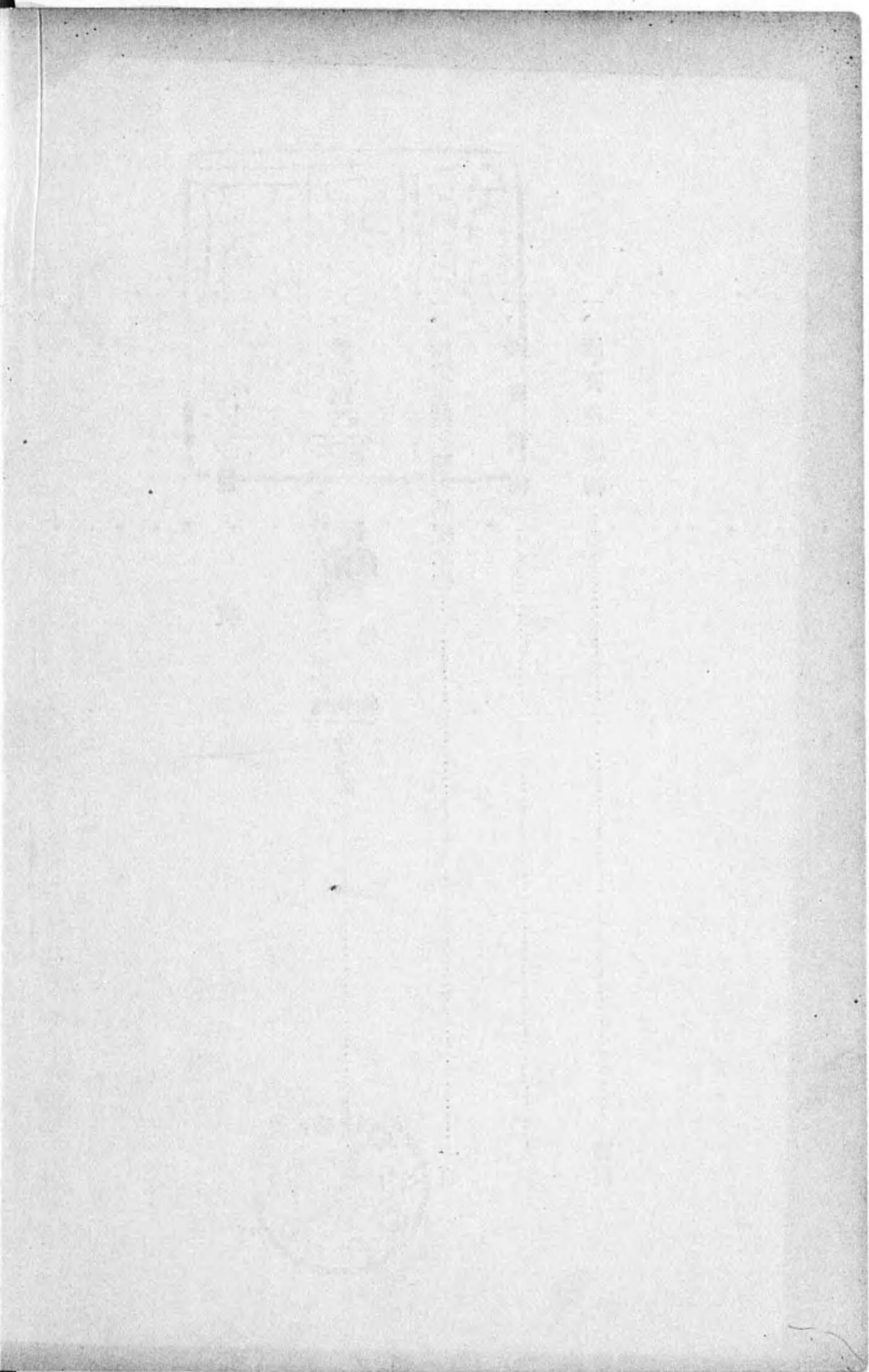
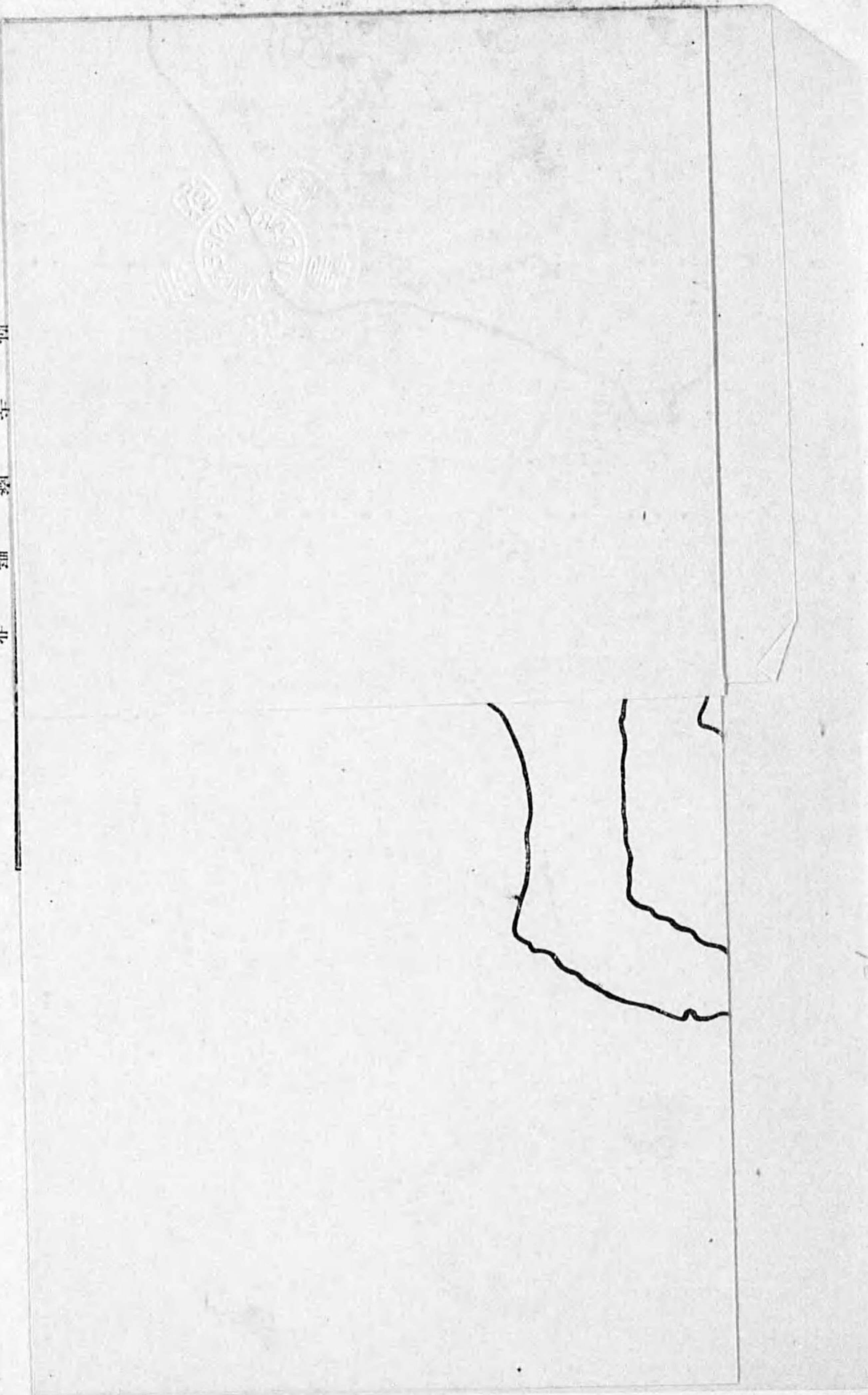
二、指定史蹟名勝天然紀念物……………九頁

三、國寶寶物……………九頁

四、國寶建造物……………四五頁

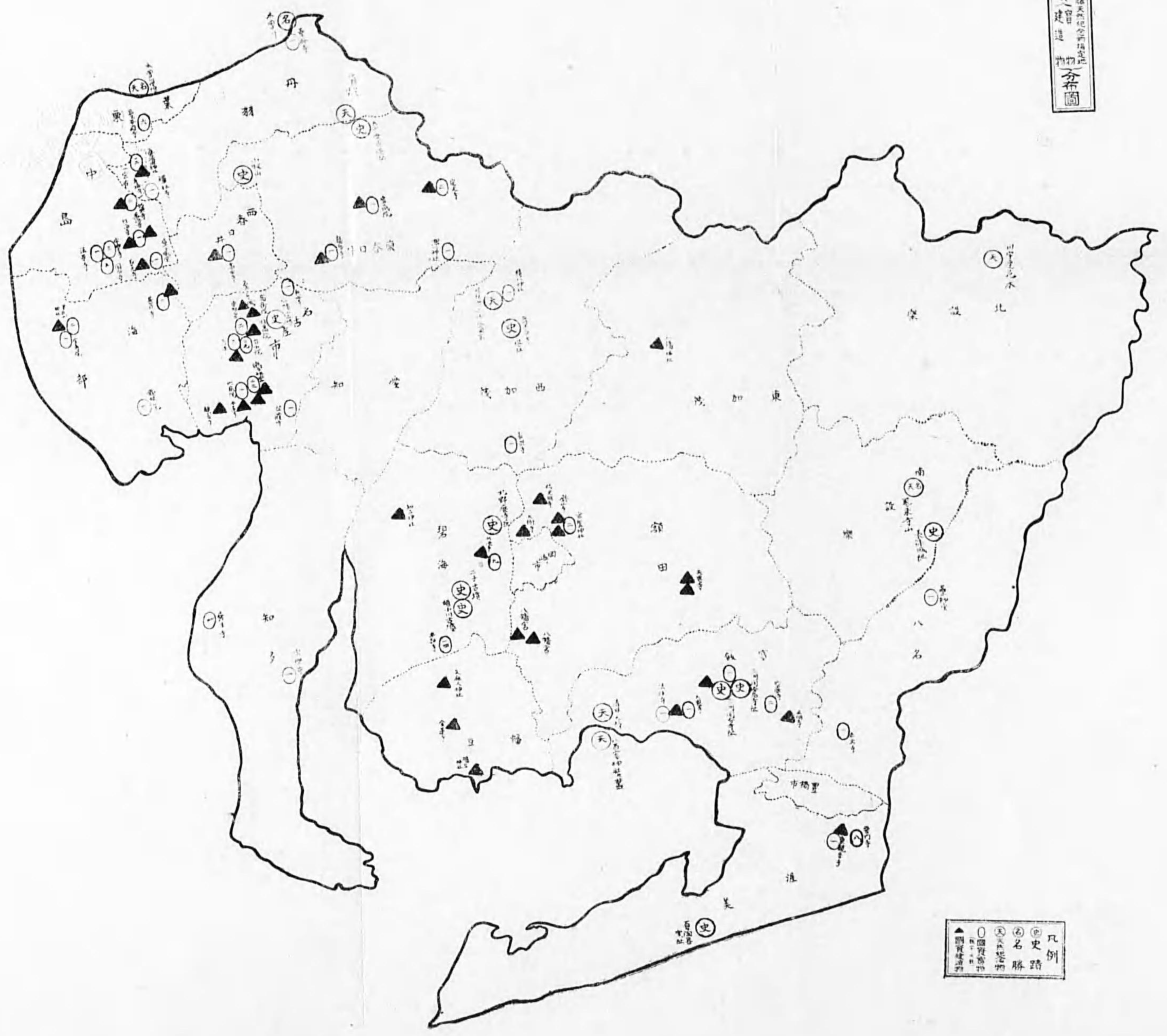


陸 寺 廢 野 北

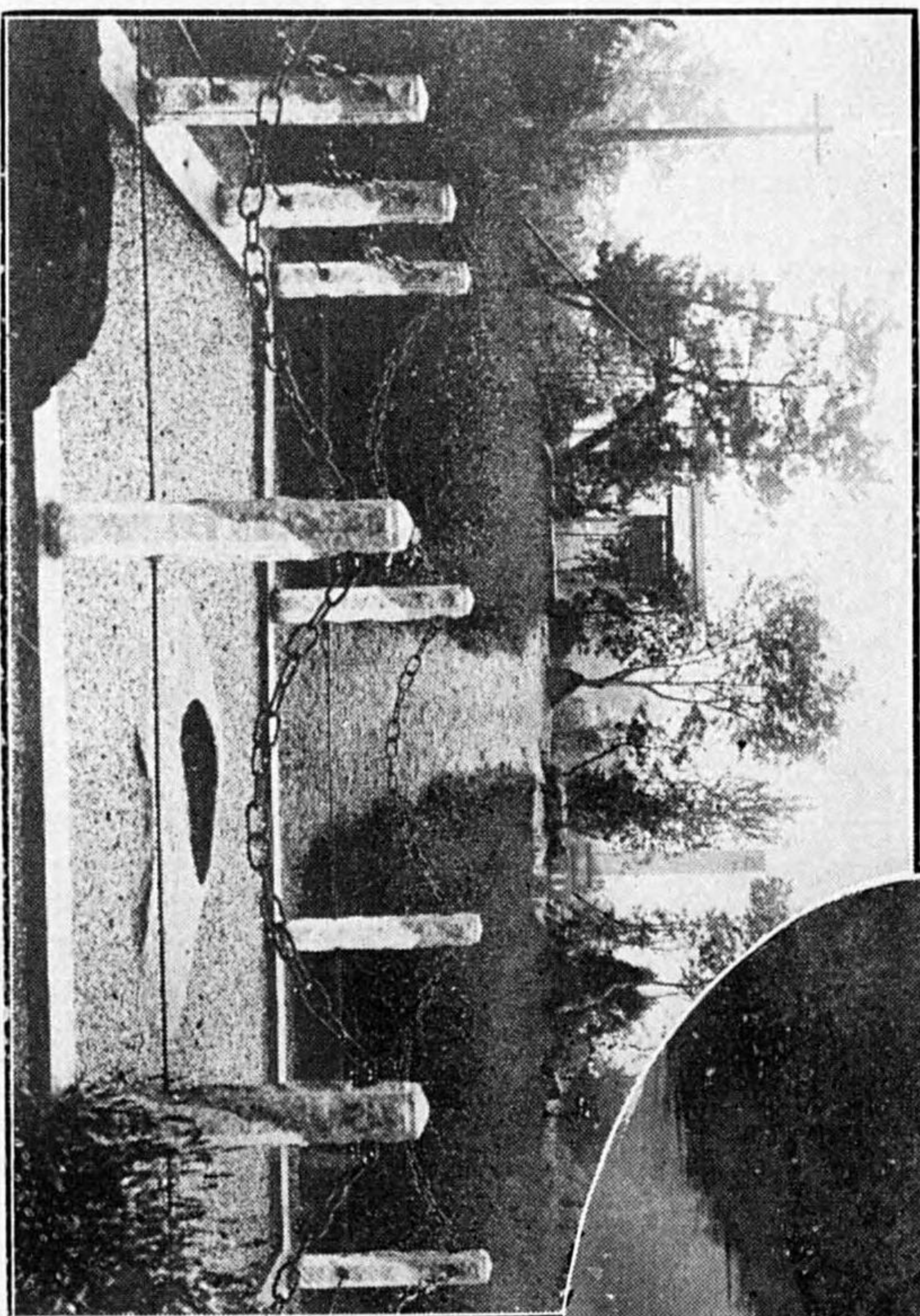


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

愛知県(國寶)建造物分布圖



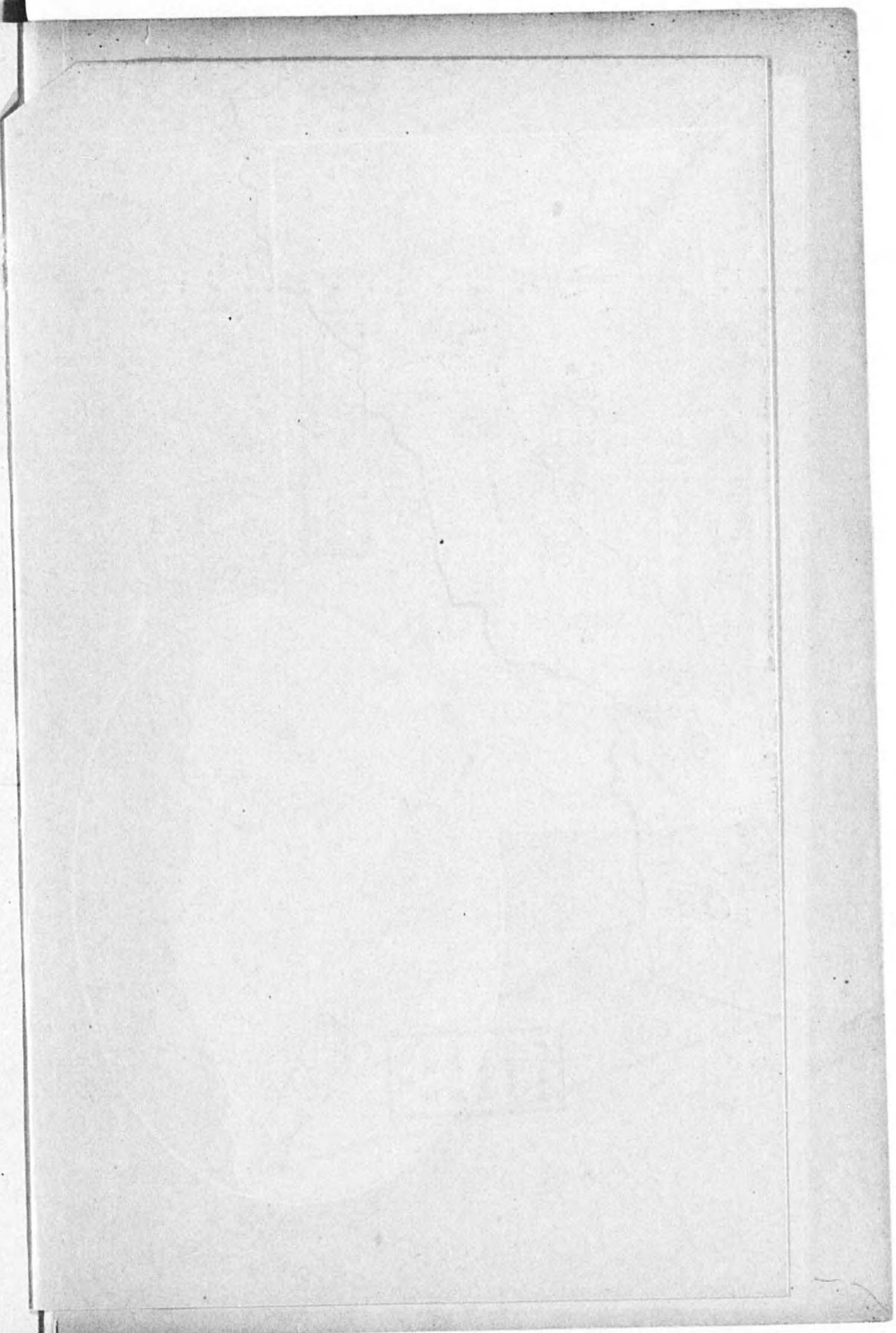
凡例
 ① 史蹟
 ② 名勝
 ③ 國寶
 ④ 國寶建造物
 ▲ 國寶建造物

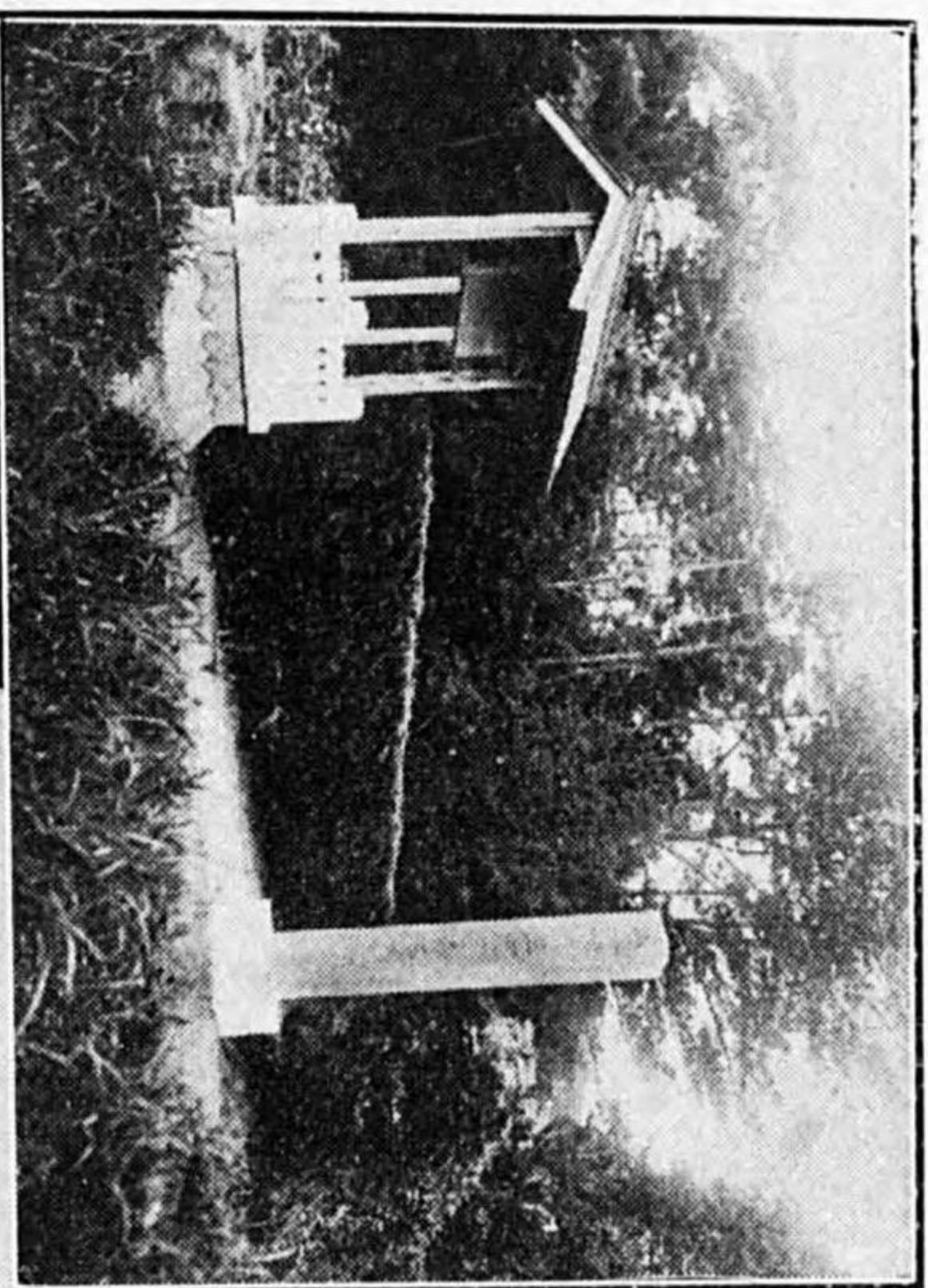


北野廢寺址

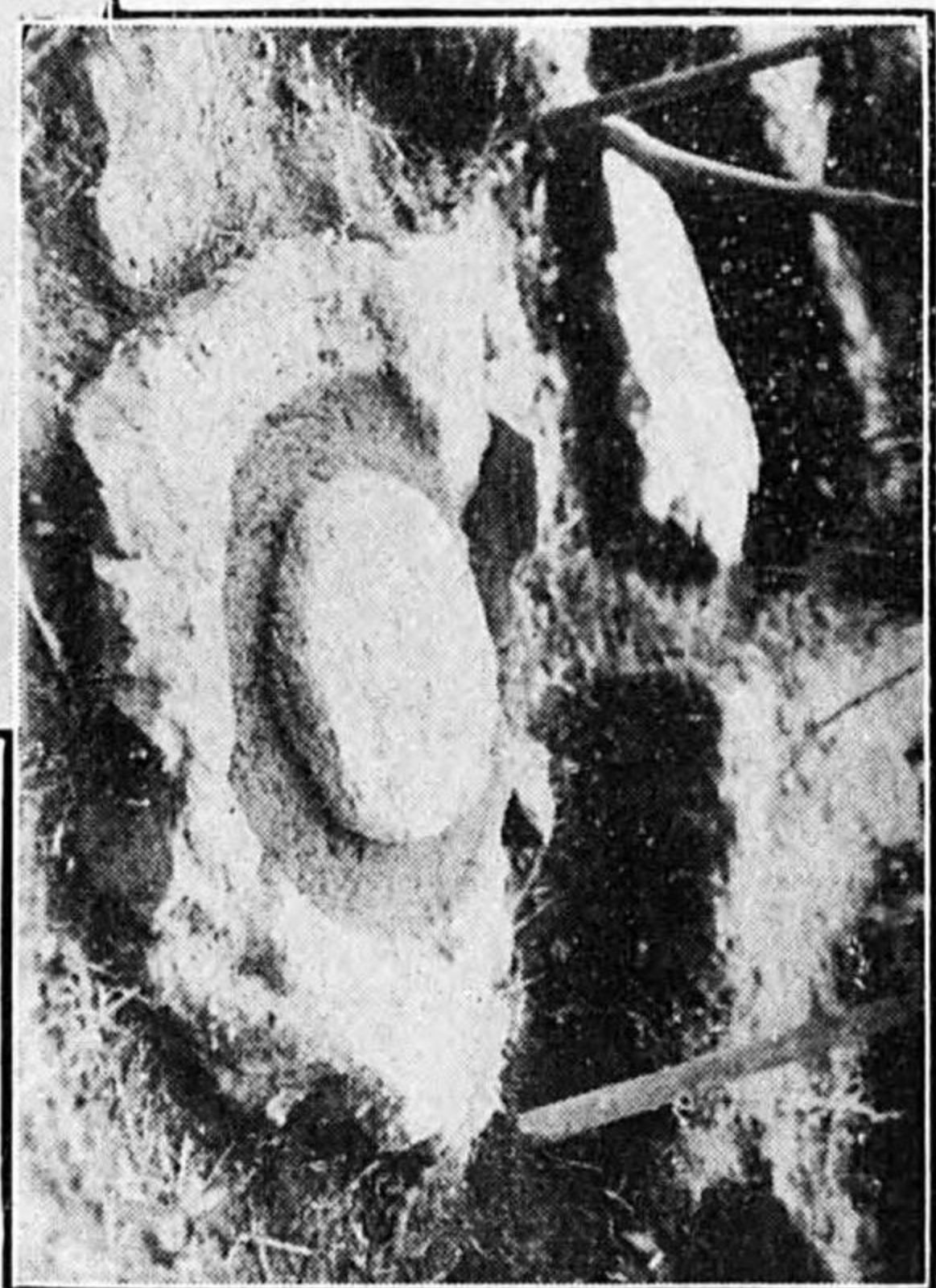


小牧山

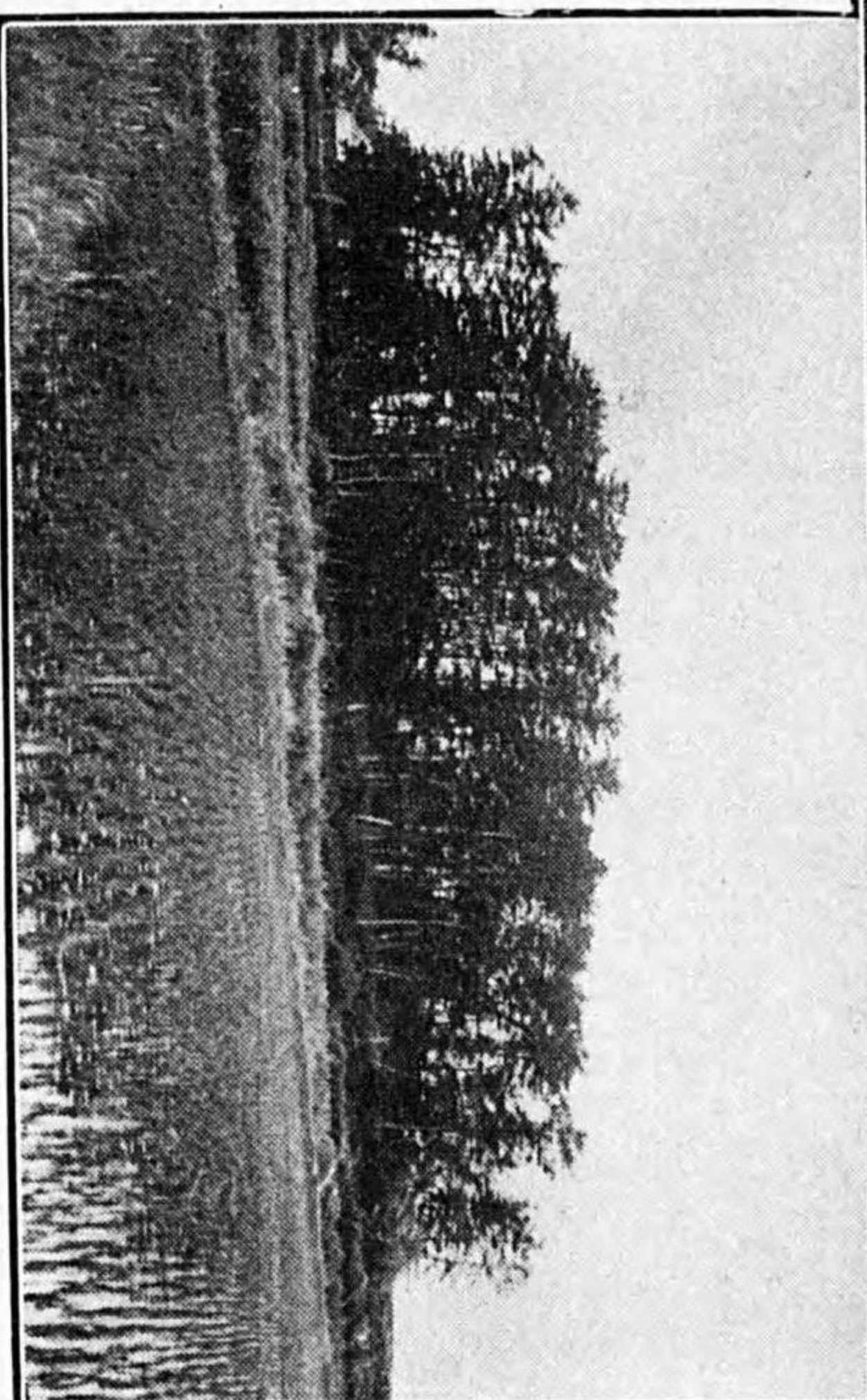




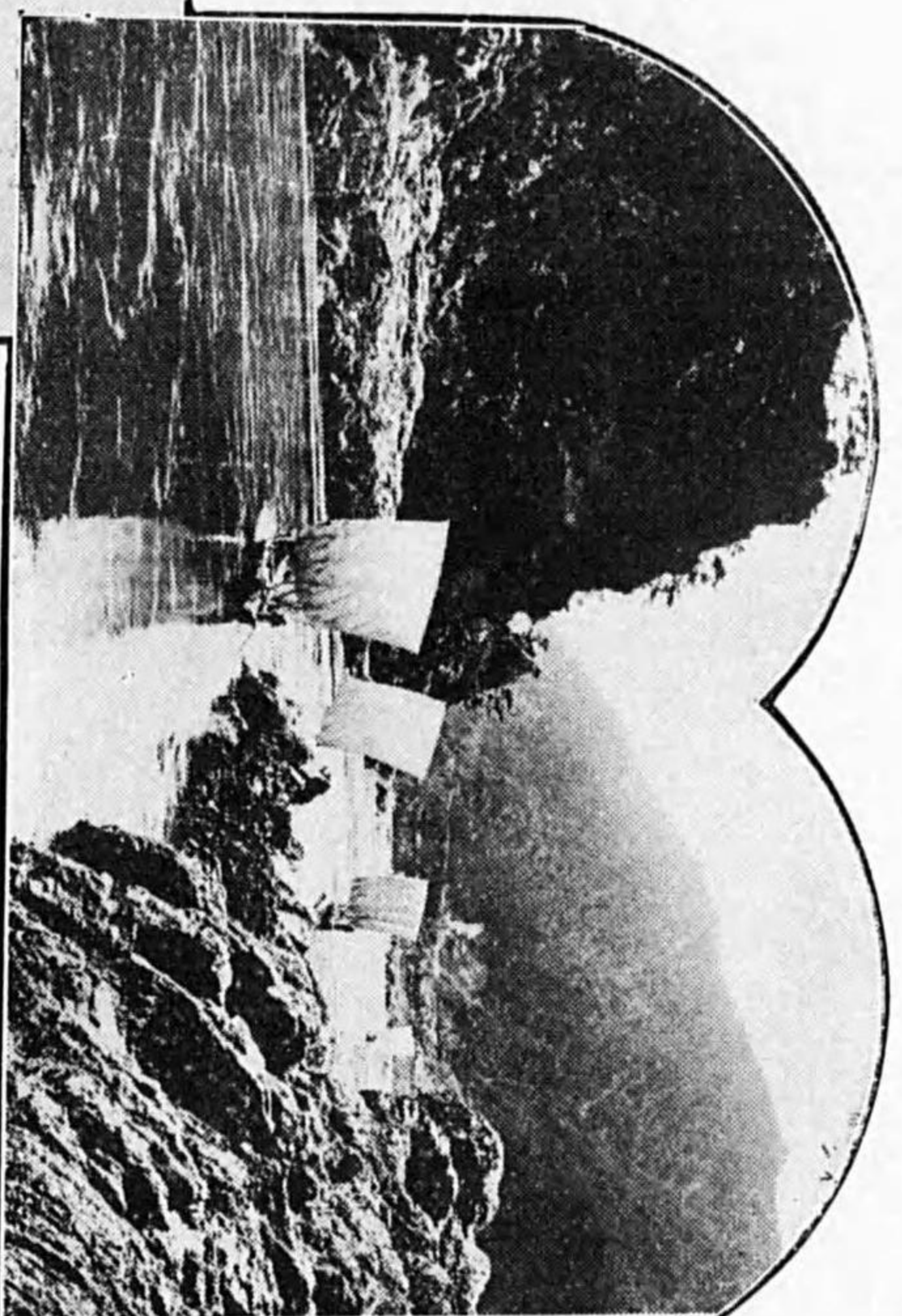
三河國分尼寺址



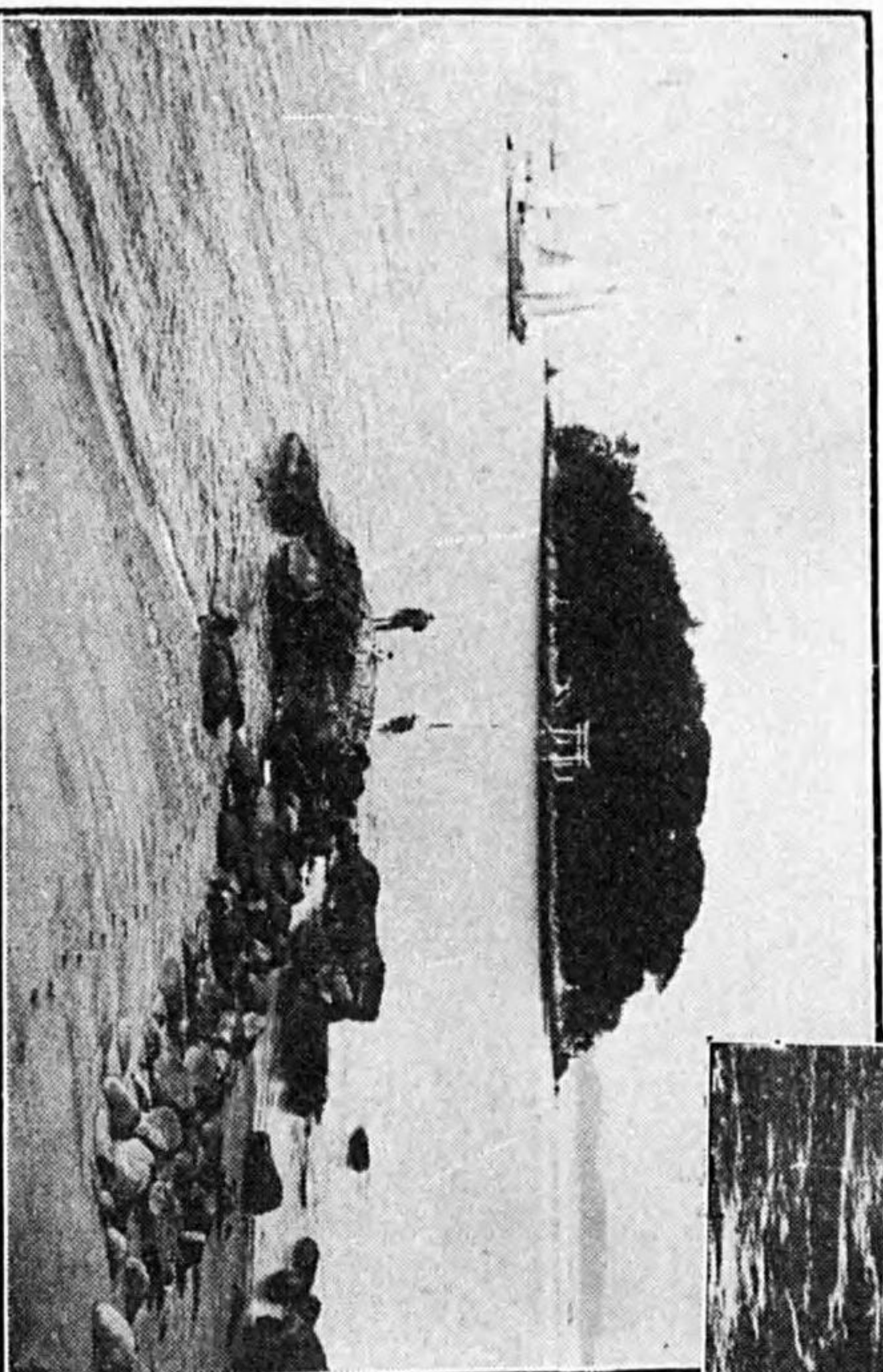
大 山 麓 寺 塔 址



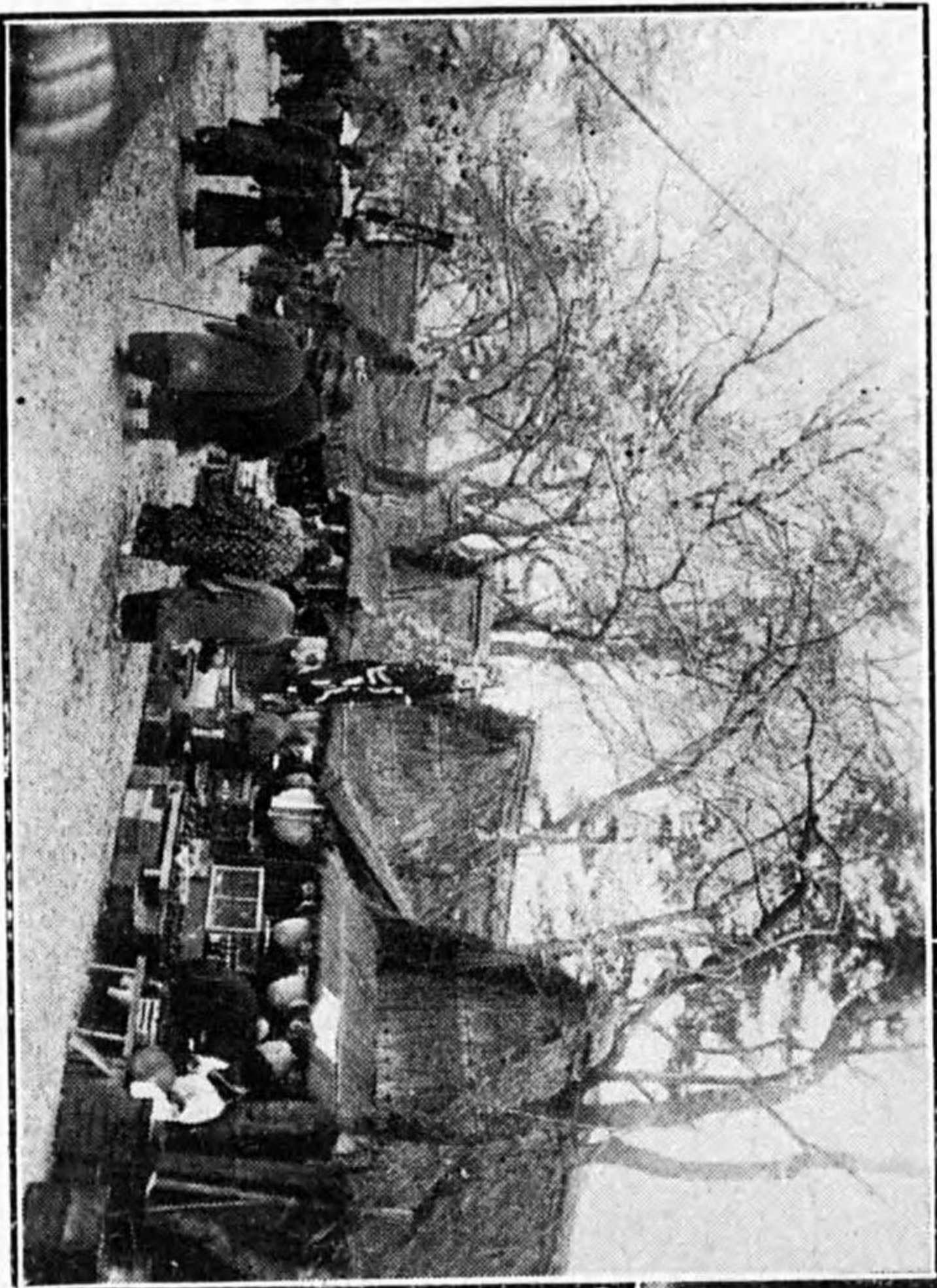
二 子 古 墳



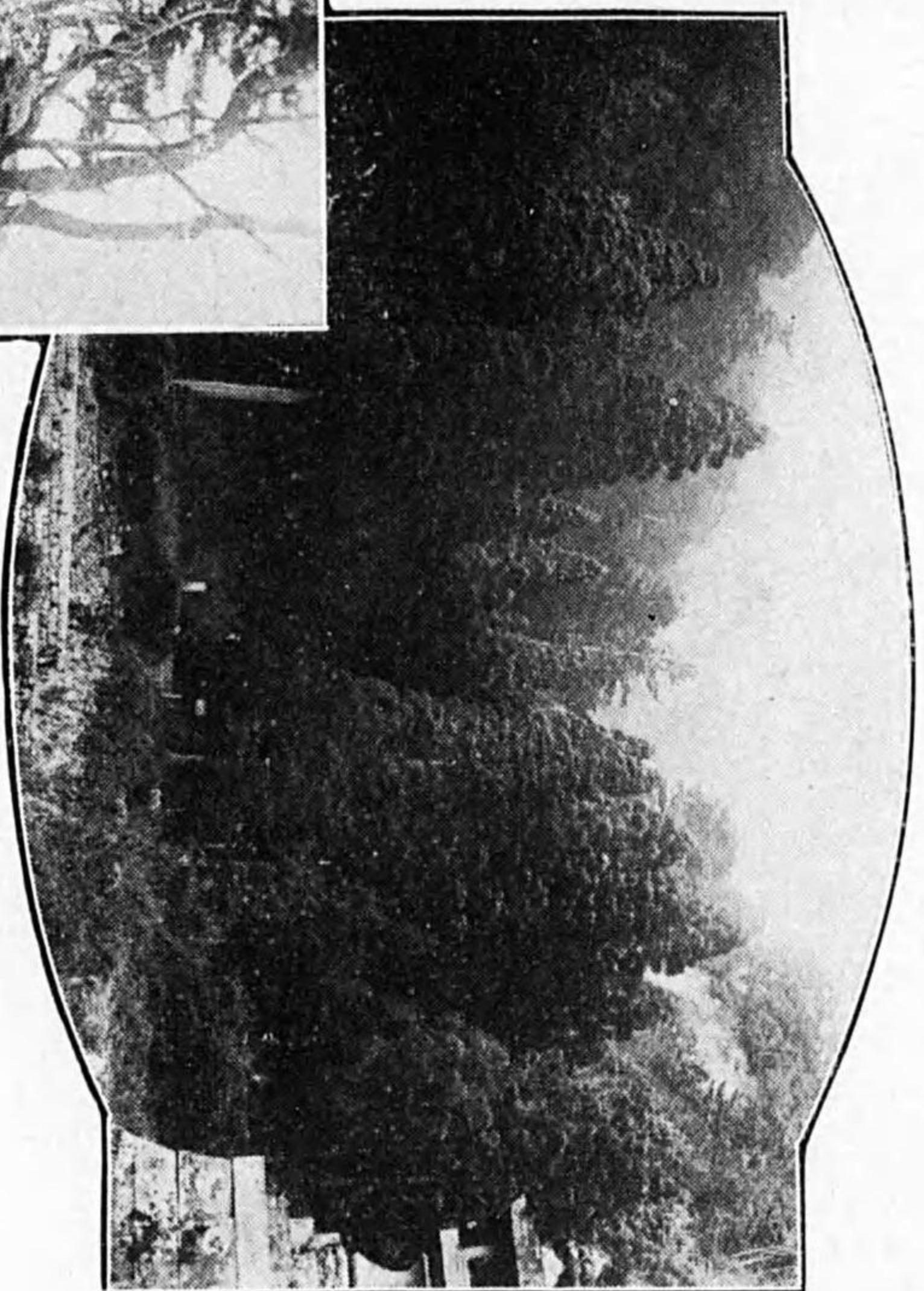
川 曾 木



灘 々 社 神 宮 百 八



木曾川堤(櫻)



鳳來寺山



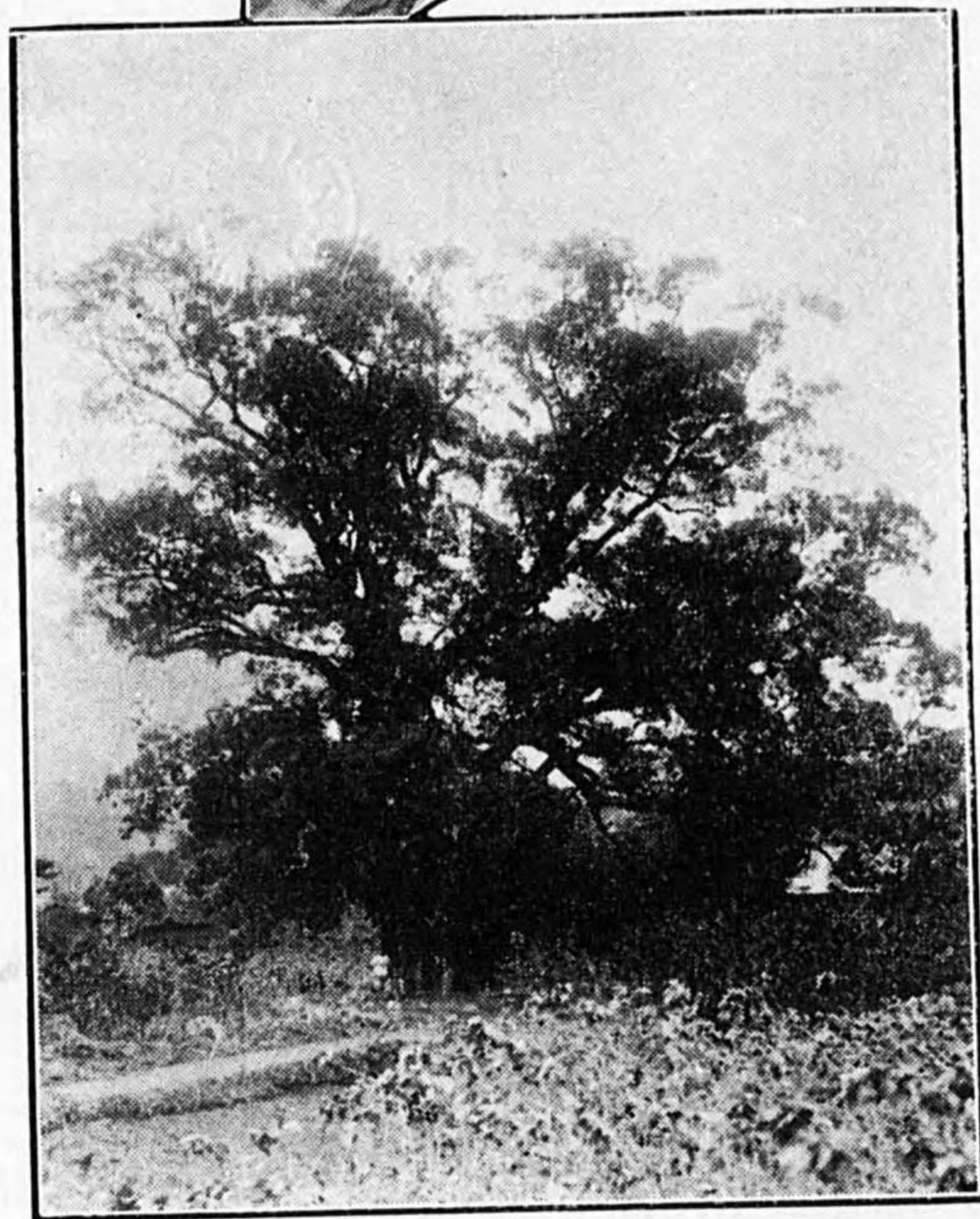
ひとつばたこ自生地



川宇蓮花ノ木自生地



球の山投猿
岩崗花狀



樟大の田清

14.5-721

指定史蹟名勝天然紀念物一覽

(昭和七年三月末日現在)



種目名
史蹟小牧

稱
山

所在地及指定地域
東春日井郡小牧町大字小牧字
八幡前六三三番ノ外十二筆

天然紀念物
ひつば
たごと自生地

指定年月日
大正十二年
三月七日

所在地及指定地域
丹羽郡池野村大字西洞四一番
山林三反三畝二十五歩ノ内一
反八畝十八歩

(説明) ひとつばたごハ朝鮮及支那ニ産ス。木犀科ノ樹木ニシテ其ノ本洲ニ於ケル自生地ハ從來詳ナ
ラサリシガ近頃尾張及美濃ノ一部ニ自生スルヲ知レリ、珍稀ナル樹木ナルニ依リ其ノ自生地
ヲ表示シ學術研究ニ資スルノ要アリ。

名勝及

木曾川堤(櫻)

昭和二年
八月十一日

所在地及指定地域
木曾川堤防ノ中葉栗郡草井村
大字草井字辰己番外一番地先
ヨリ宮田町、淺井町、葉栗村
地内を經テ北方村大字北方字

天然紀念物

二
東山葉栗村境界ヨリ西北方十
一間ノ地點ニ至ル間

(説明)

明治十八年堤防ノ兩側數里ニ亘リテ植栽セル所ニシテ樹種ハ彼岸櫻及枝垂櫻ヲ主トシ交フル
ニ少數ノ山櫻ヲ以テス、花色ノ紅白花形ノ大小種々アリテ自ラ變化ニ富メリ現存ノ樹數千餘
ニ達シ花時盛觀ヲ呈ス、此ノ類ノ櫻ヲ多數植セル名勝トシテ全國唯一ト謂フヘシ。

史 蹟 二 子 古 墳

昭和二十六年
十月二十六日

碧海郡櫻井村大字櫻井字二夕
子七番、外十筆

(説明)

前方後圓型ニシテ南方ニ面ス封土ノ高サ前方部二十尺後圓部三十三尺全長約二百六十尺此地
方ニ於ケル規模壯大ナル古墳ニシテ且善ク保存セラレタルモノノ一ニ屬ス。

史 蹟 姫 小 川 古 墳

昭和二十六年
十月二十六日

碧海郡櫻井村大字姫小川字姫
三十八番、外三筆

(説明)

前方後圓型ノ古墳ニシテ東南ニ面ス封土ノ高サ前方部十五尺後圓部三十尺全長約二百二十尺
後圓部ノ頂上ニハ神社ヲ奉祀シ封土ノ一部鑿平ノ痕アレト此地方ニ於ケル規模壯大ナル古墳
ニシテ且善ク保存セラレタルモノノ一ニ屬ス。

史 蹟 三 河 國 分 寺 址

大正十一年
十月十二日

寶飯郡八幡村大字八幡字本郷
一番、外七十筆

(説明)

聖武天皇ノ御宇ニ建テラレシ三河國分寺ノ址ニシテ舊寺域ノ一部ニ今モ國分寺ヲ存ス、殘存

スル礎石土壇等ニヨリテ南面シテ建テラレシ様ヲ見ルヲ得ヘク寺域ノ西北ニハ築垣ノ一部今
ニ存シ略舊規ノ見ルヘキモノアリ。

史 蹟 三 河 國 分 寺 址

大正十一年
十月十二日

寶飯郡八幡村大字八幡字忍池
一〇八番、外十三筆

(説明)

三河國分寺址ニシテ今尙礎石土壇ノ一部ヲ存セリ。

史 蹟 百 々 陶 器 窯 址

大正十一年
三月八日

渥美郡杉山村大字六連字一本
木十一番三十九町八反六畝四
歩ノ内一反二十七歩

(説明)

奈良朝時代ニ於テ陶器ヲ燒キシ窯址ニシテ自然ノ傾斜ヲ利用シテ築キシモノナリ、入口横五
尺高サ二尺三寸蒲鉾形ヲナシ入口ノ上部ニ天井ノ厚サ三尺ノ土壇其端ヲ現セリ、窯内ハ龜甲
形ヲナシ廣キ所ニテ幅九尺ニ及ヘリ窯ノ全長十四尺入口ヨリ煙突ノ穴ニ至ル高サ約七尺四寸
ニ及ヘリ。

天然紀念物 川 宇 連 花 ノ 木 自 生 地

大正十二年
十月十二日

北設樂郡豐根村大字坂宇場御
所平六九番、外一筆

(説明)

花ノ木ハ我邦固有ノ樹種ニシテ、當所並ニ岐阜長野兩縣ノ隣接地ニ自生スルもみぢ屬ノ一種
ナリ。

天然紀念物 大 赤 見 本 郷 草 自 生 地

昭和二十二年
四月八日

無 告 示 指 定

(説明) 熱帯性植物ニシテ日本特有ノ一奇草ナリ、體稍透明ニシテ紫色ヲ帯ビ大サ一寸許一見こけノ如シ。

史蹟 北野廢寺趾

大正十三年十一月十九日(假指定) 昭和十四年十二月十七日

碧海郡矢作町大字北野字郷裏 四〇番、外二筆

(説明)

字郷裏民家散在セル地域内ニアリ四至明カナラサルモ塔趾金堂趾講堂趾アリ、今回指定セル部分之ナリ塔趾ニハ一個ノ心礎アリ長徑約八尺表面ニ直徑二尺八寸ノ圓柱穴ヲ穿テリ、金堂趾ト推定セラルル地點ニ二個ノ礎石ヲ存シ其ノ北方講堂趾ト認メラルル地點ニ九個ノ礎石散在セリ、地域内ニ奈良時代ノ遺瓦散在シ磚佛又發見セラル。

史蹟 大山廢寺塔趾

昭和十四年十二月十七日

東春日井郡篠岡村大字大山字郷島四百十一番ノ内一反三畝十歩

(説明)

俗ニ本堂ノ峯ト稱スル丘陵上ニ在リ長徑四尺八寸短徑二尺九寸表面ニ輪廓ノ彫込アル心礎ニ自然石ノ礎石十六個ヲ原位置ニ存シ附近ニ奈良朝時代ノ遺瓦散在セリ銅佛又發見セラル。

史蹟 舞木廢寺塔趾

昭和十四年十二月十七日

西加茂郡猿投村大字舞木字丸根百七十九番百七十七番ノ内一反五畝〇七歩七合五勺

(説明)

字丸根ノ丘陵上ニ在リ直徑五尺八寸表面ニ輪廓ノ彫込アリ、中央ニ直徑五寸ノ柄孔ヲ穿テル特殊ノ心礎ヲ存ス其ノ傍ニ掘出サレタル三個ノ礎石アリ附近ニ奈良朝時代ノ特徴アル遺瓦散在セリ。

史蹟 長篠城趾

昭和十四年十二月十七日

南設樂郡長篠村大字長篠字市場四十五筆字岩代十四筆

(説明)

永正五年菅沼元成初メテ之ヲ築キ天正三年長篠役後廢城トナレリ、本丸帶廓野牛廓彈正廓ノ地點ニ城壕及防壘ノ跡今ニ殘存シ舊規尙見ルヘキモノアリ。

天然紀念物 清田ノ大樟

昭和十四年十二月十七日

寶飯郡蒲郡町大字清田字下新屋九十一番

(説明)

目通幹圍十一メートル幹ノ下部ノ東南及南面ハ一大瘤狀ヲ呈ス、本邦中部ニ於ケル樟ノ巨樹トシテ代表的ナリ。

天然紀念物 八百富神社叢

昭和十五年八月二十五日

寶飯郡蒲郡町大字字府相字竹島千四百六十二番八百富神社境内三千二百四十坪ノ内二千五百五十坪一合六勺(國有)

(説明)

蒲郡町ノ海岸ヲ距ル僅ニ四〇〇メートルニ過キササル竹島ニアリ、暖地性樹種ヨリ成リ對岸ノ陸地ニ於ケルモノト樹相ヲ異ニスルニヨリテ著シ。

天然紀念物

猿投山ノ球狀花崗岩

昭和六年
二月二十日

西加茂郡猿投村大字猿投字白瀧、同大字加納字廣澤、民有二筆内實測一畝二十九步四合六勺右地域内ニ介在スル河川敷

(説明)

俗ニ菊石ト稱シ猿投山ヲ成セル粗粒黒雲母花崗岩ヲ貫キテ一ノ岩脈ヲナセルモノ、如キモ、母岩トノ間ニ岩質的漸移ヲ示セリ露頭ハ幅二乃至三メートル長サ約十メートルニ及ビ、北北西ヨリ南南西ニ向ヒテ籠川ヲ横ギリ其ノ河床及右岸ニ現ル該岩ハ球狀體ヲ有セル細粒ノ黒雲母花崗岩ニシテ球狀體ハ大サ徑四乃至八センチメートル核部ト周邊部トヨリ成ル、核部ハ色稍黒クシテ石英正長石バーサイト長石微斜長石黒雲母石英ノ放射狀集合ヨリ成ル、球狀體ハ二乃至三センチメートルノ間隔ニテ岩體一面ニ分布セリ、斯クノ如キ球狀構造ヲナセル花崗石ハ其ノ現出極メテ四罕ナリトス。

史

蹟 八幡山古墳

昭和六年
五月十一日

名古屋市中區御器所町字北丸屋一九、二〇番民有二筆一町一段十三歩

(説明)

鶴舞公園ノ南端ニアル圓墳ナリ高サ三十三尺南北ノ徑二百六十四尺東西徑二百七十五尺東西兩面ニ二階段ノ跡ヲ存ス、南面頂上ニ近キ部分ニハ嘗テ八幡社小祠アリシ爲メ方三間餘削平セラレタルモ舊規ノ見ルベキモノアリ周圍ニ幅七十五尺乃至四十二尺ノ環溝ノ陞アリ埴輪ノ破片又發見セラル。

名

勝 木 曾 川

昭和六年
五月十一日

岐阜縣可兒郡土田村字大脇可兒川合流點ヨリ下流
左岸愛知縣丹羽郡犬山町大字木津字西山五三番ノ一、地先右岸岐阜縣稲葉郡鵜沼村字伊木山一四九一番地先
ニ至ル間ノ河川敷並堤塘敷
國有五十八筆五十四及八畝二十五歩民有千九百四十四年、四百五十九町七反六畝十四歩六各一勾

(説明)

美濃國土田村ヨリ尾張國犬山町ニ亘レル峡谷ニシテ、木曾川ノ一部其ノ絶勝ノ尤ナルモノナリ、古生層角岩ヲ以テ構成セラル厓谷林木ノ幽致ハ湍瀨岩礁ノ奇趣ト相待チ更ニ犬山城ヲ點景トシ遊覽ニ利便多キ特色アル一勝區ヲ成ス。

名勝及天然紀念物

鳳 來 寺 山

昭和六年
七月三十一日

南設樂郡鳳來寺村大字門谷字鳳來寺、國有六筆百二十五町六段五畝二十四歩、民有一筆一段二畝九歩、右地域内ニ介在スル道路敷並河川敷

(説明)

最高峯ヲ瑠璃山ト稱シ海拔約六百九十メートル砂岩泥板岩泥灰岩ノ累層ヨリ成レル第三紀新層ノ上ニ噴出セシ石英粗面石ノ塊狀火山ニシテ、初ハ讚岐屋島ノ如キ一ノ熔岩臺ヲ成セシモノナルモ後甚シク開析セラレテ現時ノ山形ヲ呈スルニ至リシモノトス、此ノ山ニ於ケル石英粗面岩ハ流理ノ著シキヲ以テ特色トシ岩質ノ變化甚シク殊ニ其ノ一部ガ玻璃質ノ松脂岩トナ



七ツ本尊阿彌陀如來



藥師寺の藥師如來

リ眞珠石構造ノ發達セルモノアルハ他ニ多ク其ノ類例ヲ見ザル所ナリ、山勢ハ概ネ危峻峭拔ニシテ奇岩崔嵬往々數十メートルノ絶壁ヲ成セル處アリ、鏡岩最モ著シ山頂亦參差突兀タリト雖遠ク之ヲ望メバ稍々截頭ノ圓錐形ヲ成ス醫王院本堂ヲ經テ奥ノ院ニ至レハ岩上ノ展望廣潤ニシテ雄大參尾ノ平野渥美半島ノ海面一囀ノ中ニ在リ、北ノ天狗岩東ノ五郎岩其ノ奇峭ヲ以テ稱セラレ行者越亦特ニ險阻ヲ以テ知ラル山復一帶ハ常綠潤葉樹ト落葉樹ノ混林ヲ以テ被ハレ暖地ノ樹種少カラサレトモ山上ニ到レバ針葉樹多ク漸ク寒地ノ景觀ヲ呈ス山中ヲ通シ溪谷ハ花草羊齒ノ種類ニ富ミ直立セル岩壁ニハ石耳蘭等ノ岩生植物群落セルヲ以テ著シ林中棲息ノ鳥類亦多ク佛法僧殊ニ名高シ。



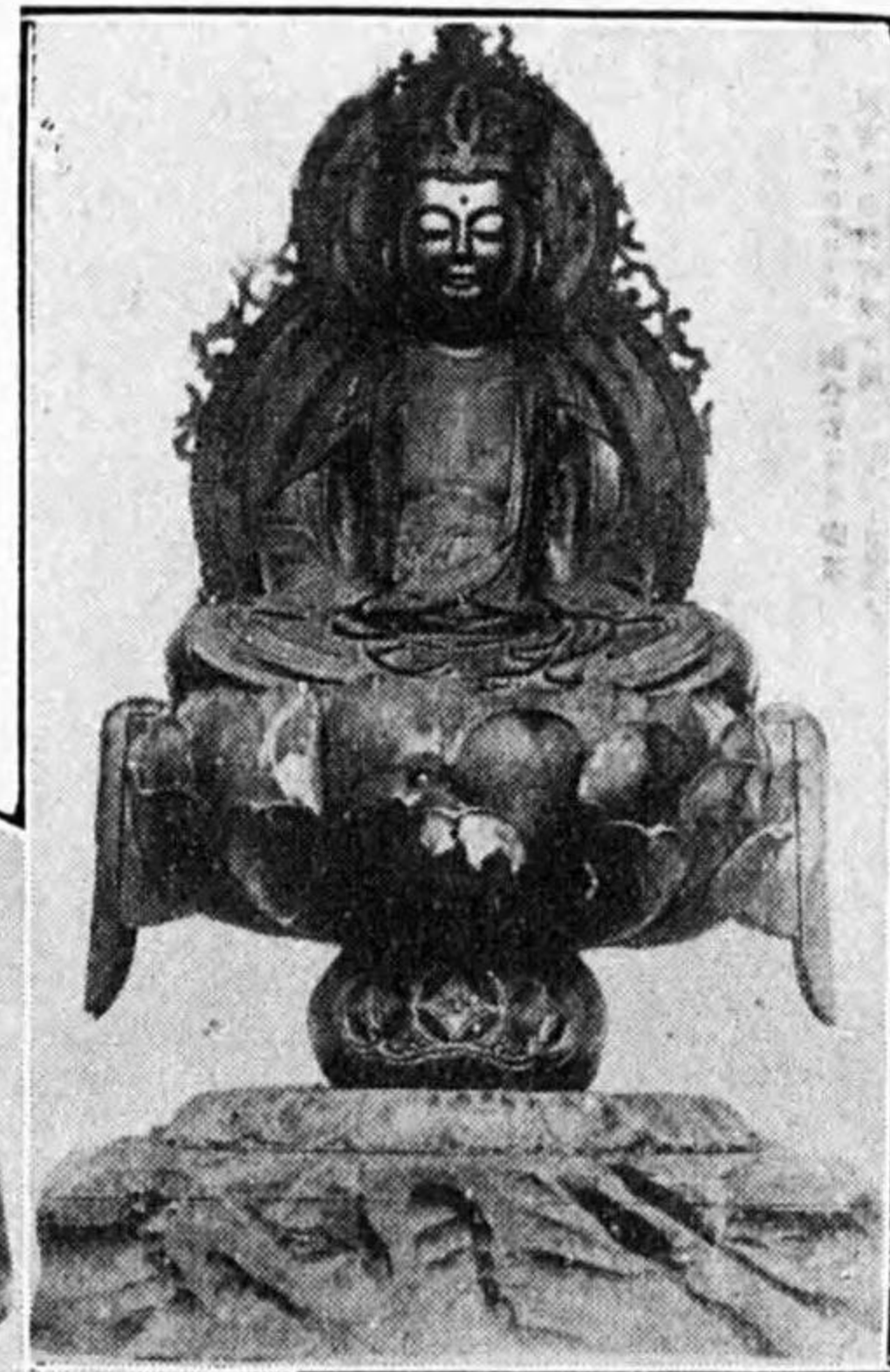
安樂寺の釋迦如來

尾張國分寺の
釋迦如來

(女妻圖上) 司宮大田熱傳の寺分國張尾



尾張國分寺の
傳覺山和尚



尾張國分寺の
釋迦如來
(尊本)



安樂寺の十一面觀音



(右 同)



妙嚴寺の地藏菩薩



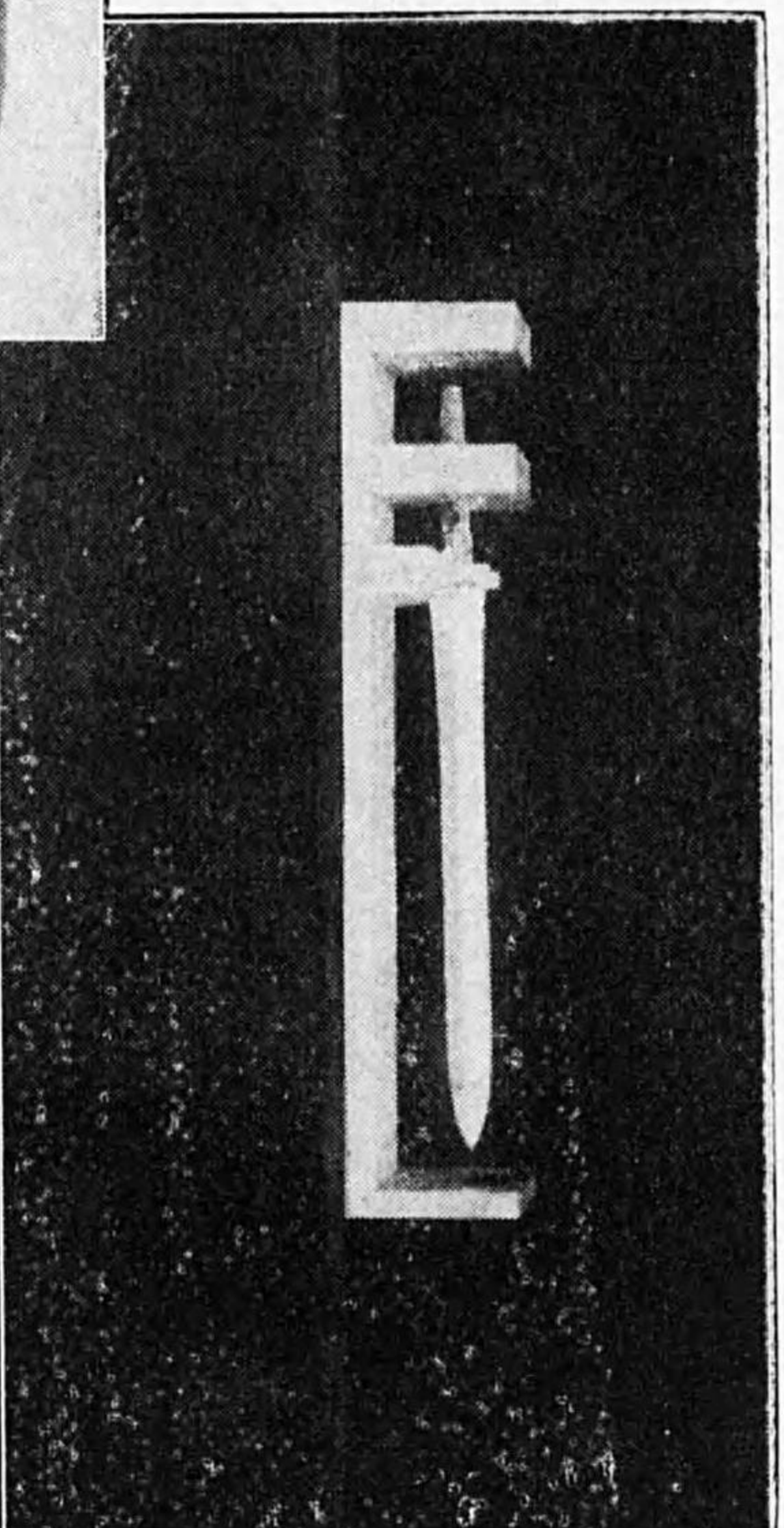
常樂寺の阿彌陀如來



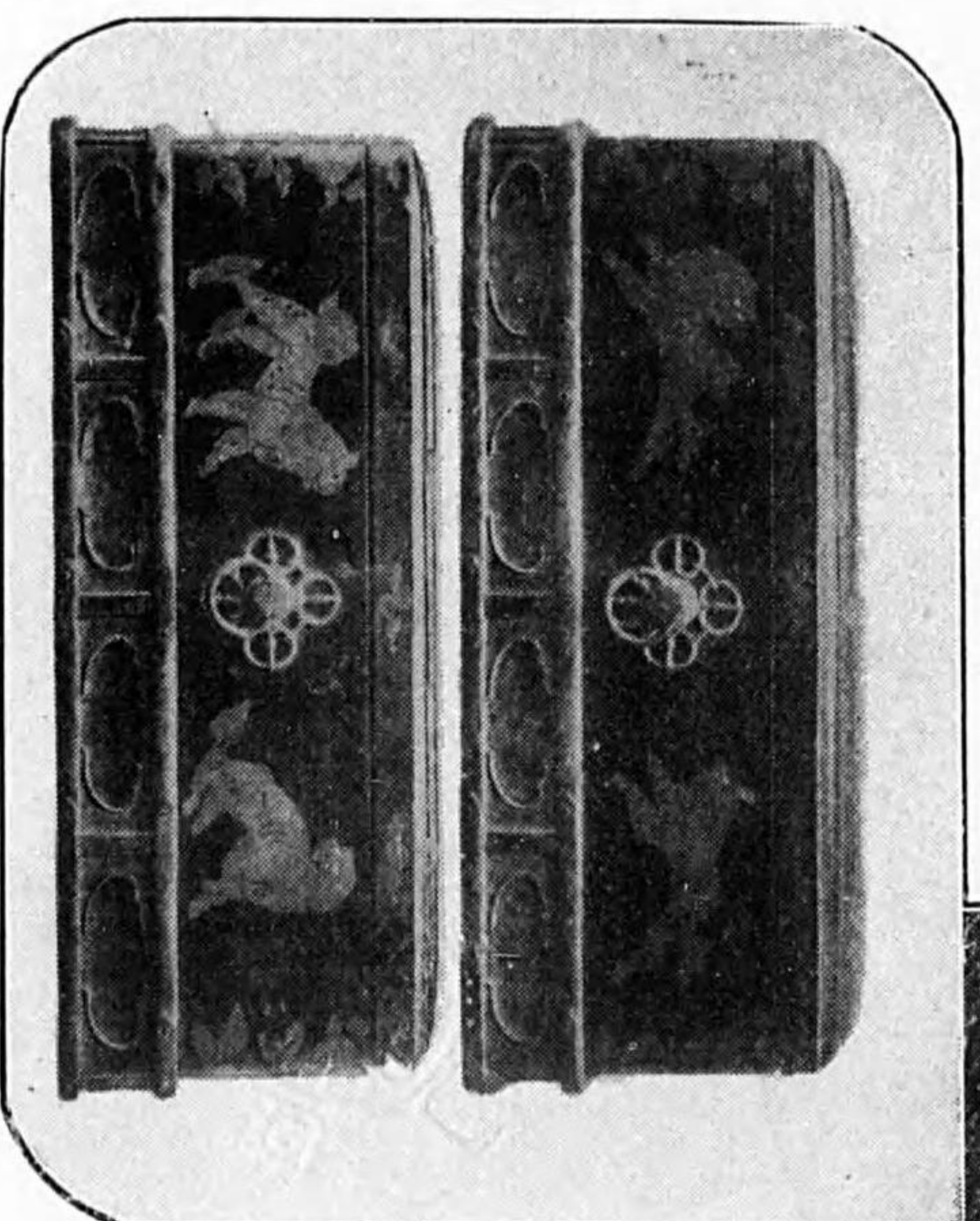
龍照院の十一面觀音



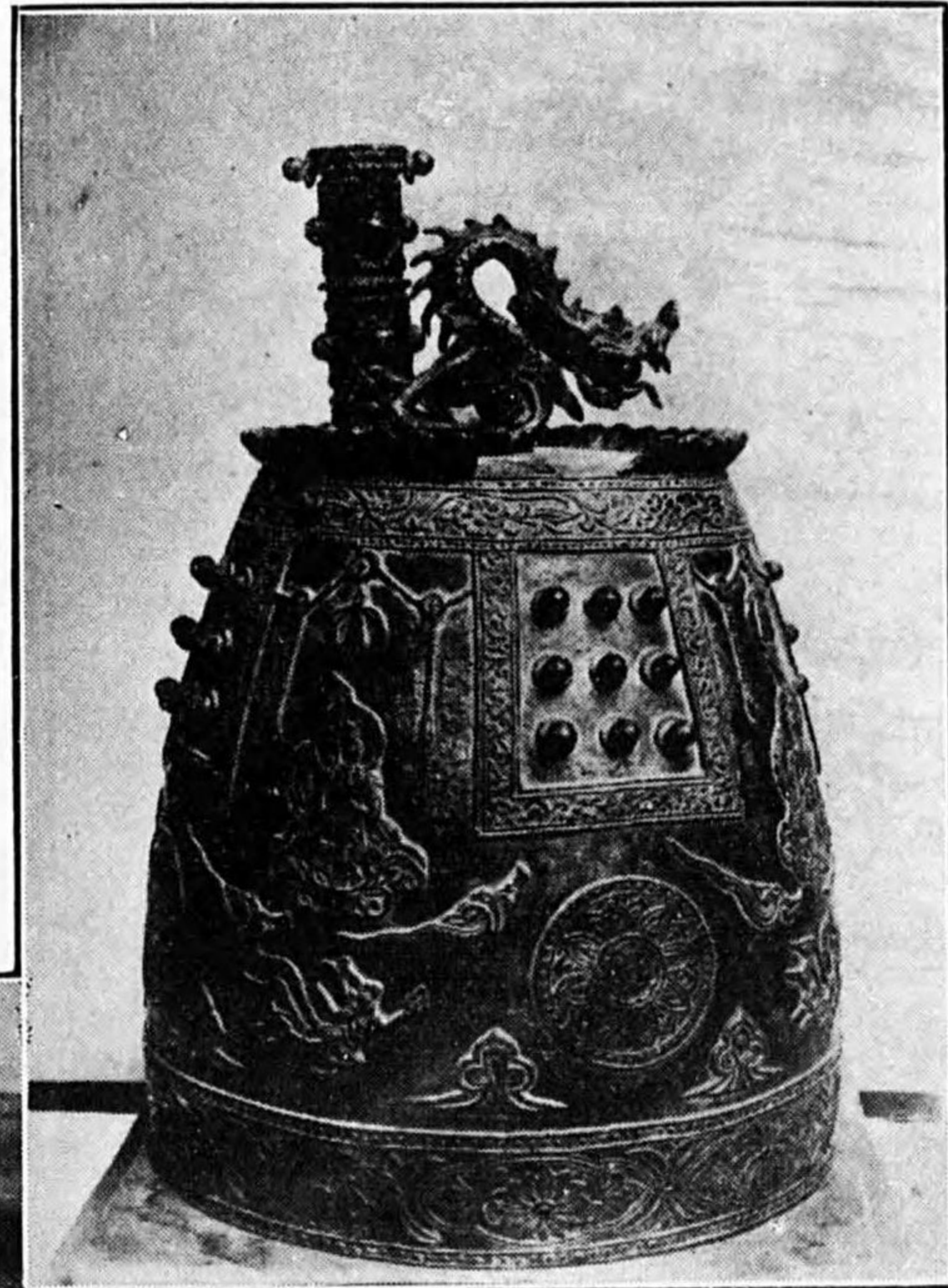
來如師藥の寺林禪



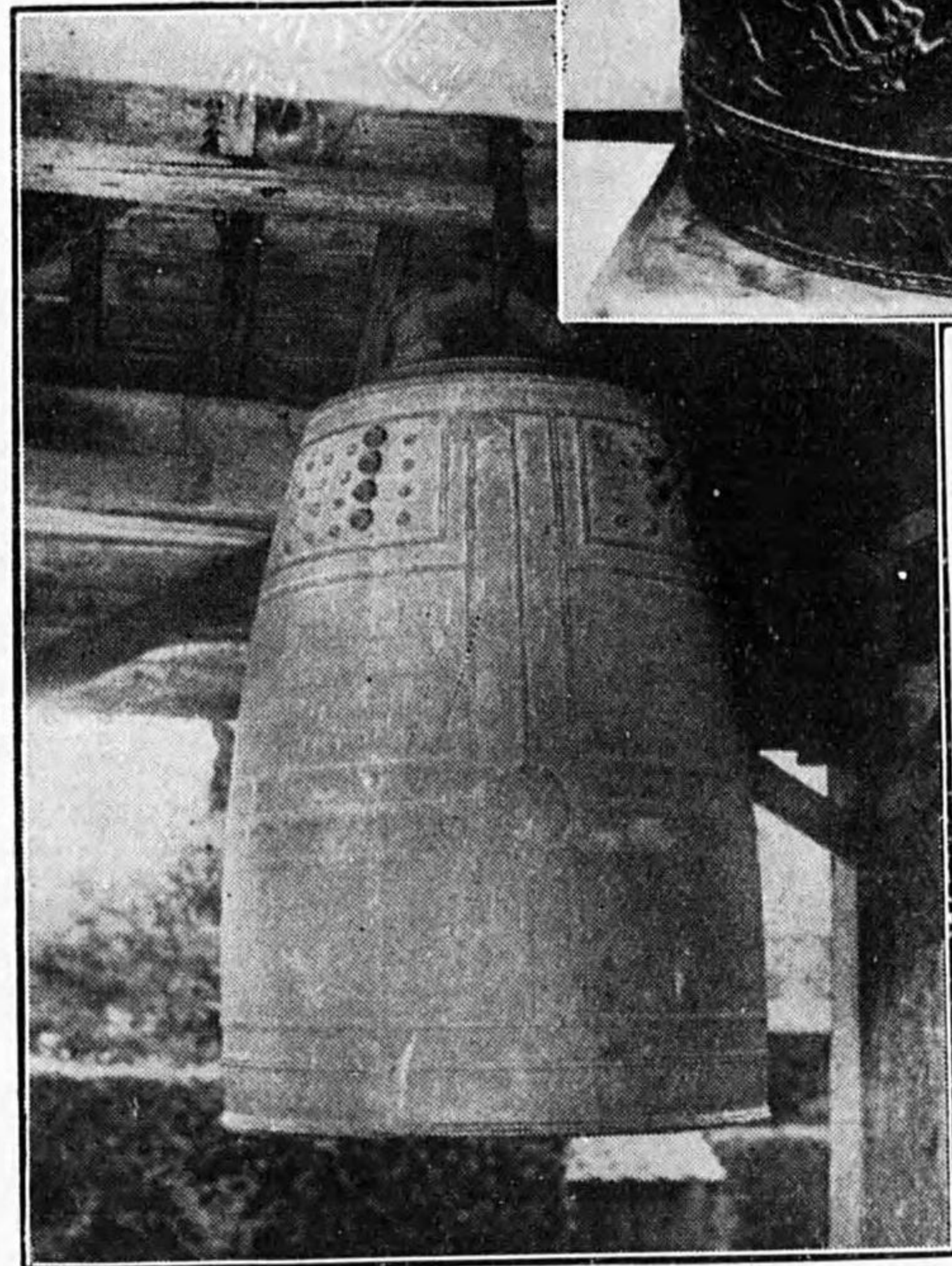
津島神社の銘(長光)



萬徳寺の黒漆蒔絵經笥



鐘銅の寺羅茶曼



鐘銅の寺分國河三

國寶一覽(寶物)

(昭和七年三月卅一日現在)

等級種類

品

目

指定年月日

所在地及所有者

甲種三等美術工藝

金銅兵庫鎖太刀一口
永仁七曆施入銘アリ

明治三十七年
八月二十九日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田神社 宮

(解説)

帶取ノ緒ニ兵庫鎖ヲ用ヒ地板覆輪鑿其他金具ヲ金銅造トシタ拵ノ太刀ニハ鎌倉時代ノモノガ
イロノ遺存シテキル、其時代ヲ證明スベキ資料トシテ當時ノ寄進文書ヲ有スルモノモアル
ガ、此太刀ニハ鞘ノ覆輪帶取金物ノ百寄金ノ足間ニ「尾州春日井郡安食上庄鎮守八劍大明神
清瀧權現長尾天神社ニ奉施御劍永仁第七曆己亥三月二十六日勸進唯心房圓定」ト珍シクモ寄
進年代ヲ毛彫ニシテキル、裝劍法ハ時代ニヨツテ一様デナイガ鎌倉時代ノ好尙ハ多少遺存シ
テキル兵庫鎖太刀ニ於テ其一班ガ窺ハレル、此太刀ノ柄ニハ小松ヲ刻ンダ俵鍔ガアリ、鞘ハ
鶴ノ丸、足金物ハ松ト鶴トヲ併セ用ヒ吉祥ノ意ヲ表シナガラ優美ナ趣致ニ充チテキル、然シ
テ時代ヲ徵證スベキ銘記ヲ有スルコトニヨツテ此太刀ガ最モ注目サレル中身ハ、無銘刃長二
尺一寸一分五厘、中心長四寸一分五厘マタ鎌倉時代ノモノト鑑セラレ。

甲種四等美術工藝

菊蒔繪手筥 一合

明治三十七年
八月二十九日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田神社 宮

(解説)

此手筥ハ足利義政ノ寄進ト稱シ素地ヲ布被セノ砥粉地トナシ、荒キ鱸粉ノ塵地ヲ蒔キ籬ニ菊ノ折枝ヲ付書シ、其籬座ハ通常蒔繪ノ圖ニ因メル金物ヲ施スモノナレドモ、コレハ同ジ菊ヲ用ヒズシテ透シノ菊座トナセリ、カク荒キ籬ヲ一面ニ配シタルハ室町時代ノ亂舞ノ衣裳文様ニ類シ優美ノモノニ比シ一種勁拔ノ趣アリ、此蒔繪ノ手法ハ稍稚拙ナルモ籬ニ菊枝ヲ潜ラセタル等周到ナル描キ方ヲナシ、且花葉等ハ地付ノ上ニ粉書ヲナシ、蓋裏、懸子ノ内外ニモ菊枝ヲ粉書セル精緻ナルモノナリ、總高サ六寸一分、正面幅九寸九分、側面幅七寸八分、蓋高サ二寸、身高サ四寸三分、懸子高サ一寸六分五厘。

甲種四等彫

本造舞樂面十一面
陵王一、納曾利二、
還城樂二、崑崙八仙四
二ノ舞二、拔頭一

明治三十七年
八月二十九日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

甲種四等繪

紙本着色法華經
涌出品一卷

明治三十七年
八月二十九日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種太刀

則刀一口

明治四十四年
四月十七日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種太刀

宗吉一口

明治四十四年
四月十七日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種太刀

備州長船兼光

明治四十四年
四月十七日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種脇指

長谷部國信

明治四十四年
四月十七日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種短刀

表ニ來國俊裏ニ正和五
年十一月ノ銘アリ

明治四十四年
四月十七日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種太刀

宗吉一口

明治四十五年
二月八日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種太刀

國友一口

明治四十五年
二月八日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

丙種太刀

長刀一口

大正三十年
四月三十日

名古屋市南區熱田新宮坂町
熱田新宮坂町 宮

(解説)

作者ハ備前國長船ノ人時代ハ文永ノ比、父光忠ト共ニ長船刀工中ノ名人デアアル、作品ハ地肌ニ少シク荒レタ處モアルカ大體ニ出來宜シク双文亦華美デアアル、双ノ長サ二尺三寸八分。

刀丙 種 太 刀 一口 大正十年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱田神宮

(解説) 作者ハ備前國長船ノ人時代ハ貞治ノ比、兼光ノ子デアル、作品ハ地刃共ニ能ク出来テ健カナモノデアル、刃ノ長サ二尺七寸二分。

刀丙 種 劍 銘 吉 一口 大正十年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱田神宮

(解説) 作者ハ山城國栗田口ノ人、時代ハ正元ノ比藤四郎ト號シ古今ヲ通ジテノ大名人デアル、作品ハ刃ニ少シク缺點ガアルガ此ノ劍ノ如キ者ハ微瑕アリトモ尊重スベキ良劍デアル、殊ニ其ノ作ハ社寺ニハ甚ダ稀デ先ニ國寶トナツタ、白山比咩神社ノ劍開口神社ノ短刀以外此ノ劍ヲ數フルニ過ギナイ、刃ノ長サ七寸三分。

刀丙 種 劍 銘 長谷部國信藤原友吉 一口 大正十年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱田神宮

(解説) 作者山城國ノ人、時代文和ノ比、長谷部國重ノ子デアル、作品ハ形狀ガ縮マツテ刃文及彫物ガ優美デアル中心裏ニ藤原友吉トアルガ何人デアルカ詳カデナイ、刃ノ長サ七寸三分、同宮

ニハ外ニモ長谷部父子ノ作品數本アルガ兩人ガ此ノ地ニ來テ鍛冶奉納シタモノデアル。

刀丙 種 劍 銘 短 國 刀 一口 大正十年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱田神宮

(解説) 作者ハ相模國鎌倉ノ人、時代ハ弘安ノ比、新藤五ト稱ス、作品ハ少シク疲レタレドモ其傑作タルヲ失ハヌ殊ニ裏銘ニ徳治ノ年號ガアツテ參考トナルベキモノデアル、刃ノ長サ九寸七分。

刀丙 種 太 刀 銘 了戒嘉元三年 一口 大正十五年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱田神宮

(解説) 刃長二尺七寸三分強、一見鈍子ノ細イノヲ遺憾トスルガ其ノ他批難ノ無イ出来榮デ了戒作中ノ逸品デアル、尙其ノ鑄名ニ年記ヲ加ヘタコトモ珍シク殊ニコレアルニ依ツテ嘉元三年既ニ了戒ノ名ノアツタコトガ判リ、普通此時ヨリ二十餘年後ノ元徳二年ニ其ノ名ガ起ツタト云フ銘鑿ノ説ヲ根本カラ覆ス材料トモナルノデアル、了戒ノ九郎左ト稱シタコトモ亦此銘記ノミデ知ラレ、或ハ從來五郎ト稱セラレテ居タノモ誤傳デアルカト思ハレ實ニ此銘記ハ種々興味アル問題ヲ提供シテクレル、刀身ノ棟ニ大小ニテ所ノ切込アルコトモ注目サレル。

刀丙 種 太 無 銘 一口 昭和三年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱田神宮

(解説) 刃長二尺七寸無銘デアルガ傳來ノヤウニ初代備前國眞長ノ作デアラウ、眞長ハ文永頃ノ人デアル、コノ太刀ハソノ製作ガ健ヤカデ姿モ良ク小丁子刃勾ヒ深ク地金小板目ガ塞ガツテ居テ美シク和歌山縣野上八幡神社ト和歌浦東照宮トノ列銘ノ同作ニ伍スベキモノデアル。

丙 種 紙本墨書 後花園天皇宸翰一幅 大正九年 名古屋市南區熱田新宮坂町

筆 蹟 附紙本墨書 足利義教内書 一幅 四月十五日 熱田神宮 十月十二日トアリ

(解説) 熱田社領ヲ伏見宮家ニ下賜セラレタ時ノ勅書及内書デ當時宮家ノ祝着ヲ極メラレタ次第ハ貞成親王ノ御日記中ニモ明デアル、勅書ハ後花園天皇寶算十五歳ノ宸筆ニ成リ多少釋氣ヲ帶ビナガラ夙ニ一流ノ風神ヲ備ヘ給ヘルヲ拜察スベク、義教自筆ノ内書モ勅書ノ内容トノ文涉以外兩々相俟ツヲ其眞筆タルヲ確認スルモノト云ヘル、本書モト當然伏見宮家ノ御所藏ト思ハレルガ如何ナル故カ其後江湖ニ流傳シ熱田社領云々ノ文句アルニヨリ人アリ之ヲ本社ニ寄進スルニ至ツタノデアル。

彫 刻 木造阿彌陀如來及兩脇侍座像 三軀 明治三十七年八月二十九日 名古屋市中區門前町七寺

(解説) 〔阿彌陀如來〕坐像螺髮肉髻白毫嵌入玉眼兩手屈臂膝上ニ安シ彌陀ノ印相ヲ結ビ結跏趺座右足ヲ以テ左膝ヲ押ユ惣漆箱、臺座ハ十重座即チ蓮花座、圓形敷茄子、藥、足ツキ花盤、八角形敷茄子、八角形受座、反花、八角形框座、反花、下框座ヨリナル、五邊葦蓮瓣。後背ハ二重圓相後光ニシテ玉覆輪入り覆輪ト覆輪トノ間ニ飛雲ヲ配シ、上部ニ左右ニ二軀ゾ、四佛ヲ附着シ圓相ノ外周ハ頂上ニ大日如來左右ニ十二飛天ヲ配列シ各手ニ樂器ヲ執リ纏衣ヲ船形後背ノ外廓ヲナス總テ塗箔。

(解説) 〔觀音〕坐像寶髻天冠臺ヲツケ白毫玉眼嵌入右手屈臂上掌外掌大中指ヲ屈シ相接セシメ左手ヲ膝上ニ垂レ施無畏ノ印ヲナシ左肩ヨリ斜ニ袈裟ヲカケ結跏趺座右足ヲ以テ左膝ヲ押ユ塗箔臺座ハ現座ハ十重座即チ蓮花座、花盤、反花、藥、反花、受座、反花、寶艸花ヲ彫刻シタル丸面框座、藥ツキ反花、玉覆輪入り框座塗箔後背ハ二重圓相入り船形後背八葉ツキ玉覆輪入り覆輪ト覆輪トノ間ニ飛雲ヲ散ラシ外周ノ頂上ニ彌陀ヲ安シ左右ニ十二ノ飛天ヲ配列シ各手ニ持物ヲ執リ纏衣ヲ飛バシテ外廓ヲナス惣テ塗箔。

(解説) 〔勢至〕坐像寶髻天冠臺ヲツケ白毫玉眼嵌入右手ヲ膝上ニ垂レ施無畏ノ印ヲナシ左手屈臂上掌大、中指ヲ屈シ相接シ左肩ヨリ斜ニ袈裟ヲカケ腰部ニ裙ヲ纏ヒ結跏趺座右足ヲ以テ左膝ヲ押ユ、臺座ハ十重座五邊葦蓮瓣、花盤、反花、藥、反花、受座、反花、寶艸花彫リ丸面框座、覆輪ツキ框座、玉覆輪ツキ下框座、惣テ塗箔、後背ハ二重圓相後光玉覆輪ツキ覆輪ノ間ニ飛雲ヲ散ス八葉ツキ外周ノ頂上ニ寶瓶ヲ安シ左右ニ十二ノ飛天ヲ配列シ各手持物ヲ執ル惣テ塗箔。

甲種三等 彫刻

持國天 木像 立像 明治三十七年 名古屋市中區門前町 寺
毘沙門天 二軀 八月二十九日 七

(解説)

〔持國天〕 立像寶髻天冠臺ヲツケ玉眼兩臂ニ美襟ヲツケ右手屈臂刀ヲ執リ左手伸下掌ヲ開キ五指ヲハネテ刀ノ背ニ當テ武裝腹部ニ鬼面ヲツケ足ニ靴ヲ穿テ左足ヲ上ゲ二夜叉ヲ踏ム方座ツキ後背ハ八覆輪火焰ツキ。

(解説)

〔毘沙門天〕 立像寶髻、天冠臺ヲツケ玉眼右手下鋒ヲ執リ左手屈臂寶塔ヲ捧ゲ兩臂ニ美襟ヲツケ武裝腹部ニ鬼面ヲツケ足ニ草履様ノモノヲ穿テ右足ヲ踏ミシ出足下ニ兩夜叉ヲ踏ム方座ツキ後背ハ八覆輪火焰ツキ。

丙種 書藉

辛櫃 入一切經 明治三十三年 名古屋市中區門前町 寺
四月七日 七

(解説)

コノ一切經ハ尾張權守大中臣安長ガ發願シテ安元元年ヨリ治承二年マデニ書寫セシメタモノデ、モト五千餘卷アリ、之ヲ三十一合ノ辛櫃ニ分收シテ經藏ノ内ニ安置シタガ、後散佚シテ今四千九百七十卷ヲ存ス辛櫃ハ皆中蓋ガアリ、大般若經ヲ納メタ六函ニハ、中蓋ノ表ニ黒地朱漆ヲ以テ十六善神ノ像ヲ畫キ、裏ニハ此經奉讀ノ諸僧ニ對シテ文句ノ違亂ヲ認ムトモ加筆スルナカラシコトヲ望メル朱漆ノ文字ガアリ、大般若經函以外ノ辛櫃ノ中蓋ニハ朱漆ヲ以テ表ニ經卷ノ目錄ヲ記シ裏ニハ起請文ヲ認メタル、カクテ一切經中大般若經ハ承安五年ニ書寫セラレ他ノ諸經ハ引續イテ治承ニ亘リ同二年寫經全ク成リ、同時ニ之ヲ納ルル辛櫃亦作製

セラレタルヲ以テ平家時代ノ特色ヲ表ハシタモノトシテ類稀ナル遺品トナスベキデヤル。

甲種四等 繪畫

絹本着色 佛涅槃圖 明治三十七年 名古屋市中區門前町 院
八月二十九日 寶生

丙種 書藉

紙本墨書古書籍二種 明治三十八年 名古屋市中區門前町 院
漢書 食貨志 一卷 四月四日 寶生
琬玉集 二卷 太平十九年ノ奥書アリ

(解説)

〔漢書食貨志〕 本書ハ奈良朝頃ニ書寫セル漢書顏師古注ノ零卷デ、ソノ食貨志上卷ノミ存スルガ、ソノ卷トシテハ完全ナルモノデアル。本書ハ古來ヨリ名高クハヤク經籍訪古志ニ載録セラレ、明治時代ニ清國ノ揚守敬之ガ覆寫本ヲ得テ公使黎庶昌ノ編セル古逸叢書ニ放メ、覆刻シテ支那ニ布カレタ。

本寺ニ於テ本書ヲ藏スル狀ヲ見ルニ之ヲ二重ノ箱ニ納メテアル、外ノ箱ハ椗ノ白木デ表面ニ「橋逸勢眞跡漢書食貨志第四一軸」ト題シ「ヘノ六十一」ト墨書セル紙片ヲ貼附シ、内箱ハ桐ノ春慶塗デ、蓋ノ内ニハ「橋逸勢眞跡食貨志第四、一卷全部」ト記シ、古筆了伴ノ署名ガアリ。本卷子ノ表紙ハ後世加ヘシモノデ褐色布目紙ヲ用キテアル。コレニ施セル外題ニハ「漢書食貨志裏書阿彌陀經(經字半磨滅) 疏嘉保二年寫」トアリ、表紙内面見返ニハ「文政四年辛巳九月令修理畢寺社奉行所」ト墨書シ、墨印ヲ捺ス。原本ハ卷子一軸デ用紙ハ黃麻紙、紙數スベテ二十枚、紙ノ高サ八寸九分五厘第一紙及ビ最末

ノ一紙ハ共ニ幅一尺七寸四分、ソノ他ハ幅一尺八寸三分アリ、各行ニ淡墨ノ界ヲ施ス、ソノ行間七分五厘、第一紙ト末ノ一紙トハ二十三行他ハ二十四行トシ、卷末「食貨志第四」ノ文字ニカケテ方形ノ朱印ヲ捺シテアル、ソノ印文右半式部トヨマレ、奈良朝時代本書ガ式部省ノ藏タリシコトヲ考フベキデアル。

(解説)

〔瑠玉集〕モト十五卷アルベキモノガ今僅ニ零本二卷ヲ存スルニ過ギナイガ、李朝ノ類書トシテ夙ニ漢土ニ跡ヲ絶テルモノガ天平年代ノ書寫ニヨツテ二卷トナリトモ其佛ヲ傳ヘ得タノハ眞ニ希觀ノ寶笈トイハネバナラス、平安朝ノ初ニ出來タ藤原佐世ノ現在書目ニ其名ガアルノハ本書々寫ノ時代ト併セ見テ興味アルコトデアル、惜シイカナ倭漢ノ書目トモニ其選人ヲ佚シテ傳ヘナイ、内容ハ卷第十二デハ「壯力」「鑿識」「感應」卷十四デハ美人篇、魄人篇肥人篇、瘦人篇、等ノ種目ヲ設ケ、コレニ該當スベキ事實ヲ各種ノ書籍ヨリ摘出シテ採録シタモノデアル、世説斯語ニ似通ツタ態モアリ六朝カラノ慣習ニ從ツテ人ノ話題ニ上ルベキ興味アル事實ヲ蒐集シタモノトイッテヨカラウ、カ、ル珍籍ガ寫經全盛ノ奈良朝時代ニ書寫サレタコトモ注目セラレルノミナラス、其書風ガマタ初唐式ノ謹嚴ナモノデアルコトモ益々本書ヲシテ尊重セシメル。

丙

種

紙本墨書古書籍四種

古事記 賢瑜筆 三帳

將門記 (殘缺) 一卷

承徳三年正月ノ奥書アリ

明治三十八年

名古屋市中區門前町

書

藉

尾張國解文 一卷

七大寺年表 (殘缺)

永萬元年十月ノ奥書アリ

四月四日

寶

生

院

(解説)

〔七大寺年表〕東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、西大寺、藥師寺、法隆寺、ノ年表デ卷端其外所々ニ闕文ガアル、白鳳十一年ヨリ起リ延暦二十一年ニ終ツテキル、著者ハ不明デアル。

(解説)

〔古事記〕眞福寺古事記ハ現存セル古事記ノ最モ古キ本トシテ學界ノ周知セル所、上、中二卷ハ應安四年、下卷ハ應安五年眞福寺ノ僧賢瑜ノ筆寫ニ係ル、シカシ本ヅク所ハ大中臣定世ノ書寫本ニアルコトハ奥書ニヨツテ明デアル、是等ノ事及本書ガ古事記ノ研究上ニ貴重ナル資料タルコトハ、菅政友ノ眞福寺古事記由來考ニ詳デアル、而シテ中卷ハ上下二卷ト趣ヲ異ニシ別本ヲ以テ、補寫セルモノデアル。

(解説)

〔將門記〕將門記ハ天慶亂ノ顛末ヲ記シタ根本史料トシテ學界ニ喧傳セルノミナラス、本書ハマタ承徳ノ書寫トシテソノ傍訓及ビ假名ノ體ハ國語史上貴重ナル資料デアル、紙幅ハ九寸二分弱、前後ニ禮紙各一枚アリ、前ナルハ長サ一尺六寸、後ナルハ長サ二尺五寸イヅレモ後世ノモノ、本文ハ初缺ケタルガ通計二十五枚ヲ用ヒ墨格アリ。天地ノ間七寸八分許、末ノ一紙ハ九行デ長サ六寸三分、ソノ他ハ三十三行宛デ各一尺六寸弱デアル。

(解説)

〔尾張國解文〕一條天皇ノ永祚元年尾張ノ郡司百姓等ガ國守藤原元命ノ非行三十一箇條ヲ摘

發シテ彈劾セル訴狀デ當時地方官ノ稅政ヲ如實ニ示シ其時代ノ地方政治ヲ考究スルニ逸スベカラザル資料デアル、而シテ本解文ハ其奥書ニアル如ク正中二年ノ鈔本デ現存解文中ノ最モ古キモノニ屬シテキル。
奥書次ノ如シ

「於勢州桑名郡内富津御厨小山勝福寺依難背仰付鳥跡了
正中二年八月十一日彼岸第三午尅了」。

丙種書藉

紙本墨書古書籍五種

日本靈異記(上卷缺)

二卷

口遊 源爲憲撰

一册

明治三十八年

名古屋市中區門前町

本朝文粹卷十二、十四卷

弘長三年二月ノ奥書アリ

四月四日

寶生院

同 上卷ノ十四一册

倭名類聚鈔(殘缺)卅三葉

(解説)

〔日本靈異記〕 日本國現報善惡靈異記トイフノガ本名デ雄略天皇ノ時ヨリ光仁天皇ノ御代マデ朝野ノ事實デ因果應報ニ關スル靈異ナコトヲ記シテアル、弘仁年中奈良藥師寺僧景戒ノ著デアル、高野山金剛三昧院ニ上卷ガアツテ併セテ全キテ得ル。

(解説)

〔口遊〕 口遊ハ今ヨリ約千年ノ昔圓融院天皇ノ天錄元年ニ源爲憲ガ藤原爲光(後太政大臣)ノ

長子松雄君ノ爲ニ起草シタ教科書デアル。
本書編纂ノ目的前述ノ如クナレバ當時貴紳間ニ要求セラレシ常識如何ヲ見ルニ足ルベク、他面ヨリ見レバ平安朝盛時世相ノ反映トモ目セラル、本書ノ傳本ハ大須寶生院ノ寶庫ニ存スルモノ唯一ニ止マル、筆者ハ「行文」トイヘル人ナルコト奥書ニ見ラレルガ未ダ其傳記ヲ詳ニシナイ。

原本ハ袋綴一册デ縱八寸七分五厘横七寸アリ表紙ハ黄土色布目紙デ後世加ヘシモノデアル、後世加ヘシ表紙ヲ除ケバ原本ノ元ノ姿ヲ見ルヲ得、ソノ元ノ本表紙共三十八張デイヅレモ楮紙デアル。

(解説)

〔本朝文粹〕 言フ迄モナク藤原明衡ノ編デ古來ノ漢文ヲ分類シテ十四卷ニ編輯シタノデアル二卷ノ方ノ卷ノ十四奥書ニハ次ノ通り。

「弘安三年七月九日酉刻計書寫畢幸順(花押)」

「正應元年夷則以家説授申已訖、散木藤淳範」

一册ノ方奥書ハ次ノ通り、

「建保五季_丑六月八日申尅書了貞圓之」

「於高天寺金剛灌院爲佛法興隆雖惡筆書了」

イヅレモ假名及偏訓等國語史上貴重ナモノデアル。

(解説)

〔倭名類聚鈔〕 倭名類聚鈔ハ源順ノ著デ、本邦古代ノ辭書トシテ價值甚ダ大ナルコト世ノ周

ネク知ル所デアルカラ今之ヲ説カナイ。
 倭名類聚鈔ニハ十卷本二十卷本ノ二種アツテ、ソノ十卷本ヲ以テ作者ノ眞面目ヲ傳ヘタトス
 ルコトガ學界ノ通論デアル、コノ書ハ古寫本デ鎌倉時代ニ遡レバ一モ完キ本ヲ見ナイ、本書
 モ亦殘缺デアアルガ比較的紙數多ク傳ハレルニヨリ古來學界ノ重ンズル所トナツタ。今實地ニ
 ツイテ見ルニ先ヅ包紙アリソレニ「倭名類聚抄三十三丁六十六合」ト記ス、コノ包紙ハ後世
 加ヘシモノデ 内容三十三紙ハ重ネタマ、デ綴ヅツテナイ、イヅレモ楮紙デ厚薄數種アリ大
 體高サ九寸五分横ハ二折デ一頁七寸餘アリ、左右端ニ元綴ヂタ穴が見エテキル、恐ラクハモ
 ト袋綴デアツタラウ、ソノ大部分ハ古文書、古曆等ノ紙背ヲ利用セシモノナルガ内二十七葉
 ハ倭名類聚鈔ノ文タルコト明デ、他ノ一紙ニハ「弘安六年八月九日云々」ノ識語ガアリ、他
 ノ五紙ハ紙背白紙デアアル、惟フニイツノ世ニカ五張ヲ逸シタニヨリソノ缺ヲ補ハム爲ニ、カ
 ノ零簡五葉ヲ加ヘタモノナルコト殆ンド疑フベカラザルモノデアアル。

紙本墨書古書藉六種

空也上人誄源爲憲作 一卷

天治二年ノ奥書アリ

熊野三所權現御記文 一卷

延久二年八月ノ奥書アリ

熊野權現藏王殿造功日記 二卷

續本朝往生傳 一册

大江匡房撰 延長五年十二月ノ奥書アリ

拾遺往生傳 三帖

三善爲康撰 正嘉元年十一月ノ奥書アリ

後拾遺往生傳 三帖

三善爲康撰 正嘉二年七月ノ奥書アリ

三外往生記沙門蓮禪撰 一帖

正嘉二年六月ノ奥書アリ

本朝新修往生傳 一帖

藤原宗友撰 正嘉二年正月ノ奥書アリ

弘法大師御傳 二卷

元暦元年五月ノ奥書アリ

名古屋市中區門前町

寶生院

丙種書籍

明治三十七年 四月四日

弘法大師傳(初メ缺)

一册

應安八年正月二十六日ノ

奥書アリ

弘法大師傳記(初メ缺)

一卷

貞和二年七月ノ奥書アリ

弘法大師行化記 一册

貞和二年七月ノ奥書アリ

高野大師傳 一帖

弘法大師御入定勘決

記 二册

弘法大師御入定勘決

抄 一册

高野口決 一卷

(解説)

〔空也上人誅〕空也上人ノ死ヲ吊ヒ生前ノ功德ヲ稱ヘタモノデ、奥書ニ「天治二年初冬廿五日書寫一校畢惟西文句狼藉也以他本可校」トアル。

(解説)

〔熊野三所權現御記文〕熊野三所權現ノ事ヲ記シタモノデ、奥書ニ延久二年八月十八日午戌トアル。

(解説)

〔熊野權現藏王殿造功日記〕熊野藏王寶殿造立ノ事及天皇御參詣ノ事等ヲ記シタモノデアル

(解説)

〔續本朝往生傳〕續日本往生傳トモイフ、慶滋保胤ノ日本往生極樂記ニ續イテ一條天皇、後三條天皇以下往生極樂ヲ願ツタ凡ソ四十二人ノ事迹ヲ記シタモノデアル、「建長五年巳十二月

(解説)

六日於西峯草庵書寫了乘忍四十二」ト奥書ガアル。

(解説)

〔拾遺往生傳〕善仲以下道乘上人ニ至ル凡ソ三十五人ノ桑門傳デアアル。

(解説)

〔後拾遺往生傳〕拾遺往生傳ノ續輯デ清和天皇以下六十四人ノ傳記ヲ記シタモノデアアル。「正嘉二年七月十七日已刻於西山法花山寺書寫了、乘智」ト奥書ガアル。

(解説)

〔三外往生記〕遺漏ノ四十九人ノ行狀ヲ錄シテアル、其内一品法親王、興福寺經源等數人ハ後拾遺往生傳ニモ見エテ居ルガ彼是詳略ガアル、「正嘉二年六月十二日酉尅於法花山寺書寫之了乘忍記之」ト奥書ガアル。

(解説)

〔本朝新修往生傳〕仁平元年臘月一日朝散大夫藤原宗友ノ自序ガアル、往生傳ノ後ヲ繼ギ四十一人ノ事蹟ヲ載セテキル。「正嘉二年正月晦日酉尅於西山法花山寺書寫之了乘晶四十七」ト奥書ガアル。

(解説)

〔弘法大師御傳〕「元曆元年五月十五日未刻書寫了」ト奥書ガアル、

(解説)

〔弘法大師傳〕「應安八年正月廿六日於醍醐寺阿彌陀院以成賢僧正自筆本寫之」ト奥書ガアル

(解説)

〔弘法大師傳記〕「貞和二年丙戌七月一日於紀州金剛峯寺以持明院御本書寫了」ト奥書ガアル

(解説)

〔弘法大師行化記〕「貞和二年丙戌六月中旬於高野山以持明院御本書寫了」ト奥書ガアル。

〔弘法大師傳〕 空海僧都傳及贈大僧正空海和上傳記ノ二部ヲ合セタモノデアアル。

〔弘法大師御入定勅決記〕 此書ハ弘法大師ガ高野山ニ入定セラレタカ入滅セラレタカヲ、勅決シテ入定説ノ正シイコトヲ論定シタモノデアアル、奥書ニ「于時貞治第三曆黃鐘中九日於尾張國那古野庄安養寺壇所忍寒氣書寫了、金資深患」トアル。

〔弘法大師御入定勅決抄〕 「承安三年癸巳十二月十五日、於沖川菴室書寫了、玄惠之本也」ト奥書ガアル。

〔高野口決〕 「貞治六年八月十日、以中性院本寫之」ト奥書ガアル、高野山ノ建物及安置シタル佛像等ノ事ヲ説明シテキル。

〔高野口決〕 「貞治六年八月十日、以中性院本寫之」ト奥書ガアル、高野山ノ建物及安置シタル佛像等ノ事ヲ説明シテキル。

書丙 種 紙本墨書翰林學士 詩集 (零本) 一卷 明治四十一年 四月二十三日 名古屋市中區門前町 寶生院

〔解説〕 初モ終モ闕ケ、裏書ニハ表制集卷第五トアル、終ニ集卷第二トアルカラ第二卷デアラウガ從來ノ書目ニ載ツタコトガナイノデ全篇ノ卷數及著者モ不明デアアル翰林學士トハ翰林院即チ支那京師ノ大學デ我ガ文學博士ノ唐名デアアルガ、コレヲ見ルト居敬宗ノ詩ガ多イカラ或ハ居敬宗ノ撰カト思ハレル、御製題シテ太宗文皇帝トアルニヨツテ唐高宗以後デアラウ、ソノ字體カラ見ルト延喜以前ノ寫本デアアルコトヲ經籍訪古志ニ記シテアル。

繪丙 種 絹本着色騎馬武者像 傳 足利尊氏像 明治四十二年 九月二十一日 名古屋市南區熱田田中町 地藏院

〔解説〕

頭ニ烏帽子ヲ冠リ身ニハ桐唐草文様ノ直垂ノ上ニ喉輪、籠手、臙當ヲ着ケ籠ヲ背ニシ尻鞆カケタル太刀ヲ佩キ、手ニハ弓ヲ取ツテ白馬ニ御シテキル、寺傳ニ足利尊氏ノ像トイヒ、集古十種ニモ同ジ名稱ヲ以テ此像ヲ掲ゲテキル、籠手ノ上ニ丸ニ二ツ引兩ノ据紋ガアルヲ見レバ足利家ノ公達デアアルコトダケハ首肯セラレルガ其人ヲ決定スベキ資料ノナイヲ遺憾トスル、唯足利時代ノ主將ニカヤウナ小具足ノ打扮ガアツタコトハ蔭涼軒目錄ニモ見エテキル、コノ時代デハ崇拜的ニ畫カレタ個人ノ像ニ鎌倉時代ニ見ル如キ端座衣冠ヲ整ヘタモノモアルガ、コノ像ノ如キ騎馬武者ノ姿ガナカノニ歡迎サレルコトトナツタラシイ、コノ種ノモノトシテソノ足利家ノ人デアリ、尙且ツソノ打扮ニ記錄的徵證ヲモ有スル點ニ於テコノ像ハ尊重サレル、畫トシテハ土佐派ノ様式ガ既ニ固定シタ足利中期以後ノモノデ傳ニ土佐光信筆トスルコトノ當否ハ姑ク措キ、オヨソ其頃ノモノト見テ差支アルマイ尙考古畫譜ニ此畫ガモト熱田社頭ノ扁額デアツタタイプ一説ヲ載セテキル。

刀丙 種 太 刀 一口 銘 正恒拵絲卷太刀 大正二十二年 四月十四日 名古屋市西區茶屋町 東照宮

刀丙 種 太 刀 一口 銘 遠 拵絲卷太刀 大正十一年 四月十三日 名古屋市西區茶屋町 東照宮

〔解説〕

作者ハ備前國ノ人、時代ハ元暦承久ノ間デアアル、作品ハ地双共ニ優レタ出來デ双文ガ殊ニ華

美デアル、蓋シ其ノ作中ノ屈指ノモノデアラウ、強テ短所ヲ舉グレバ、錕ノ下ニ少シク不充分ノ所ガアルガ深ク咎ムルニハ足ラナイ、之ハ二荒山神社ニアル同作ノモノヨリハ秀逸ニ見エル双ノ長サ二尺五寸六分、舊記ニ元和五年當宮創建ノ時徳川義直ノ寄進ト載セテアル。

甲種三等 卷

色紙墨書妙法蓮華經

大正九年四月十五日

名古屋市南區笠寺町

寺

(解説)

平安朝末期ニ流行シタ金銀本位ノ華美ナ裝飾ヲ避ケテ色替リノ料紙ト單純ナ文様トニ依ツテ却テ優婉ノ致ヲ極メタ一種ノ寫經デアル、世ニ光明皇后御筆ノ鳥ノ下繪經ト稱セラレル、光明皇后トハ年代モ遙ニ降ツテ居ルガ、其形狀様式ヨリ筆蹟ニ至ルマデ平安朝代ノ靜肅閑雅ナ女性的氣風ヲ表現シテ居ルカラカ、ル假託ノ説ヲ生ズルニ至ツタノデアル、此種ノ寫經殘片ハ世間ニ類例ガ無イデモナイガ、一卷完結ノモノハ本經ト金剛峯寺ノ藏本トノ以外甚ダ稀觀ナリト云ハネバナラス。

彫刻

木造無住和尚坐像

大正三年八月二十五日

名古屋市東區矢田町

寺

(解説)

像高二尺六寸五分、寄木造彩色玉眼嵌入、鎌倉時代ノ作風デアル。

甲種四等

木造舞樂面 十二面

明治三十七年八月二十九日

一宮市

彫刻

一、崑崙八仙三、童舞二、二ノ舞二、貴徳一、散手一

眞清田神社

裏書承元二之舞尉、二之舞姥、裏書無之童舞二、貴徳百三十六號、納曾利百三十四號散手、裏書五年云々

承元崑崙八仙二、還城樂、以上裏書建崑崙八仙、百四十四號、裏書延文五年云々

甲種四等 美術工藝

陶製狛犬 一箇

大正三年九月三日

東春日井郡瀬戸町

神社

(解説)

陶製狛犬 鎌倉時代ノ彫刻ノ特色ハ一面狛犬ヲ以テ代表サレル觀ガアル、ソレガ木彫ノミナラス陶器ニサヘモ見ラレル程盛ンデアツタ、コノ像ハ所謂椿窯手ト稱セラレ、淡茶色デ硝子様ノ透明釉藥ガ一面ニカカツテキテ一種瑩潤ノ色澤ヲナシテキル、大體ノ形相ハ時代作品ト相離レタモノトハ云ヘナイガ、陶器デアルダケ木彫ノ如キ銳利ナ刀法ヲ以テ造形セラレタモノトハ全ク趣ヲ異ニシタモノデ誇張シタ外形ヨリハ寧ロ簡潔ナ手法ニヨツテカノ充實ヲアラハシタ所ニオノヅカラ別様ノ趣致ガタタヘラレテキル、コノ狛犬ガソノ釉藥製法等ヨリ見テ瀬戸燒ノ祖先藤四郎ノ作トナツテキルノハ全ク無稽ノ説トミナスコトハ出來ナイ、鎌倉時代彫刻界ハ木彫ニヨツテ獨占セラレ粘土ノ使用ハ甚ダ稀トナツタガ、製陶方面ガ擡頭シ來ツテ陶工ノ間カラカカル製作ヲ出スニ至ツタノハ頗ル珍トスベキデアル、モト一對アツタモノデアラウガ、今ハ一頭ノミガ遺存シ、而モ左前足全ク缺失シ又頂上ノ肉角モ破損シテキル。

彫刻

木造藥師如來立像 一軀

大正三年八月二十五日

東春日井郡篠木村大字熊野院

甲種四等彫刻

木造地藏菩薩立像
嘉元元年無住作ノ銘アリ

大正三年
八月二十五日

東春日井郡志段味村大字吉根寺

(解説)

像高二尺五寸三分五厘一木造。

丙種太刀

銘 助重
拵 拵絲卷太刀
德川綱誠寄進

大正八年
四月十二日

東春日井郡品野町大字沓掛寺

(解説)

作者ハ備前國福岡ノ人、時代永仁ノ比作品優秀テ殊ニ銘ガ鮮明デア、又ノ長二尺四寸一分拵ハ徳川中世前ノ絲卷太刀デ全備シテキル。

丙種太刀

銘 守家
拵 拵絲卷太刀
徳川宗睦寄進

大正八年
四月十二日

東春日井郡品野町大字沓掛寺

(解説)

作者ハ備前國畠田ノ人二代目デ時代正元ノ比作品無難テ初代ニ劣ラザルモノデア、又ノ長二尺三寸四分拵ハ徳川中世比ノ絲卷太刀デ全備シテキル。

彫刻

木造薬師如來坐像

大正九年
四月十五日

西春日井郡勝村大字高田寺

(解説)

高二尺四寸五分一見シテハ古平安ヲ擬セシムル作風デア、仔細ニ點檢スルト全身ノ前屈ミノ姿勢ヤ煩瑣ナ屈曲ニ巧緻ナ刀痕ヲ留メタ衣褶翻轉ノ法ハ更ニ後代人ノ作ナルヲ疑ハシメル、恐クハ又鎌倉時代ニ於ケル模古ノ一例デナカラウカト思フ、確ニ一個ノ異像デア、惜ムラクハ膝部尻部ノ全面ニ亘ツテ其ノ下邊ヲ失ヒ今ハ寶永製作ノ伏蓮華座ヲ以テ之ヲ補ツテアル肉身ニハ金箔ヲ押シ着衣ハ朱地ニ青緑ノ唐草模様ヲ置キ金地ノ盛上サヘ混ヘテ居ル、コノ彩色又決シテ近世ノモノデナク大體ニ於テ製作當時ノモノト思ハレル。

甲種四等繪畫

絹本着色淨土五祖像
賛アリ

大正七年
四月八日

葉栗郡宮田町字前飛保曼茶羅寺

甲種四等美術工藝

黒漆蒔繪經篋 一合
輪廓磨繪獅子文様アリ
附法華經入金銅寶相華透
彫經筒 一個

明治三十七年
八月二十九日

中島郡稻澤町大字長野萬徳寺

(解説)

宮ハ蓋表ニ輪寶ヲ中心ニシテ左右ニ羯磨ヲ蒔繪ニシテ其側面ニハ散雲、身ノ圍リニハ獅子ト牡丹ガマタ蒔繪デ現ハサレテキル、何レモ平蒔繪ニ近イモノデ技巧ノ精美ハ蓋表ノ文様ニ現ハレ簡素テ趣致ノ多イコトハ側面ノ文様ニ知ラレル、羯磨形透彫紐ノ付金具ヤ臺ノ香狹間形ニモ金工トシテ一種ノ趣致ガアル獅子ノ線抜ニシタ蒔繪ノ手法ト香狹間ノ肩下リニナツタ形及ビ散シ金具ノ様式ヲ見レバ足利初世ニ近イ作ト思ハレル。
コレヲ藏メタ金泥ノ法華經第一ハマタ寶相花唐草ノ透カシ文様ノ中ニ同ジ題簽ヲ現ハシタ鍍

金ノ筒ニ嵌メラレルノデアアル、經卷ノ和様風ノ筆跡ニ副フベク經筒ノ形ト裝飾文様ニモ同ジ
優婉ナ趣致ガアル、モト此一卷ノミニ止ラズ、數卷具足シテ各其美裝ニ輝イテキタノデアアラ
ウ兔ニ角此一巻ダケガ保存セラレテ珍ラシイ裝飾法ヲ見ルノハ斯界ノ慶事トイハネバナラヌ

彫 刻 木造虚空藏菩薩坐像 一軀 明治四十二年九月二十一日 中島郡大里村大字北市場 虚空藏堂

(解説) 像總丈二尺二分寄木造彩色胎内ニ佛説如來虚空藏經ヲ藏シ、奥書ニ康安元禊九月十三日比丘
慈圓謹書トアリ。

彫 刻 木造釋迦如來坐像 一軀 明治四十二年九月二十一日 中島郡明治村大字矢合 寺

(解説) 坐像塗箔寶髻天冠臺ヲツケ白毫玉眼嵌入寶冠鍍金八角形寶草花ノ透彫リ兩手屈臂膝上ニ安ジ
法界ノ定印ヲ結ビ結跏趺座、臺座ハ十二重座五邊葦蓮花、敷茄子、蕊、花盤八角形、獅子、
受座、八角、蕊、反花、三段框座八角形其ノ下ニ足ツキ角金具ヲ附シタル八角框座ヲ附ス

甲種三等 彫 刻 木造傳覺山和尚坐像 一軀 明治四十二年四月十四日 中島郡明治村大字矢合 寺

(解説) 坐像玉眼極彩色袈裟ヲ懸ケ兩手ヲ膝上ニ安ジ右手ニ拂子ノ柄ヲ握リ、左手ニ拂子ヲ受ケタル
形ヲナス左右ニ袖前ニ裳先ヲ長ク垂下シ前ニ靴ヲ置ク。

甲種三等 彫 刻 木造傳熱田大宮司夫妻坐像 二軀 明治四十二年四月十四日 中島郡明治村大字矢合 寺

(解説) 男體、坐像着色僧形玉眼嵌入法衣ヲ着ケ袈裟ヲ懸テ兩手屈臂膝上ニ安ジ、法界定印ヲ結ビ結
跏趺座袖ヲ左右ニ張ル臺座ナシ。
女體、座像着色頭巾ヲ被リ玉眼嵌入兩手屈臂合掌袈裟ヲ懸ケ前ニトリタル裳ヲ垂レテ袖左右
ニ張ル臺座ナシ。

甲種四等 彫 刻 木造釋迦如來坐像 一軀 明治四十二年四月十四日 中島郡明治村大字矢合 寺

(解説) 坐像塗箔寶髻、銅製透彫ノ寶冠ヲ頂キ白毫玉眼嵌入鬢髮ヲ右左ニ垂レ兩手ヲ膝上ニ安シ法界
定印ヲ結ビ結跏趺座。臺座ハ四重座五邊葦蓮辨、敷茄子反花岩座ツキ後背ハ二重圓相後光中
央ニ八葉ツキ周圍ハ雲烟透彫。

彫 刻 木造藥師如來坐像 一軀 明治四十二年四月十四日 中島郡明治村大字法花寺 藥師堂安置

(解説) 坐像螺髮白毫嵌入、右手屈臂上掌外掌左手ヲ膝上ニ安シ瑠璃壺ヲ持テ結跏趺座右足ヲ以テ左
膝ヲ押ユ臺座ハ三邊葦蓮花座後背ハ輪後光何レモ後世ノ拙作デアアル。

彫 刻 木造十一面觀音立像 一軀 明治四十二年八月四日 中島郡明治村大字船橋 安樂寺

(解説) 像丈三尺二寸四分、一木造肉身漆箔衣紋彩色藤原始期ノ作。

彫 甲種四等 木造阿彌陀如來坐像 一軀 大正四年 中島郡明治村大字船橋安樂寺

(解説) 像高四尺七寸五分、寄木造肉身朱漆塗藤原末期ノ作。

彫 甲種四等 木造釋迦如來坐像 一軀 大正四年 中島郡明治村大字船橋安樂寺

(解説) 像高四尺六寸、(現首落チ)寄木造肉身朱漆塗藤原末期ノ作。

彫 刻 木造大應國師坐像 一軀 大正三年 中島郡大和村大字妙興寺

(解説) 像丈二尺六寸五分五厘、寄木造彩色玉眼嵌入。

繪 甲種二等 絹本着色佛涅槃圖 一幅 明治三十七年 中島郡大和村大字妙興寺

繪 丙種 紙本着色足利義教像 一幅 明治三十八年 中島郡大和村大字妙興寺

(解説) 足利義教ハ永享四年富士遊覽ノ歸途當寺ニ立寄り滞在スルコト半日、寺領ヲ復歸セシメタカラ、住持古伯之ヲ徳トシ此畫像ヲ畫カシメテ祀ツタ、其事相國寺鹿苑院住持瑞谿周鳳ノ贊ニ

アル、義教ノ子義政ハ之ニ證判ヲ與ヘ永ク妙興寺常住トセシメタ。



繪 甲種三等 紙本着色不動尊像 一幅 明治三十四年 海部郡甚目寺村甚目寺

繪 甲種四等 絹本着色佛涅槃圖 一幅 明治三十四年 海部郡甚目寺村甚目寺

刀 丙種 太刀 一口 大正九年 海部郡津島町津島神社

(解説) 眞守ハ伯耆國大原ノ人、名劔拔丸ヲ鍛エタノデ有名デアアル、父安綱ト相並ビテ本邦刀劔在銘中ノ最モ古キモノヲ殘シテ居ル此ノ太刀地鐵細美双文古雅ニシテ一千有餘年ヲ經タル今日尙精氣ノ完キハ到底後ノ刀工ノ遠ク及バザル所デアアル、唯物打ノ邊ニ微暈ノ存スルヲ遺憾トスルガ恐ク後世不慮ノ過失ニヨツテ出來タモノデアラウ、双ノ長二尺七寸四分堀田彌五郎正泰ノ佩刀デ正泰ガ今ハ大已貴尊武内宿禰ヲ祭神トスル攝社彌五郎殿社ヲ創建シタトキ寄進シタノデアルト傳ヘラル、正泰ハ正平四年楠正行ト共ニ四條噓デ戰死シタ南朝ノ名士デアアル。

刀 丙種 劔 一口 大正十二年 海部郡津島町津島神社

(解説) 作者ハ初代長光デアアル劔ハ地双共ニ佳良デ完作ト言フベク、加フルニ彼ノ幾多ノ作中劔ガ極メテ稀デアアル點ニ於テ更ニ珍重ノ度ヲ昂メル、双ノ長七寸三分五厘、明治維新ノ際社殿ヨリ

紛失シタガ後年同地ノ市人、山田庄次郎之レヲ發見シ其ノ子(同名)ノ時改メテ寄進スルコト、ナツタ。

繪甲種四等畫

絹本着色佛涅槃圖 一幅

大正七年八月八日

海部郡津島町寶壽院

繪甲種四等畫

紙本淡彩惠可斷臂圖 一幅

明治三十年八月二十九日

知多郡大野町齊年寺

(解説)

惠可斷臂圖ハ明曆五年七月雪舟七十七歳ノ作デア、支那六朝ノ末惠可禪師ハ嵩山ニ隱居セ、ル達磨大師ニ謁シタ、面壁ノ達磨ハ一瞥ヲモ與ヘナイ惠可ハ膝ヲ埋ムル折カラノ大雪ヲ物トモセズ立チナガラ遂ニ左臂ヲ斷ツテ求法ノ牢キ決意ヲ示スニ至ツテ始メテ、達磨カラ法ヲ傳フルヲ得頓テ支那禪宗ノ第二祖トナツタトイフ有名ナル禪門ノ説話ヲ畫イタモノデア、人物ノ顔面ニ多少ノ赭墨ト惠可ノ臂ニ一條ノ血ノ朱線トガアル外、他ハ悉ク水墨デア、兩僧ト岩洞ト次第二奥行ヲ深メテ行ク構圖極メテ妙加フルニ鐵棍ヲ曲ゲタル如キ剛健ナル墨線ヲ驅使シテ達磨ハ簡明ナ常套的ナ坐像惠可ハ稍寫實的ナ半身像ト詳略ソレハ、ニ趣ヲ異ニシ、飽クマデモ強キ印象ヲ觀者ニ與ヘネバ己マヌ處ハ正ニ畫聖ノ巨腕ニ負フトイハネバラヌ。

繪甲種四等畫

絹本着色善光寺如來 三幅

大正七年八月八日

碧海郡矢作町大字桑子源寺

繪甲種四等畫

絹本着色法然上人 三幅

大正七年八月八日

碧海郡矢作町大字桑子源寺

繪甲種四等畫

絹本着色親鸞上人 三幅

大正七年八月八日

碧海郡矢作町大字桑子源寺

繪甲種四等畫

絹本着色聖德太子 十幅

大正七年八月八日

碧海郡櫻井村大字野寺

繪甲種四等畫

絹本着色善光寺如來 四幅

大正七年八月八日

碧海郡櫻井村大字野寺

刀丙種 劍

太刀 一口

大正三年四月十七日

額田郡常磐村大字瀧常磐神社

刀丙種 劍

太刀 一口

大正十三年四月十五日

額田郡常磐村大字瀧常磐神社

(解説)

双長二尺六寸九分、其ノ形ノ美ナルノミナラズ古雅ナ小丁字ニ足入リノ双文ト細微ナ鍛トハ

更ニ其ノ美ヲ加ヘル、作者長光ハ文永比ノ人備前國ニ住シ雲ノ如キ長船名工中ニ在ツテ最モ聲名ヲ馳セタ人デアアル、其ノ作品デ既ニ國寶ニ指定サレタモノ五口モアルガ、未ダ此ノ作ニ及ブ尤物ハナイ、正保三年九月當社造營ノ時將軍家光寄進ノ由緒ガアル、其ノ絲卷太刀ノ拵ハ形制完好家光以前ノ古式ヲ存シ、太刀箱モマタ總金梨子地蒔繪莢紋散ノ華麗ナモノデ拵ト相距ルコト遠クナイ時代ト思ハレ他ニ餘リ比類ヲ見ナイ製作デアアル。

甲種四等 繪畫

絹本着色佛涅槃圖 一幅
應永二十八年尊緣比丘
義陸トアリ

大正七年 四月八日

西加茂郡舉母町大字長興寺 長興寺

丙刀 種劍

太刀一口
銘行安拵兵庫鎖太刀

大正八年 四月十二日

西加茂郡猿投村大字猿投社 猿投社

(解説)

作者ハ薩摩國波平ノ人數代アルガ、其ノ初代ノ作ニ係リ時代詳カナラザルモ元曆ヲ下ラヌデアラウ、作品少シク缺點アレド全體ニ善ク整ヒ殊ニ帽子及中心至テ完全デ銘勁健デアアル、長二尺四寸四分世ニ稀ナモノデアアル、拵ハ兵庫鎖ノ太刀デ鎌倉時代ノモノ欲損ノ箇所アレド古雅デ最モ參考トナルベキモノデアアル。

甲種三等 美術工藝

銅 鐘 一口

大正十一年 七月十五日

寛飯郡八幡村大字八幡寺 八幡寺

(解説)

總高三尺八寸八分、口徑二尺六寸九分三河國分寺ハ現今寺ノ名ニミ殘ツテ遺蹟ヲサヘ究ムルニ難イガ、恐クハ其ノ最モ著シキ記念物ト覺シキ梵鐘ガ天平ノ面影ヲ留メテ居ル、形制ハ普通古鐘ニ見ルヤウニ肩ヨリ口邊ヘカクテ豊ナ膨ミヲ示シ、乳帶比較的狹クソノ乳ハ己ニ古銅ノ百乳ノ意味テ失ツテ寶珠形ノ突起トナツテ居ルガ素紋ニシテ撞座(蓮華紋殆ンド磨滅)高ク殆ンド鐘身ノ中央部近ク位シテ居ル、コノ中央部近ク位シテ居ルコトナド猶ホ平安以後ノモノトハ品類ヲ異ニシテ居ルノデアアル、ソノ龍頭又頗ル奇古兩龍相連スル形低ク恰モ提梁ノ如キ態ヲナシ身ヲ臥セテ強ク吻ヲ鐘蓋ニ按シテ居ルカノ如キ、時代古ク形體美シキ鐘ハ全國ニ亘ツテ指幾ツカヲ屈スルニ過ギヌデアラウ。

甲種四等 彫刻

木造地藏菩薩立像 二軀

大正三年 八月二十五日

寶飯郡豊川町大字豊川寺 豊川寺

(解説)

像丈一ハ二尺五寸六分、一ハ二尺五寸三分五厘寄木造彩色臺座共、鎌倉時代ノ作デアアル。

甲種四等 繪畫

絹本着色王宮曼茶羅圖 一幅

大正七年 四月八日

寶飯郡御津村大字廣石寺 廣石寺

(解説)

觀無量壽經說相ノ一部ヲ現ハシタ曼茶羅デ摩揭陀國王舍城ノ阿闍世太子ト其父母ニ關スル因縁ヲ畫キ、ソレガ城内ノ宮室ニ起ツタ事柄デアアルコトカラ王宮曼茶羅トイフノデアアル、圖樣及其ノ圖中短冊銘ニ「皇慶元年二月日題」トアルニヨリテ外國製タルコトガ知ラレル、皇慶元年ハ元ノ仁宗ノ時ノ年紀デアアルガ此畫ノ樣式ヨリ見テ恐ラク元ノ正朔ヲ奉ジテ朝鮮高麗

朝ノモノト思ハレル、袂背ニハ當山二世聲譽上人代徳川親忠ノ寄附ニナツタ由ガ書イテアル。

甲種四等 木造阿彌陀如來坐像 一軀 大正十一年 渥美郡二川町 普 寺

甲種四等 木造釋迦如來坐像 一軀 大正十一年 渥美郡二川町 普 寺

(解説) 高各四尺五寸、五佛ノ殘闕カト思ハレル共ニ藤原後期ノ作デアル、就中釋迦ハ端正ナ姿三種ノ威嚴ヲ有テ能ク當代ノ好典型ヲ示シテ居ル、兩像トモ製作當時ノ八角裳懸座ヲ破損シナガラ存スルコト又貴ブベキコトノ一デアアル。

甲種四等 木造四天王立像 四軀 大正十一年 渥美郡二川町 普 寺

(解説) 高(夜叉共)六尺二寸同ジク藤原後期ノ作デアルガ、猶ホ前代ノ遺風ヲ存シ軀幹雄偉ニシテ華麗ノナカニ渾樸ノ趣ガアル、當初ノ彩色ガ又斑々トシテ殘存シテキル、前記ニ如來ト共ニ地方彫刻中見ルベキモノ、一デアラウ。

銅經筒 (瓦壺入)

丙種 久壽三年建辰月二十九日願主僧勝意ノ銘アリ 大正十二年 渥美郡二川町

金石文 附屬 鏡銅一面 (瓦壺入) 三月二十八日 普 門 寺

鴛鴦花唐文様

(解説) 先年寺ノ後山カラ發掘サレタモノデ表面ニ久壽三年建辰月二十九日僧勝意ノ立願ニ成ル旨ガ鑄出サレ鑄物師伴成恒ノ名モ添ヘラレテアル地金厚ク細工ヲ弄セズシテ自然ニ完好、銘文マタ一種適美ナル書風ヲ示シテ居ルコノ經筒ヲ收メタ瓦製ノ壺モ蓋ハ缺ケテ身ダケガ存ツテ居ル、尙ホ附屬ノ白銅鏡亦同地域カラ發掘サレタモノデ經筒ト略ボ同ジ製作デ同様ノ因縁デ埋メラレタモノデアアル、之ニハ完全ナ瓦壺ガ添ヘテ居リソノ蓋ニハ一種ノ意匠ヲ施シタ鼻鈕ガアル。

刀 劍 太 刀 一口 昭和二十三年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱 田 神 宮

(解説) 銘眞行身ノ表ニ元龜三年辛未八月八日大久保與九郎裏ニ熱田大明神奉寄進之ト切付アリ。

刀 劍 脇 指 一口 昭和二十三年 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱 田 神 宮

(解説) 指表ニ奉納尾州熱田大明神指裏ニ兩御所様被召出於武州江戸御劍作御紋康之字被下罷上刻籠

越前康繼トアリ。

刀 劍 銘 定 一口 昭 和 二 五 年 五月二十三日 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱 田 神 宮

刀 劍 一口 昭 和 二 五 年 五月二十三日 名古屋市南區熱田新宮坂町 熱 田 神 宮

(解説) 銘爲清身ニ熱田大神宮宗久ト切付アリ。

彫 刻 木造愛染明王坐像 一軀 昭 和 三 年 四月四日 八名郡石巻村 赤 岩 寺

(解説)

高三尺二寸七分、寄木造彩色玉眼嵌入ノ像デアル一見地方色ノハツキリシタモノデ品位ハ少シク乏シイガ、ソノ面貌ノ忿怒形ニ似ツカハシイ力ノ表現ナド賞サレル、ソノ天冠臺ニ於イテ見ル如ウナ繊細ナ透彫ノ技巧モマタ注目スルニ足リル、鎌倉末期ノ作デアル尙ホソノ獅子頭ノ中ニ多數ノ愛染ノ小木像ガ籠メテアルノハ珍ラシイ。

彫 刻 木造藥師如來 一軀 昭 和 七 年 十二月十四日 丹羽郡犬山町大字犬山 藥 師 寺

(解説)

像高八二・一糎(二尺七寸二分)寄木造漆箔製作ハ藤原末期デ、ソノ類型的ナ製作ナガラ面貌ナドニ一味ノ生氣ヲ現ハシテ居ルノガ賞セラレル。

彫 刻 木造藥師如來 一軀 昭 和 七 年 十二月十四日 丹羽郡西成村大字淺野 藥 師 堂 安 置 寺

(解説)

像高一・二四九米(四尺一寸二分)寄木造藤原末期ノ様式ヲ完好シタ製作デ、彫技暢達ヨク端正ナ風姿ヲ現ハシテ居リ、コノ地方デノ優作デアル、膝裏ニアル銘文ニヨレバ明應六年並ニ元祿九年ノ修理ヲ經テ居ルコトガ判ル。

工 藝 銅 鐘 一口 昭 和 七 年 十二月十四日 葉栗郡宮田町大字前飛保 曼 茶 羅 寺

(解説)

胴高三三・七糎(二尺八分)、所謂朝鮮鐘デ胴ニハ例ノ如キ乳座撞座ノ外菩薩形天人各四體ト飛雲等ヲ鑄出シテ居ル、製作時代ハ高麗末葉デアラウ、既ニ指定セルコノ種高麗朝作ノ二三ノ小鐘ニ比ベルト作技生硬ニシテ遜色ガアルガ、他ノ小朝鮮鐘トハ異ツテソノ裝飾文様等ノ鑄出ガ鮮明デアアルノハ珍ラシク、加之小鐘ハ大鐘ニ比シテソノ遺存スルモノガ少イノデ本鐘マタ貴重セラレル口縁ニハ數十字ノ鑄銘ガアルガ字劃彫弱、判讀シ難イ。

彫 刻 木造十一面觀音立像 一軀 海部郡蟹江町大字須成 龍 照 院

(解説)

像高一・七二七米(五尺七寸)頭部ト胴體トハ一木彫、胴體ハ兩脇デ正背面ヲ矧合セテ居ル、藤原末期ノ製作デアアル。素地彫デ刀法稠密、所謂檀像式ノ造像デ所々ニ古風ヲ示シナガラ時代ノ好尚ヲ現ハシテ容姿瀟洒、面貌柔和、仕上デ彫ノ精技ハソノ美シサヲ加ヘテ居ル、頂上佛左右脇垂下ノ天衣ハ補作デアアル。

彫刻 木造阿彌陀如來立像 一軀 昭和七年 知如郡成岩町 常樂寺

頭部内弘長三年七月日
法橋圓覺作ノ銘アリ

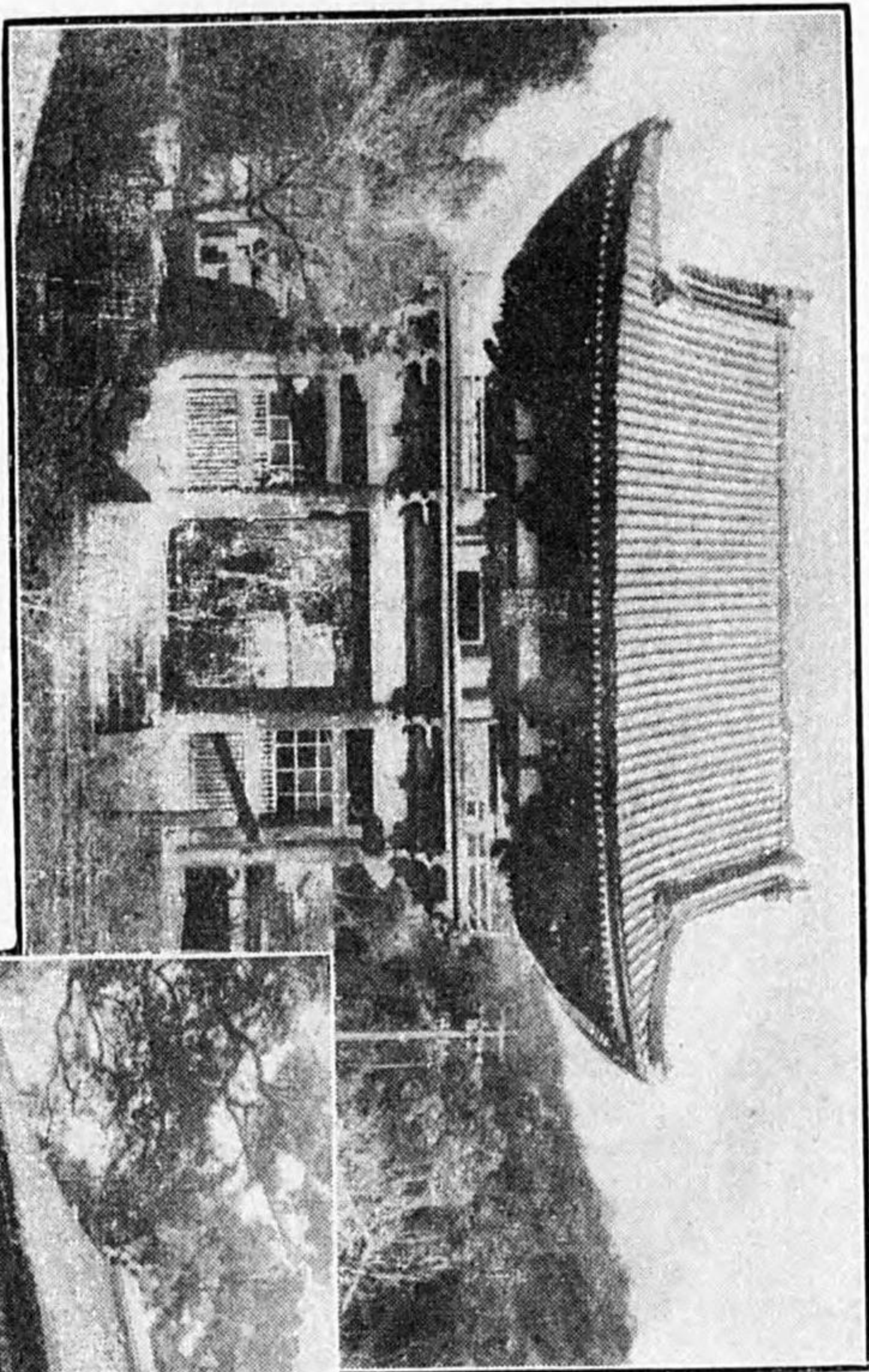
(解説) 像高七八・八糶(二尺六寸)、寄木造漆箔頭部内面ニ「弘長三年七月日法橋圓覺作」ノ墨書銘ガアル、來迎ノ印ヲ結ンダ彌陀立像ニシテコノ種ノ衣紋ヲ現スモノハ鎌倉期ニ於テ好ンデ作ラレ、相當數多ク遺存スルガ、コノ像ハ製作佳、マタコノ種造像ニシテ年記ノアルモノガ殆ンド知ラレテ居ナイノデ、コノ銘記ニヨツテ未知ノ作者ノ名ヲ得タコト、共ニ注意スベキ作品デアアル。

彫刻 木造千觀音立像 一軀 昭和七年 寶飯郡大塚村大字赤根 寺

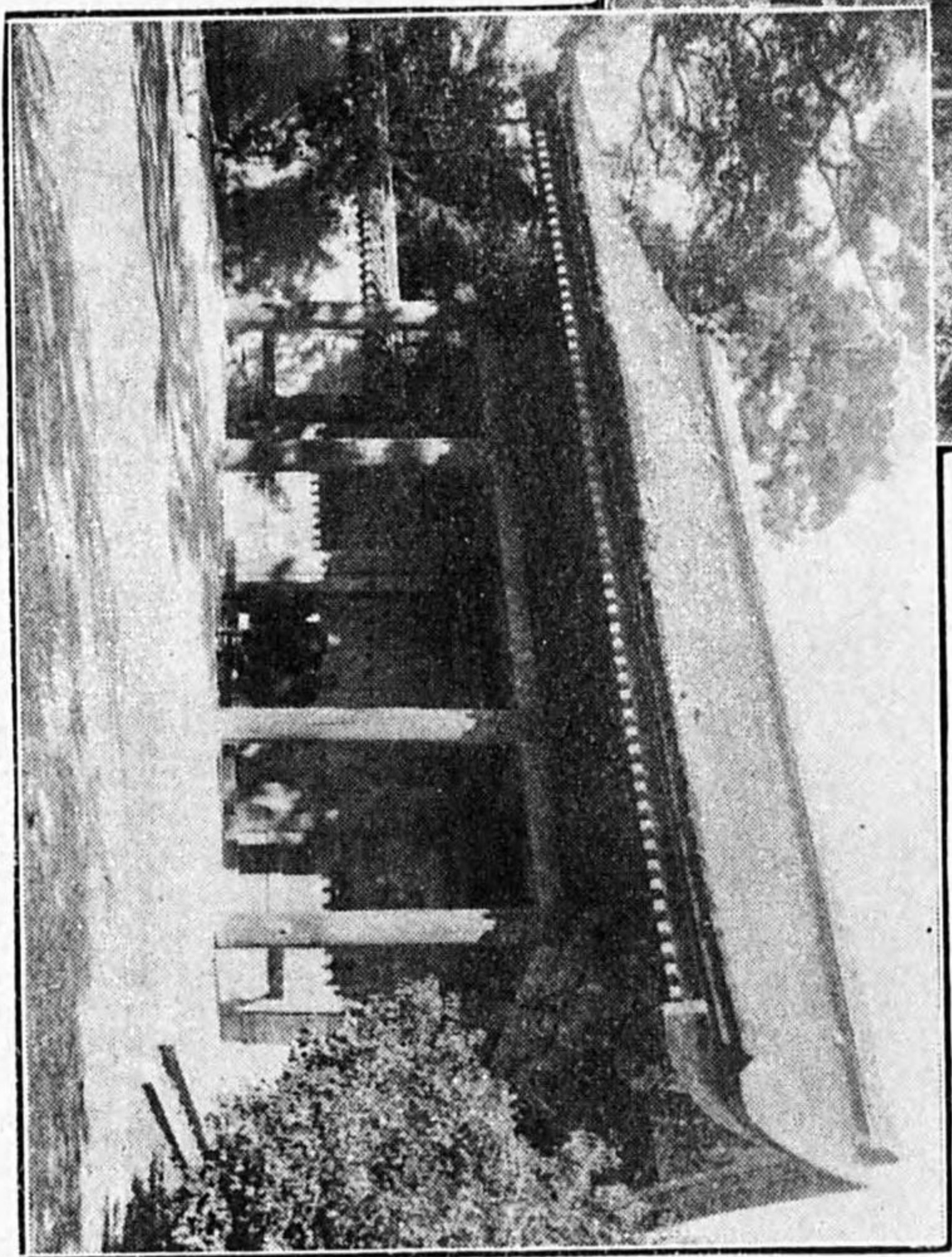
(解説) 像高一・六九二米(五尺八寸五分)藤原期末葉ノ作デ風趣淳撲、手法ハ纖弱ニ赴イテ居ル素地彫ノモノデ裙子ニ七寶擊菊丸紋、龜甲繫等ノ截金文様ヲ遺存シテ居ルノハ珍重ニ値スル頭上佛後補、脇手持物ニモ補修ガアル。

彫刻 木造阿彌陀如來座像 一軀 昭和七年 渥美郡二川町大字小松原 寺
位牌堂安置 十二月十四日 東觀音

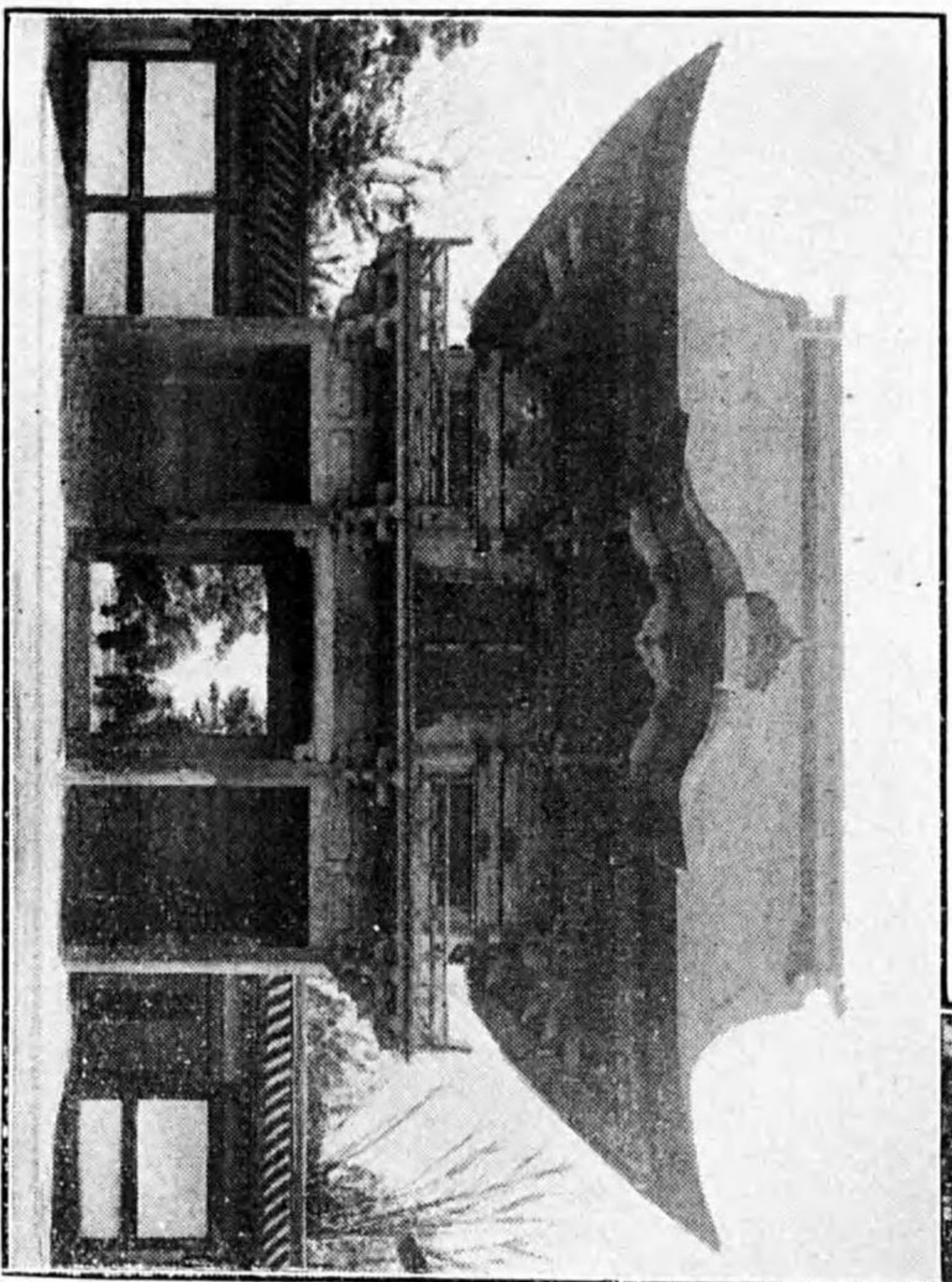
(解説) 像高一・三九四米(四尺六寸)寄木造漆箔鎌倉期ノ様式顯然トシタ像デ形態ガ完好シテ居ル。



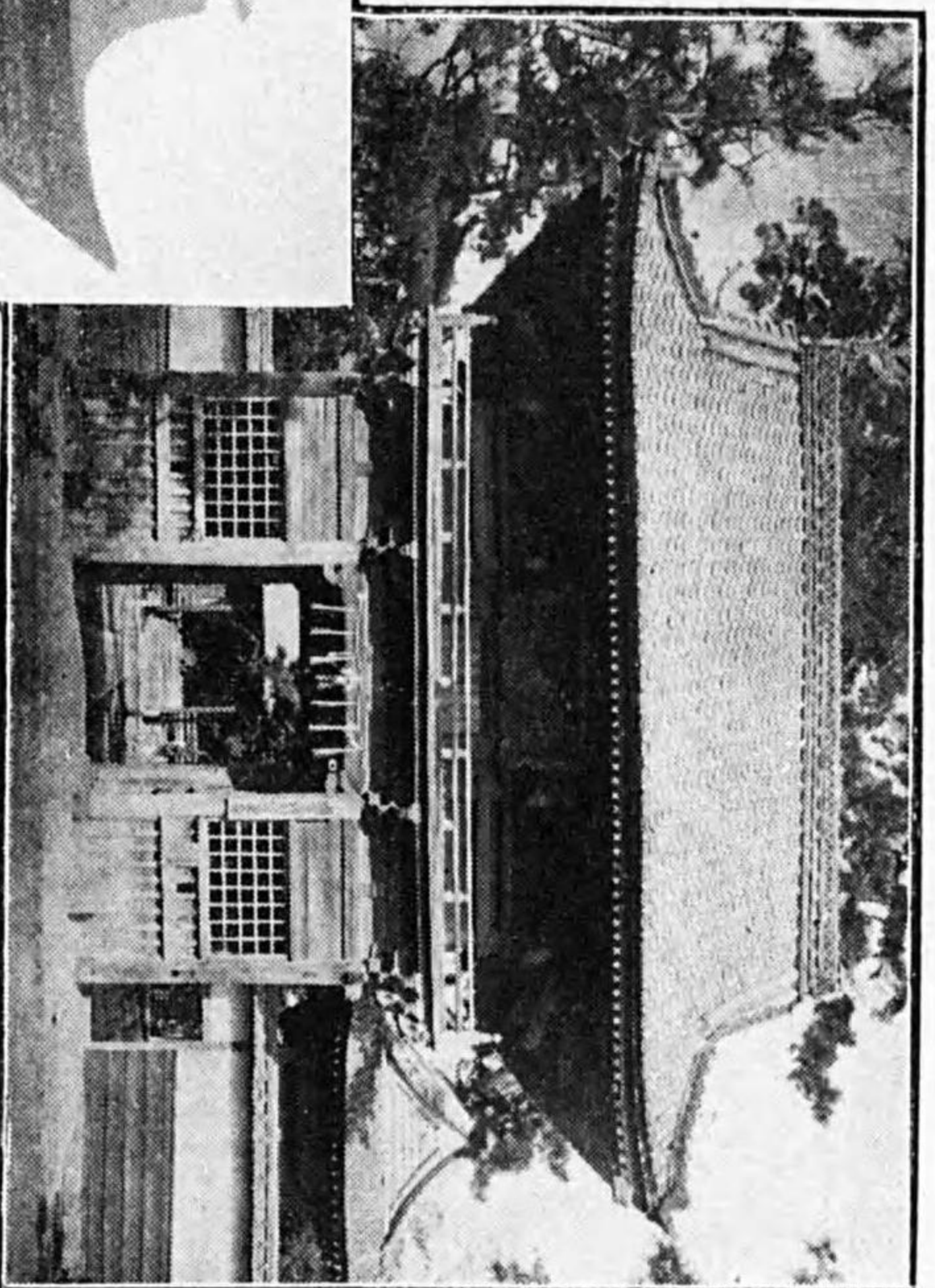
三三の寺三體



四上海の宮神田縣



熱田神宮の鎮皇門



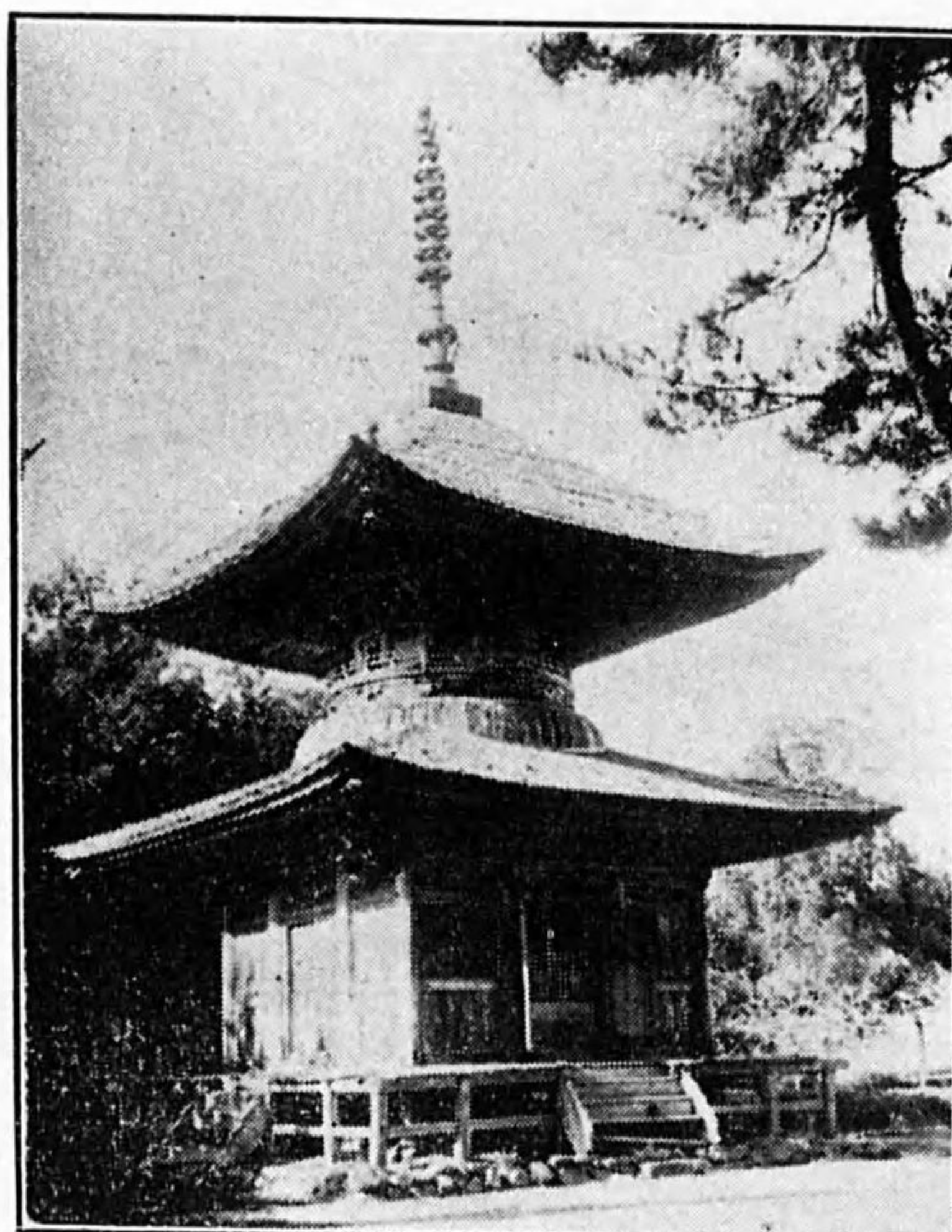
本遠寺の樓門



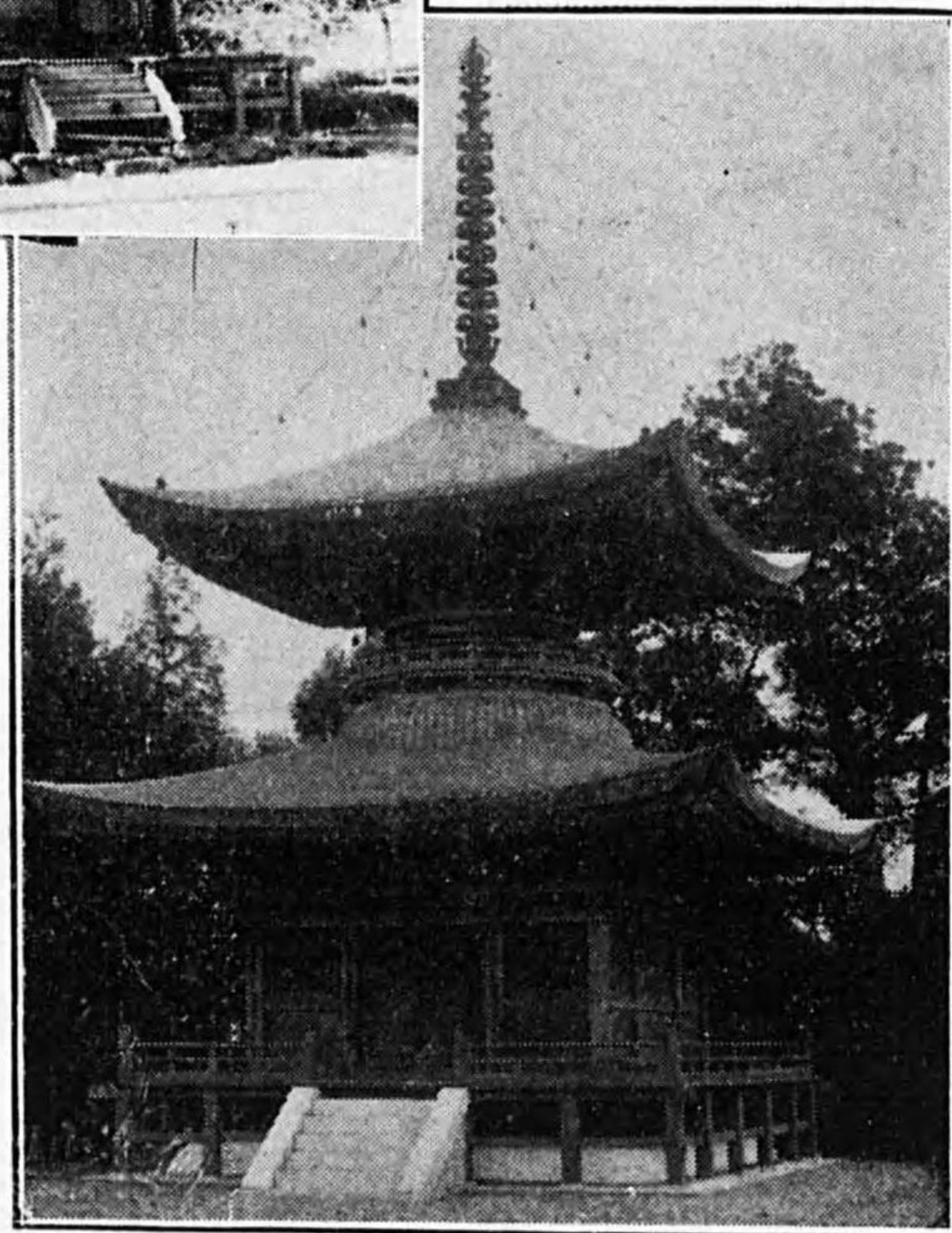
塔寶多の寺徳萬



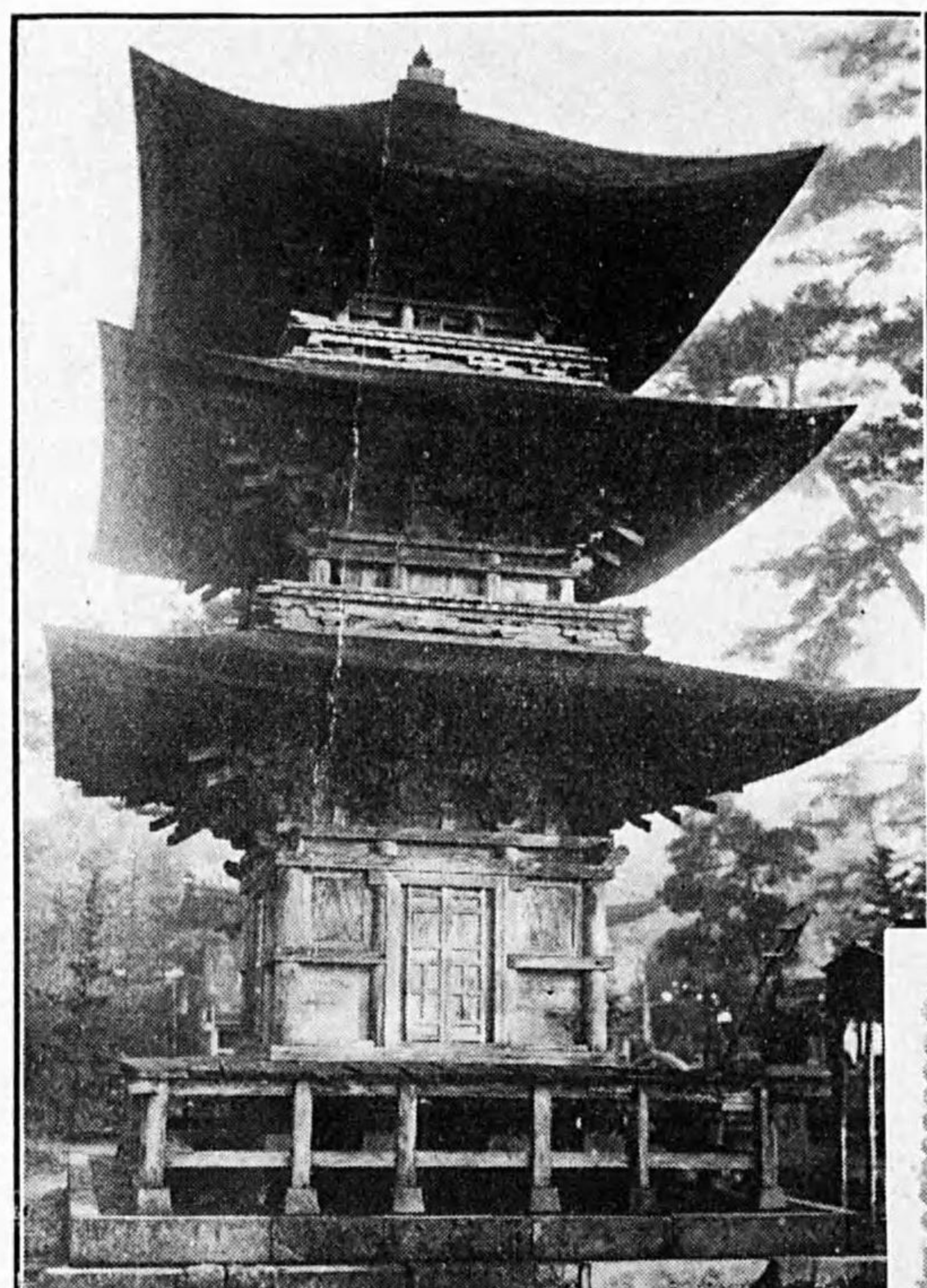
塔寶多の寺海性



密藏の院多寶塔



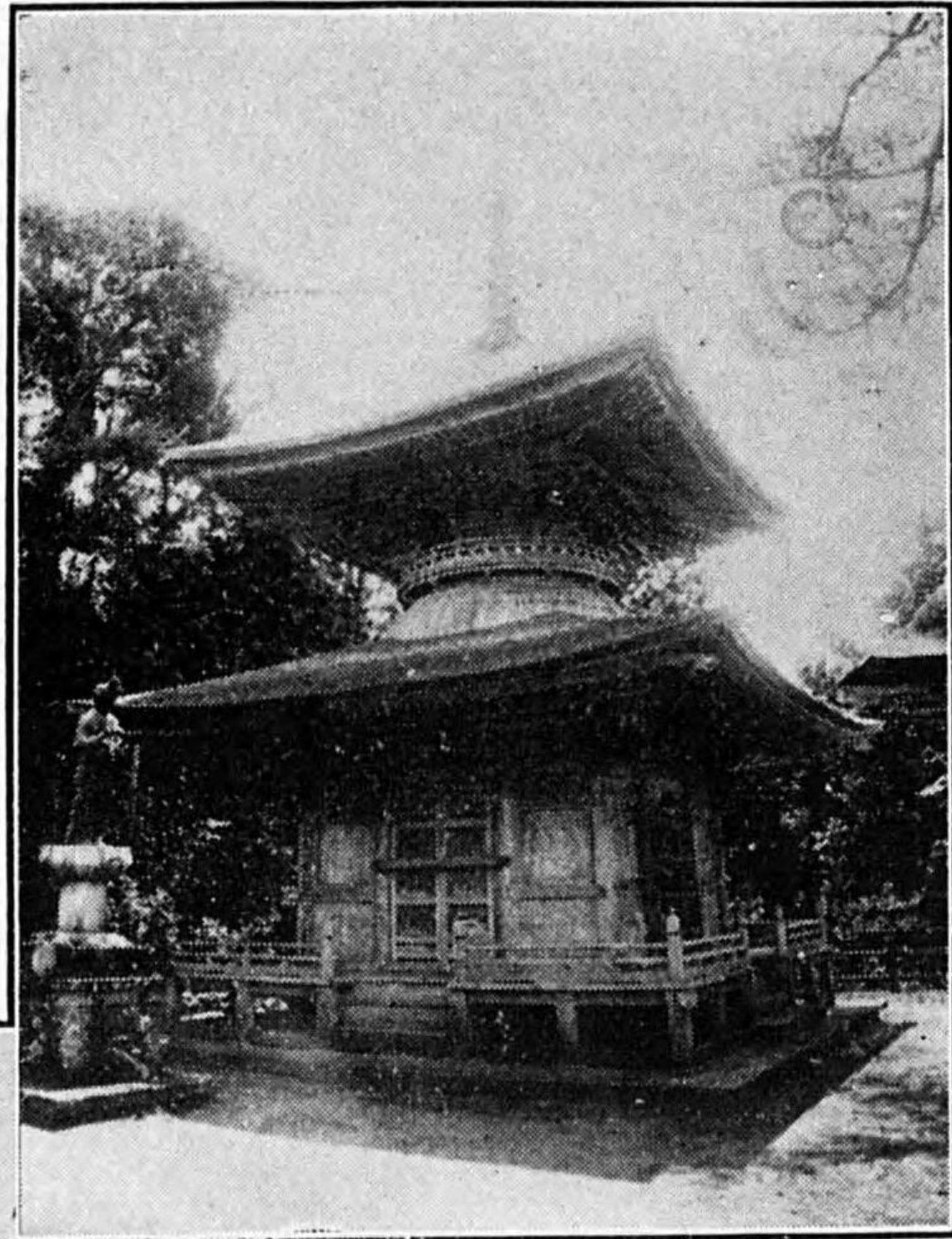
知立神社の多寶塔



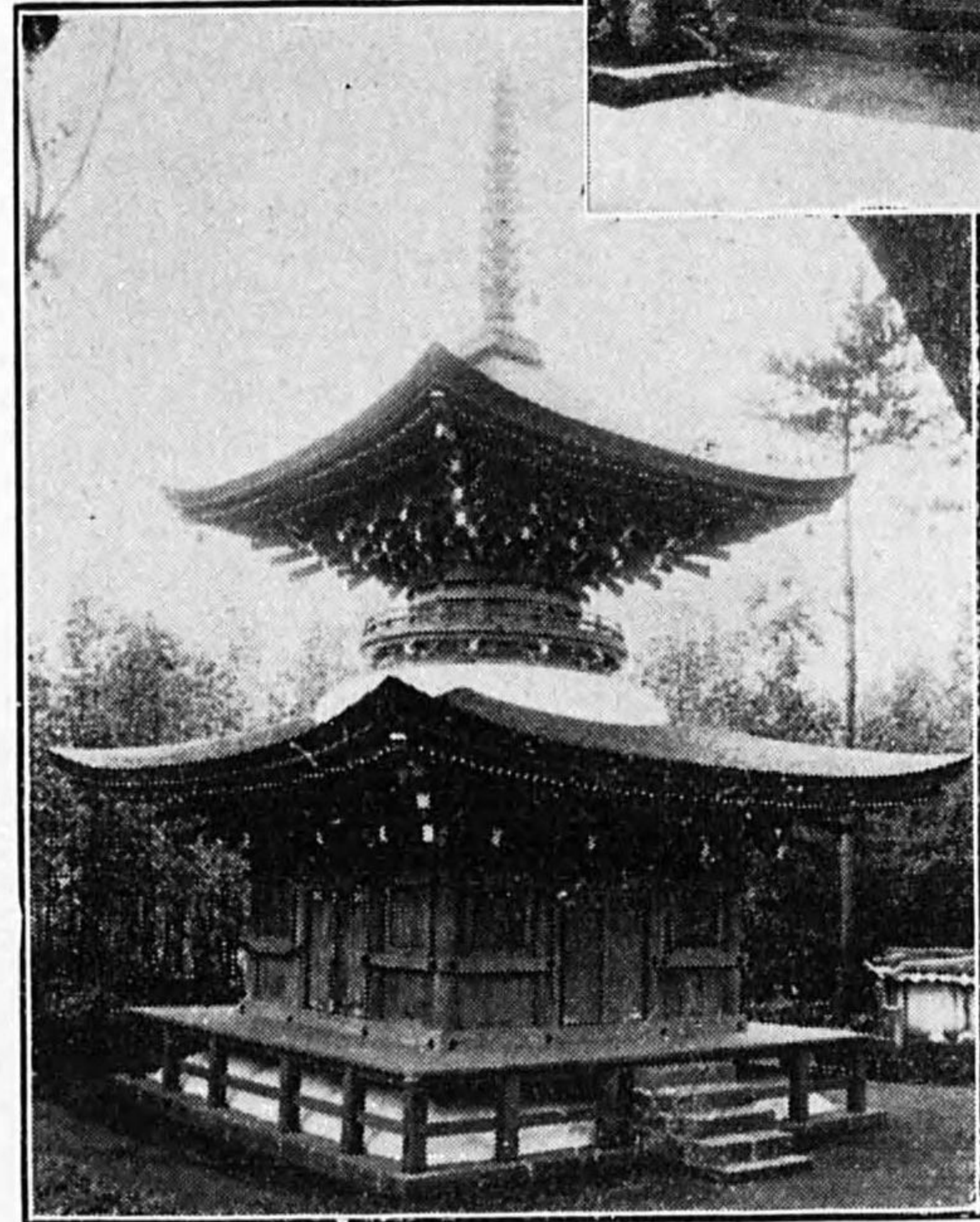
三明寺の三重塔



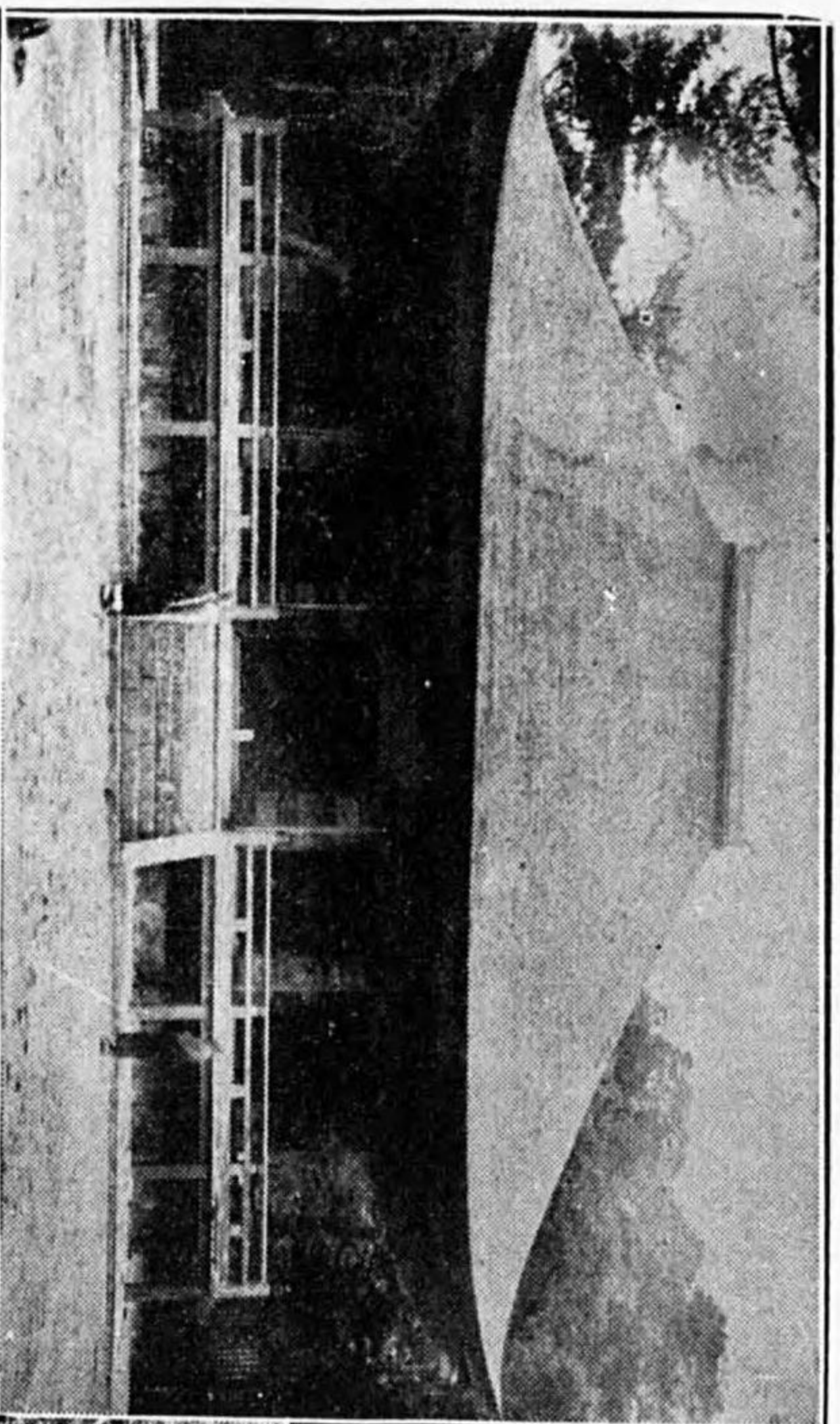
福壽院の多寶塔



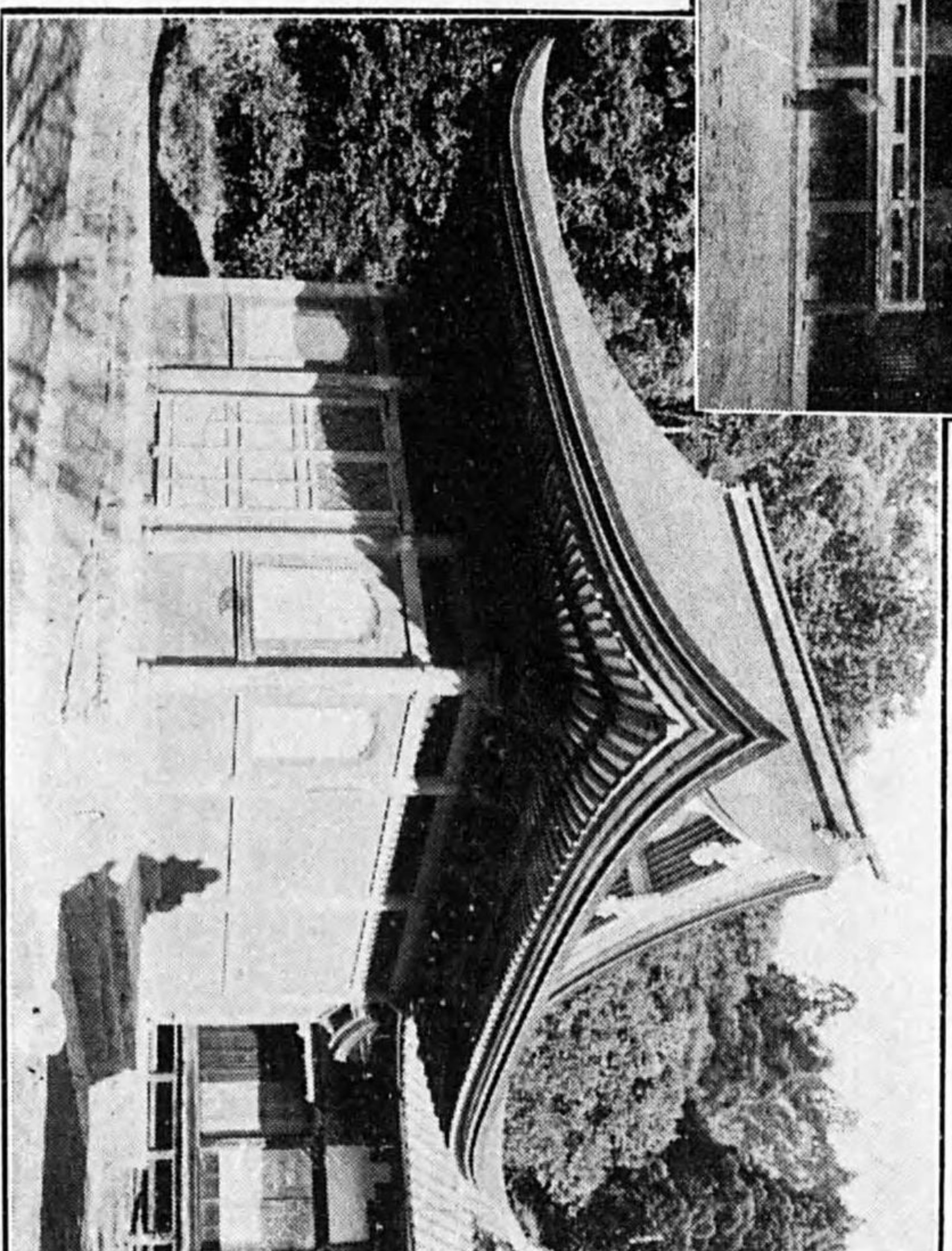
塔寶多の寺音觀東



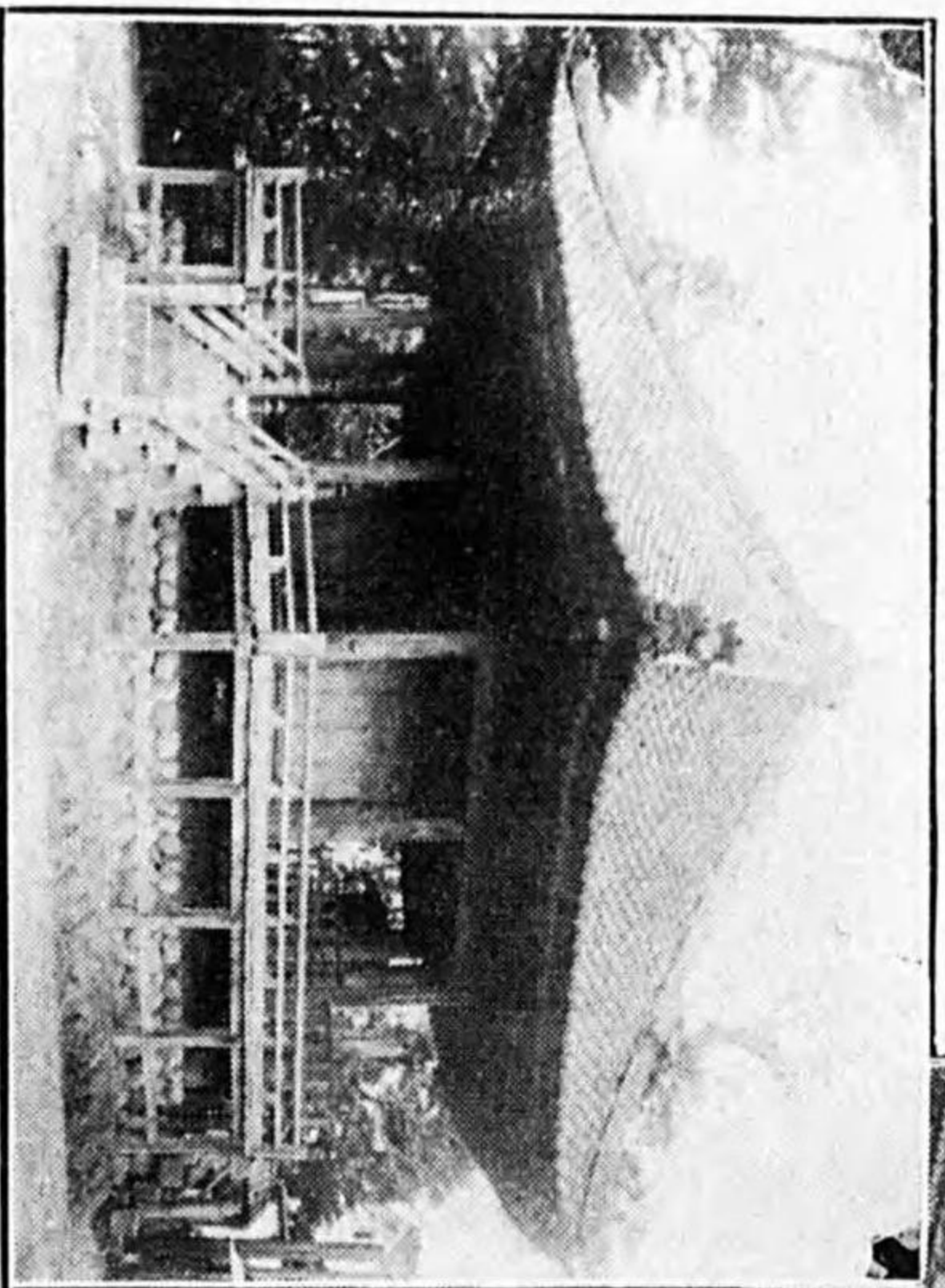
塔寶多の寺樹大



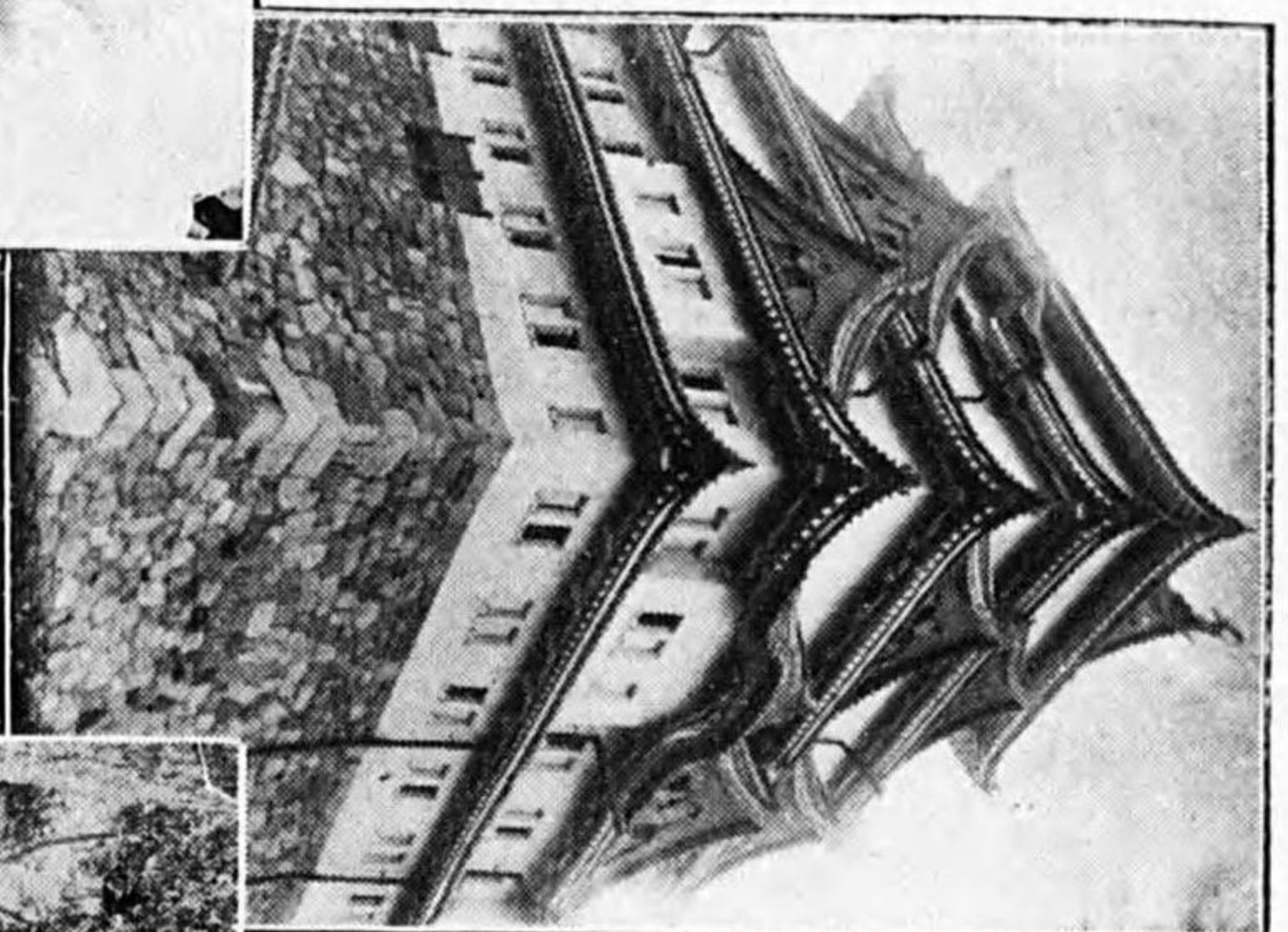
堂本の寺山瀧



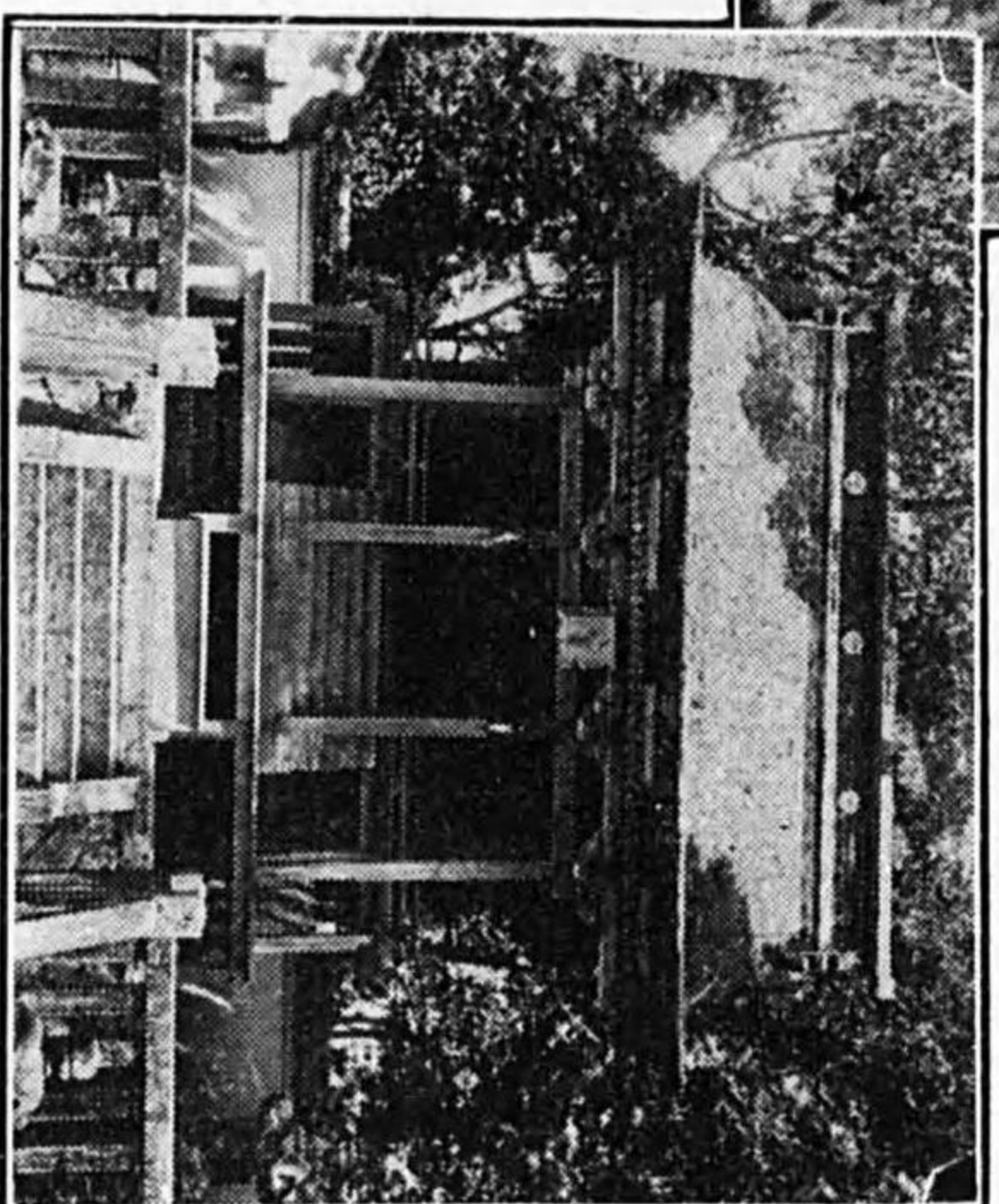
殿佛の寺恩天



堂角六の寺光長



名古屋城天守閣



殿本(町)岡福宮幡八

彫刻

木造藥師如來座像
一軀

昭和七年
十二月十四日

八名郡八名村大字庭野(大脇)
藥師堂

(解説) 像高一・二八米(四尺二寸二分)一木造、背剝アリ、藤原中期ノ製作デアル、容姿整美ヤ、豊満ニシテ偉風ヲ帯ビ、手法ハ和ラギヲ見セテキルガ纖弱ニ流レテ居ナイ、コノ地方ノ古像中ノ優作デアアル。

國寶(建造物)一覽

(昭和七年三月三十日現在)

名稱	構造形式	指定年月日	所在地及社寺名
熱田神宮 海上門	八脚門、屋根切妻造 檜皮葺 (桃山時代)	大正九年 四月十日	名古屋市南區熱田神宮坂町 熱田神宮
熱田神宮 鎮皇門	三間一戸樓門、屋根 入母屋造、正面軒唐 破風檜皮葺 (桃山時代)	昭和三年 四月四日	名古屋市南區熱田神宮坂町 熱田神宮

(解説) 元龜二年織田信長ガ改築シタト云フ簡明勁拔ナ八脚門デアアル、何等複雑ナ裝飾的手法ハナイガ形狀能ク整ツテ俊邁ノ氣人ニ迫ルヲ覺エシムルモノガアル。

(解説) 社傳天武天皇朱鳥元年創立今ノ建物ハ續撰清正記及腰組梓肘木等ノ墨書銘ニヨレバ慶長五年加藤清正ノ造營ニシテ三間一戸ノ樓門デアル、特ニ珍ラシキハ上層正面中央ノ間ニ大華燈窓ヲ開キ其上ニ軒唐破風ニ依ツテキルコトデアル、是レハ毎年五月五日神約祭ノ時神輿ヲ樓上ニ安置スルノ例ナルヨリカカル構造ヲナセシ者ニシテ他ニ全ク類例ガ無い、形態モ美シク細部モヨク桃山時代ノ特色ヲアラハシテキル。

七ツ寺 榎行五間梁間五間單層屋根四注造本瓦葺 (桃山時代) 明治四十三年 名古屋市中區門前町 寺

(解説) 寺傳天平七年僧行基創立天正十九年春日井郡朝日村ノ地ヲトシテ再興シ、慶長十五年徳川義直清洲城ヲ名古屋ニ移スヤ翌年寺亦隨テ今ノ地ニ遷ルト曰フ、其様式ハ足利末期ノ形迹ヲ存ジ特ニ内部佛壇尤モ古調ヲ帶ブ。

高岳院 三間一戸門、屋根切妻造本瓦葺 (桃山時代) 大正九年 名古屋市東區高岳町 院

(解説) 清洲城門ヲ移建シタルモノト云フ、三間藥醫門ノ形式ヲ以テ織豊式ノ氣魄ヲ示シタ誠ニ稀レナ遺構デアル、之レガ此種ノ建築テ特別保護建造物ニ指定セラレタ嘴矢デアル、

性高門 四脚門、屋根切妻造本瓦葺、(桃山時代) 大正九年 名古屋市中區門前町 院

(解説) 慶長十五年ニ清洲城カラ移建シタルモノト云フ、一種ノ四脚門デ中央唐戸上ノ大葦股ヤ拳鼻ノ手法ノ如キハ、其茫洋タル意匠鈍重ナ手法ガ却テ無限ノ妙味ヲ現ハシテ居ル、洵ニ能ク織豊時代ノ特色ヲ現ハシテ居ル。

本遠寺 三間一戸樓門屋根入母屋造棧瓦葺 (室町時代) 大正十年 名古屋市南區熱田田中町 寺

(解説) 建立年代ハ明カデナイガ恐クハ元龜天正頃ニ再建サレタ者デアラウ、三間一戸ノ樓門デ屋根ヲ後世棧瓦葺ニシタタメ、多少外觀ノ美ヲ損ジタケレドモ形態モヨク整ヒ手法モ美デアル、其葦股ノ形ニモ變化ガアルガ、其内部ノ彫刻ガ一々意匠ヲ異ニシテキルノモ面白イ其他各種ノ繪様ハ頗ル室町時代ノ佛ヲ殘シテキル。

觀音寺塔婆 三間二層塔婆屋根銅板葺、(室町時代) 大正十年 名古屋市南區荒子町 寺

(解説) 今屋蓋ヲ假リニ銅板葺トナモルヲ以テ多少ノ外觀ヲ損ジタ様デアルガ、形態様式共ニ觀ルベク天文五年五月再興ノ建築トシテヨク當時ノ特色ヲアラハシテキル。

福壽院塔婆 三間二層塔婆屋根檜皮葺、(室町時代) 明治四十三年 一福宮市 院

(解説) 寺傳當寺ハ神龜年間僧行基創立弘仁年間空海七堂伽藍ヲ建立セリト、塔婆再建年代未詳ナル

ガ様式ヲ見ルニ足利時代ニ屬スルモノノ如ク形狀美斗拱其ノ他ノ手法觀ルベキデアアル。

密藏院塔婆
(多寶塔) 三間二層塔婆屋根柿 大正九年四月十五日 東春日井郡篠木村大字熊野院

(解説) 本邦幾多ノ多寶塔中其形狀ガ溫雅デ趣味ニ富ンデキルモノノ一ツデアアル、普通ノ多寶塔ニ共通ナル動モスレバ纖弱煩瑣ニ陥ラウトスル傾向ハ此塔ニ於テ全然見ルコトヲ得ナイ建築年代ハ足利ノ初期デアラウ。

定光寺
(佛殿) 桁行五間梁間五間重 大正十五年四月十九日 東春日井郡品野町字沓掛寺
層上層假屋根切妻造
柿葺、(室町時代)

(解説) 建武三年ノ創立明應二年再建ニシテ永正七年大地震ノ爲メ、大破シ天文三年修理再興セシ者即チ今ノ佛殿ニシテ後世上層ノ斗拱以上ヲ撤却シ假屋根ヲ架セシタメ、大ニ外觀ヲ損ゼシモ其他ハ當初ノママ能ク保存セラレ初層ノ斗拱蝦虹梁棧唐戸其他大小ノ厨子三所皆室町時代中期ノ優秀ナル様式ヲ示セルノミナラズ須彌壇ノ高欄ノ端ニ鯨形ヲ刻メルハ珍シキ手法デアアル

龍泉寺
仁王門 三間一戸樓門屋根入 昭和三年四月四日 東春日井郡志段味村字吉根寺
母屋造棧瓦葺 (桃山時代)

(解説) 寺傳ニヨレバ寺ハ傳教大師ノ創建ニシテ天正十二年兵火ニカカリ、慶長三年中興秀純和尚本

堂多寶塔等ト共ニ今ノ仁王門ヲ再興シタノデアアル仁王門ハ規模壯大ナル樓門ニシテ其細部及ビ各種ノ繪様彫形ハ頗ル雄健ノ性質ヲ發揮シテキル。

高田寺
本堂 桁行五間梁間五間單 大正九年四月十五日 西春日井郡師勝村大字高田寺
層屋根四注造茅葺 (鎌倉時代)

(解説) 桁行五間梁間五間ノ本堂デ其形狀ガ極メテ莊重雄麗ナモノデアアル、其木割ハ甚ダ重厚堅實デ様式手法ノ上カラ見ルト鎌倉中期又ハ末期ニ屬スルモノデアアル、實ニ尾州平野ニ於ケル第一ノ美建築ト云フテ差支ナイ。

萬德寺塔婆
(多寶塔) 三間二層塔婆屋根檜 明治三十四年三月二十七日 中島郡稻澤町大字長野寺
皮葺 (室町時代)

(解説) 建立年代詳カデナイガ様式室町時代ノ特徴アリ、下層方三間屋根檜皮葺、軒纖細ナル二重檜種ヲ分布シ、斗拱方柱又木割極メテ纖麗四方廻椽ヲ繞ラシ、上層ハ型ノ如ク龜腹ヲ作り内ニ十二本ノ圓柱ヲタテ、四手先斗拱ヲ組ミ尾椽ヲ出シ寶形ノ屋蓋ヲ受ケ屋頂相輪ヲ立ツ、形態上下兩屋蓋ノ間隔稍高キニ失セルト屋根流レノ稍急ナルニヨツテ權衡ヲ失スルノ憾ガアル。

性海寺塔婆
(愛染堂) 三間二層塔婆屋根銅 明治三十六年四月十五日 中島郡稻澤町大字大塚寺
板葺 (室町時代)

(解説) 建立年次確カテナイが恐ラク室町中期ノ建築デアラウ、下層方三間上層龜腹ノ上ニ建テル圓筒形デ各屋蓋銅板葺、其ノ勾配頗ル緩カデ輕快優雅ノ姿致ガアル、軒二重繁極斗拱下層ハ出組上層ハ尾極ヲ加ヘタ四手先、柱ハ下層方柱面取上層圓柱、兩層トモ腰ニ廻椽ヲ繞ラシ高欄ハ下層ニ之ヲ缺如ス、内部床拭板敷四天柱内愛染明王ヲ祀ル、屋頂ノ相輪ヨリ上層下層ノ廣狹イヅレモ諧調ヲ保ツテ頗ル優美ノ權衡ヲ有シテキル。

長光寺地藏堂(六角堂) 六角圓堂單層屋根棧 瓦葺 (室町時代) 明治三十九年四月十四日 中島郡大里村長光寺

(解説) 寺傳永享七年再建天正十八年再營トアリ、高三十一尺一寸一分六角圓堂、單層屋根棧瓦葺、寶珠露盤鐵製軒二重繁扇垂木斗拱唐様三ツ斗、斗拱間箕束、總圓柱、外陣總開放、廻椽勾欄付内部外陣化粧屋根裏、床板敷内陣斗拱唐様出組臺輪付正面一間格子戸兩脇間板戸後三間嵌板格天井、床疊敷、内外素木造。

妙興寺 勅使門 四脚門屋根切妻造棧 瓦葺 (室町時代) 大正九年四月十五日 中島郡大和村大字妙興寺

(解説) 妙興寺ハ近畿地方以外稀ニ見ル禪宗ノ大伽藍デ七堂ノ跡ガ今ニ残ツテ居ル、其勅使門ハ貞治五年後光嚴天皇ノ勅願ニ由テ建立シタト言ヒ傳ヘラレル、一種ノ四脚門デ形式手法モ創立當時ノ風ヲ存シ意匠頗ル奇巧ナモノデアアル。

甚目寺 南大門 三間一戸樓門、入母屋造柿葺 (鎌倉時代) 明治三十三年四月七日 海部郡甚目寺村 甚目寺

(解説) 建久七年ノ再建ニカカルモノデ、重層屋根柿葺軒二重繁極ヲ分布シ軒天井支輪ヲ構ヘ斗拱尾極付三手先、中備ヘ斗束ヲ置キ總圓柱デ前後兩間中央間ニ板唐戸ヲ置キ兩脇間及左右兩側面箴板張りトシ腰ニ高欄ヲ施コセル廻椽ヲ繞ラス腰組上層同様三手先斗拱トシ斗束ヲ中備ヘトシ圓柱ヲ立テ頭貫ノ末端柱外ニ貫通シ一種ノ繪様彫刻ヲ施ス、中央間ヲ出入口トシ兩脇間ニ仁王像ヲ置ク。

津島神社 本殿 三間社流造、屋根檜皮葺 (桃山時代) 大正九年四月十五日 海部郡津島町 津島神社

(解説) 傳ヘテ織田信長ガ天正七年ニ建立シタト云フ、規模ノ雄大ナ裝飾ノ強烈ナ我國神社建築中有數ノ傑作デアアル蟻股内ノ彫刻ガ一部ハ既ニ桃山式ノ立體寫生的トナリナガラ一部ニ尙足利末ノ平文様式ノ意味ヲ殘シテ居ルノハ極メテ興味アル所デアアル。

知立神社 塔婆 三間二層塔婆屋根本瓦葺 (室町時代) 明治四十年五月二十七日 碧海郡知立町 知立神社

(解説) 社傳永正六年三月再建、明治元年知立文庫ト稱ス棟高三丈三尺、初層二重繁極木斗拱和様出

組支輪付方柱臺輪長押付正面中間棧唐戸兩脇間連子窓左右側面中間連子窓兩脇間板後面板板四方廻椽、内部棹椽天井拭板敷、二層圓形軒二重繁極木斗拱唐様二手先尾極木付圓柱臺輪長押付柱間總箆板濱椽句欄付椽腰組三ツ斗内外素木造。

柳源寺

方三間單層屋根四注造銅板葺(室町時代)

明治三十六年四月十五日

碧海郡矢作町字桑子源

寺

(解説)

文和三年ノ建立トイフ様式之ニ相當シテキル、堂ハ方三間單層屋根四注造銅板葺デ前面ニ一間ノ向拜ヲ附シテアル、軒頗ル深ク種二重本繁極木割幾分雄大ノ性質ヲ帶ブ斗拱三ツ斗ヲ組ミ中備ヘニ斗拱ヲ配シ總圓柱、四方ニ廻椽ヲ繞ラス、向拜ハ面取セル方柱ヲ用ヒ繫虹梁ヲ架ケ斗拱ヲ組ミテ軒ヲ支持シ斗拱裏ニ手挾ヲ用フ、此ノ手挾ミノ彫刻ヨク室町初期ノ特徴ヲ傳ヘテキル、堂ノ内部ハ床總拭板敷、天井竿縁天井デ一本ノ柱ヲ有セヌ、内外陣ノ區劃ナク後方中央ニ須彌壇ヲ設ケタニ過ギヌ稍珍ラシキ例デアアル、木割ハ一般ニ雄大ノ性質ヲ帶ビ斗ノ寸法高クヨク鎌倉末期ノ手法ヲ存シテキル。

彌金蓮寺

桁行三間梁間三間屋根四注造棧瓦葺(鎌倉時代)

大正九年四月十五日

幡豆郡横須賀村金蓮

寺

(解説)

傳ニ文治二年源頼朝ガ建立シタト云ツテ居ルガ、實ニ其時代ニ相當シタモノデアアル、尾參地方デ發見セラレタ最古ノ建築デ其軸部ノ柱舟肘木丸桁ガ遞次ニ其大面内ニ收マツテ行ク手法ヤ極メテ緩ナル廂ノ化粧極ノ勾配ヤ内部ノ小組格天井ナド如何ニモヨク鎌倉時代初期ノ様式

ヲ現ハシテ居ル。

幡豆神社

三間社流造、屋根檜皮葺(桃山時代)

大正十年四月三十日

幡豆郡吉田町幡豆神社

(解説)

天正八年ノ再建デ三間社流造檜皮ヲ以テ葺テキル規模大ナラザレドモ、手法堅實繪様ハ雄健ナル曲線ヲ用キ蟻股ノ形モ内部ノ彫刻モ素朴デ却テ面白味ガアル。

瀧山寺

三間一戸樓門、屋根入母屋棧瓦葺(鎌倉時代)

明治三十四年三月二十七日

額田郡常磐村大字瀧山

寺

(解説)

文永四年ノ建立ト傳ヘテキル、屋根ノ流レハサシテ緩カデナイガ反轉ガアリ、軒稍雄大ノ性質ヲ帶ビタニ重層繁極デ支輪小天井ヲ備ヘ、斗拱尾極付和様三手先組物ヲ使用シ中備ヘ斗束ヲ置キ頭貫ノ未端拳鼻ヲナシテキル、前後兩面中間ハ幣軸ヲ施コシ葺戸ヲ箆メ兩脇間及兩側面各間板壁ヲ作ツテアル、腰ハ輕キ高欄ヲ繞ラセル廻椽ヲ設ケ其腰組ハ三手先斗拱ヲ組ミ圓柱ヲ立テ中備二段ノ斗束ヲ配シ頭貫ノ末端上層ニ同ジク木鼻ヲ作ル、特ニ隅柱ニ於テ頭貫ノ一端ヲ承クルニ一種ノ繪様彫刻ヲ施セル肘木ヲ備ヘタハ全ク天竺様ノ手法ニ屬シテキル。

瀧山寺

桁行五間梁間五間單層屋根四注造、棧瓦葺、(鎌倉時代)

明治三十七年二月十八日

額田郡常磐村大字瀧山

寺

(解説)

寺傳貞應元年再建ト云フ棟高二十九尺單層屋根四注造軒二重檼垂木斗拱和様三ツ斗、斗拱間箕束總圓柱正面五間唐戸兩側面内陣各一間窓左側面一間引戸其他笹板、後面中ノ間及左次ノ間引戸其他笹板廻椽寶珠柱勾欄正面及左側石階付内部内陣正面中三間格子兩端ノ間引戸内外陣入側化粧屋根裏其他棟椽天井總拭板敷内外素木造内陣中央ニ須彌壇ヲ設ク。

信光明寺
觀音堂

方三間單層屋根入母屋茅葺、(室町時代)

明治三十七年二月十八日

額田郡岩津村 信光 明寺

(解説)

寺傳文明十年四月創立ト云フ高二十八尺六寸、方三間單層屋根入母屋造軒二重檼垂木、斗拱唐様二手先詰組尾垂木臺輪付總圓柱、内陣斗拱、圓覺寺金殿様入側化粧屋根裏、内板違格天井正面中央扉兩端間檼遺戸右脇前一間引戸其他總笹板内部床拭板敷内外素木造。

大樹寺塔婆
(多寶塔)

三間二層塔婆屋根本瓦葺、(室町時代)

明治三十七年二月十八日

額田郡岩津村嶋田大樹寺

(解説)

寺傳天文四年四月松平清康創建高四十四尺三間二層塔婆、初層軒二重檼垂木斗拱和様二手先尾垂木支輪付斗拱間正面蠅股、其他平束四面中央各一間唐戸其他櫃子窓内部小組格天井、二層軒二重檼垂木斗拱和様四手先二重尾垂木支輪組入小天井圓形十二間四方一間唐戸其他笹板廻椽勾欄付椽腰組出組相輪鐵製内外素木造。

天恩寺
佛殿
(地藏堂)

桁行三間梁間三間單層屋根四注造、柿葺、(室町時代)

明治四十年五月二十七日

額田郡豐富村大字片寄天恩寺

(解説)

寺傳貞治元年創建高二十四尺二寸、斗拱唐様出組總圓柱臺輪附正面中ノ間棧唐戸兩脇間瓦燈窓左右側面前一間各瓦燈窓其他ノ間及後面總テ笹板、内部天井鏡天井、七間中央ニ須彌壇ヲ置キ後兩端ノ間ニ佛壇ヲ設ク内外素木造、

天恩寺
山門

桁行一間梁間一間屋根切妻造、棧瓦葺、(室町時代)

明治四十年五月二十七日

額田郡豐富村大字片寄天恩寺

(解説)

高麗門軒一重疎垂木小舞裏斗拱唐様三ツ斗手挾付本柱共ニ圓礎盤付繫貫三通一戸扉付妻飾三ツ斗大瓶束總テ素木造。

八幡宮
本殿

三間社流造、屋根檜皮葺、(室町時代)

大正十五年四月十九日

額田郡福岡町八幡宮

(解説)

創立年代不詳其構造様式ヲ見ルニ室町時代後期ニ屬シテキル様デアル、永祿年間三河一揆ノ際其ノ附近ノ民家燒キ拂ハレシモ社殿ハ其災ヲ免ガレタリト傳ヘレドモ、或ハ其時燒ケテ間モナク再建シタノデハナイカト思ハレル、三間社流造ニシテ其平面ニ多少ノ特質ヲ示シ細部織細ニシテ手挾拳鼻蝦虹梁等ノ繪様彫刻ニ觀ルベキ所ガアル。

八幡神社
本殿

三間社流造、屋根檜皮葺、(室町時代)

明治四十年五月二十七日

東加茂郡足助町八幡神社

(解説)

社傳文正元年再建、高二尺七寸五分、箱棟鬼板付軒二里檼垂木斗拱和様三斗、斗拱間箕束

圓柱二重長押付、向拜柱方柱繫虹梁、手挾正面三間左右側面前一間各板唐戸次一間壁後面總壁向拜ノ間左右ニ壁ヲ付シ武者窓ヲ設ク(後世附加)三方廻椽勾欄袖障子付正面木階段六級登勾欄付内部棹縁天井疊板敷内外素木造。

八幡宮 三間社流造、屋根柿 明治四十年 五月二十七日 寶飯郡八幡村 八幡宮

(解説) 社傳文明九年建造、桁行十八尺梁間十八尺棟高廿一尺三間社流造屋根柿葺箱棟鬼板付軒二重繁垂木斗拱和様三ツ斗、斗拱間藁股方柱内陣圓柱、二重長押付、外陣正面三間菱格子引戸左右側面舞良戸、内陣正面三間唐戸左右側面及後面總簾板、三方廻椽袖障子但シ勾欄付正面木階七級寶珠柱登勾欄付内部内陣棹縁天井、拭板敷、外陣化粧屋根裏拭板敷、妻飾虹梁大瓶束斗拱等隨所鍍金金具打内外素木造。

三明寺 三間三層塔婆、屋根 明治四十年 五月二十七日 寶飯郡豊川町 三明寺

(解説) 寺傳應永年中建立、高五十一尺、三間三層塔婆屋根柿葺、初層及二層二重繁垂木、三層二重扇垂木、斗拱每層唐様三手先尾垂木支輪組入小天井付斗拱間箕束總圓柱初層四方中央間各棧唐戸兩脇間各椽子窓四方廻椽内部格天井、拭板敷二層中間板唐戸兩脇簾板濱椽勾欄付腰組三ツ斗、三層中間各棧唐戸兩脇簾板濱椽勾欄付腰組三ツ斗内外素木造リ。

大恩寺 桁行五間梁間五間屋 大正十年 四月三十日 寶飯郡御津村大字廣石 大恩寺

(解説) 念佛堂ハ天文二十二年ノ建立デ屋根ハ當初柿板葺デアツタノヲ、後世檼瓦葺ニ改メタカラ多少外観ノ美ヲ傷ケタケレドモ構造手法共ニ觀ルベク繪様亦堅實ナル曲線カラ成ツテキル、特ニ内部ノ須彌壇及ビ厨子ハ其様式其裝飾共ニ室町時代此種ノ白眉デ透彫ノ意匠手法共ニ見事デアアル、又屋根ノ上ニ上ゲテアル鯨ト三花懸魚トハ現存我國最古ノ實例デ建築史上最モ重要ナモノデアアル。

東觀音寺 三間二層塔婆、屋根 明治四十年 五月二十七日 渥美郡二川町 東觀音寺

(解説) 寺傳大永八年創建慶長十四年修造高三十七尺五寸三間二層塔婆屋根柿葺、軒每層扇垂木斗拱初層唐様出組斗拱間中ノ間藁股其他箕束、二層唐様四手先二重尾垂木板小天井附總圓柱藁輪付初層四方中間唐戸其他簾板四方廻椽、勾欄付二層四方各一間唐戸其他簾板濱椽勾欄付椽腰組唐様三ツ斗、内部鏡天井拭板敷相輪鐵製内外素木造。

久麻久神社 三間社流造、屋根銅 昭和四年 四月十七日 幡豆郡西尾町大字八ッ面 久麻久神社

(解説) 由緒記ニハ永祿ノ頃徳川家康社殿ヲ今ノ地ニ移建シタト載セテキルガ、當社ニ寶徳元年ノ銘

ヲ有セル罅口ガアルカラ或ハ此罅口ト同ジ頃ノ建築デアルカモ知レヌ、規模稍大葦股ノ輪廓内部ノ透彫竝ニ頭貫ノ繪様手挾ノ彫刻ナド、何レモ雄健ノ風ヲ帶ビ室町時代ノ特質ヲ示シテキル。

大天守 五層天守(地階一層)、屋根五重、第一重本瓦葺、第二重以上銅瓦葺
 小天守 二層天守(地階一層)、屋根二重、本瓦葺
 西南隅櫓 三層櫓、屋根二重、本瓦葺
 東南隅櫓 三層櫓、屋根二重、本瓦葺
 東北隅櫓 三層櫓、屋根二重、本瓦葺
 西北隅櫓 三層櫓、屋根二重、本瓦葺
 表北門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 表南門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 東之門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 東二之門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 東一之門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 不之門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 正明門 櫓門、屋根三層、本瓦葺
 玄關 桁行五間、梁間五間、單層、屋根入母屋造
 附車寄 桁行二間、梁間一間、單層、隅木入向
 大廊下 桁行六間、梁間三間、單層、屋根兩下、
 表書院 桁行九間、梁間八間、單層、屋根入母屋
 附溜ノ間 挑行六間、梁間三間、單層、屋根四
 注造、棧瓦葺
 渡廊下 桁行二間、梁間一間、單層、屋根兩

昭和五年
 十二月十三日

名古屋城

名古屋市西區南外堀町六丁目
 一番地 名古屋市

御殿

對面所 桁行六間、梁間六間、單層、屋根入母屋
 梅之間及鸞廊下 桁行四間、梁間三間、單層、屋
 附廊下 桁行二間、梁間一間、單層、屋根葺下
 上洛殿 桁行九間、梁間六間、單層、屋根入母屋
 附雁廊下 桁行四間、梁間一間、單層、屋根兩下
 湯殿書院 桁行十間、梁間四間、突出、桁行二間
 瓦葺、各單層、屋根入母屋造、棧
 黒木書院 桁行五間、梁間三間、單層、屋根入母
 附朝顔廊下 桁行四間、梁間北面二間、單層、屋
 上御膳所 桁行五間、梁間四間、單層、屋根入母
 附廊下 桁行三間、梁間一間、單層、屋根葺下
 下御膳所 桁行八間、梁間五間、單層、屋根入母
 柳之間及孔雀之間 桁行七間、梁間五間、單層、
 屋根北面入母屋造、棧瓦葺
 上臺桁 桁行十一間、梁間五間、單層、屋根切妻造
 棧瓦葺

(解説) 名古屋城ハ徳川家康ガ其子義直ノタメニ經營セシモノニシテ、慶長十五年二月起工前田利光

(利常)毛利秀就、黒田長政、細川忠興、山内康豊(忠義)蜂須賀至鎮、鍋島勝茂、加藤清正、福島正則、池田輝政、淺野幸長等ノ諸大名ヲシテ役ヲ助ケシメタ、清正特ニ請フテ獨力天守ヲ築造シテ八月廿七日竣功シタ其他ノ工事モ其前後ニナリ翌十六年中略殘工事ヲ終ツタ。本丸内ノ御殿ハ慶長十七年正月ノ頃ヨリ着手十八年表向御殿大概竣工シ、十九年大奥向ノ御殿落成シ翌廿年正月城主義直此ニ居テ定メタ右御殿ノ建造物ノ中黒木書院及ビ對面所ハ清洲城ヨリ移建シタモノトイハレテキル、元和六年二月義直二ノ丸ノ新殿ニ移リ住スルニ及ビ悉ク大奥ノ御殿ヲ毀テ寛永年中徳川家光上洛ノ際新タニ上洛殿及上臺所ヲ増築シタ。明治六年一月名古屋ニ鎮臺ヲ置カレシヨリ同廿年十一月マデ本丸ヲ以テ司令部ニ宛テタ、廿六年五月九日宮内省ノ所管トナリ、名古屋離宮ト稱セラレシガ昭和五年十二月十一日全離宮ヲ舉ゲテ名古屋市ニ下賜サルコトトナツタ。今回國寶ニ指定セラレタル建造物ハ舊離宮ニ屬セシ本丸ノ諸建造物及ビ御深井丸ノ西北櫓並ビニ西ノ丸ニアル正門ニシテ、本丸ノ諸建造物ノ建築年代ハ前記ノ如ク御深井丸ノ西北櫓ハ清洲城ヨリ移築セシモノ西ノ丸ニアル正門ハ明治四十三年舊江戸城ノ蓮池門ヲ移シ建テタモノデアアル、要スルニ本丸ニ於ケル天守ハ小天守ヲ始メ諸隅櫓諸櫓門等ハ桃山時代ニ於ケル城郭建築ノ最發達セル代表的遺構ニシテ規模ノ宏壯構築ノ嚴麗現存我國城郭建築ノ稱首ト稱スベキモノデアアル、又御深井丸西北櫓並ビニ西ノ丸正門亦夫々桃山時代ノ初期及ビ江戸時代ニ於ケル此種建造物ノ形式ヲヨク代表シテキル現存御殿ハ専ラ表向ニ屬セシモノニシテ、主トシテ慶長寛永兩期ノ經營ニ成リ後世多少ノ補修アレドモヨク當初ノ構造裝飾ヲ保存シ桃山時代及ビ江戸時代初期ニ於ケル最モ華麗ナル書院造ノ實例トナツテキル。

八幡宮本殿 三間社流造 昭和六年 額田郡福岡町大字福岡 宮
 屋根檜皮葺 一月十九日 八幡

(解説) 社傳ニヨレバ本社ハ永祿七年三月三州一向宗騒亂ノ際兵燹ニ罹リシガ後徳川家康ソノ臣石川數正ヲ遣ハシ再興セシモノ即チ今ノ社殿デアルトイフ、木割小ニシテ優雅ノ風ヲ示シ拳鼻手挾實肘木ノ割形虹梁大瓶束ノ手法皆室町時代末期ノ特質ヲ帯ビテキル從來覆堂(大正三年撤去)内ニアリシガタメ柱ノ根繼ト濱牀廻椽ノ床板ヲ補修セル外斗拱極木高欄ニ至ルマデヨク當初ノ材料ヲ保存シテキル。

昭和七年三月十五日印刷
昭和七年三月三十一日發行

(非賣品)

編纂者
發行者

愛

知

縣

印刷人

江

場

東

重

名古屋市中區南久屋町三丁目四番地

印刷所

名古屋印刷株式會社

名古屋市中區南久屋町三丁目四番地

14.5
724

終

